平成２５年度　大仙市立中学校生徒海外派遣事業

オーストラリア研修　報告書

平成２６年１月３日（金）～１月１０日（金）

■旅行日程：2014年1月3日（金）～1月10日（金）

日程		地名	現地時刻	交通機関	行程	朝食	昼食	夕食
1	1/3（金）	大仙市役所（集合） 大仙市役所発 成田空港着 成田空港発	07:30 08:00 18:00 20:10	貸切バス JQ026	1階市民ホール集合　出発式 貸切バスにて成田空港へ （途中、サービスエリアにて昼食・休憩を取りながら向かいます。） （＊不要な上着はバスに置いていきます。） 出国手続き後、ジェットスター航空にて空路、ケアンズへ （所要7時間40分）　【機中泊】	×	×各自	○機内
2	1/4（土）	ケアンズ空港着 ケアンズ空港発 マンガリフォールズ着	04:50 06:20 08:00 08:30 09:00 11:00	専用車	入国手続き後、マンガリーへ移動（所要：約1：40） レインフォレストロッジにて朝食 バナナ農園の清掃後、バナナマフィン作り（体験） オリエンテーション（心構え、マナー等の説明）後、 ホストファミリーと面会（4家庭）　ファームステイ先へ移動 オーストラリア体験生活　スタート　【ファームステイ泊】	○ロッジ	○ステイ先	○ステイ先
3	1/5（日）	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活 （家族との生活、ファームのお手伝いを体験していただきます） 【ファームステイ泊】	○ステイ先	○ステイ先	○ステイ先
4	1/6（月）	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活 （家族との生活、ファームのお手伝いを体験していただきます） 【ファームステイ泊】	○ステイ先	○ステイ先	○ステイ先
5	1/7（火）	マンガリフォールズ	10:00 14:00 18:00 20:30		各ステイ先よりマンガリーに集合　（集合後、報告会） 昼食後、現地生徒（オージーキッズ）との交流［チームラフトビルド、障害物レースなど］ 夕食はオージーキッズと一緒にバーベキュー　後、さよならパーティー 夕食後、土ボタル鑑賞へ出発 【レインフォレストロッジ泊】	○ステイ先	○ロッジ	○ロッジ
6	1/8（水）	マンガリフォールズ グリーン島 ケアンズ	06:30 07:45 10:30 16:30 17:20	専用車 船 船	ロッジにて朝食 マンガリーを出発 グリーン島観光（エコアドベンチャー） 世界自然遺産グレートバリアリーフに浮かぶサンゴの島で 海水浴やマリンスポーツを体験していただきます（4時間） ［海底透視船またはシュノーケリング/プールなど］ グリーン島出発 ケアンズ到着後、市内散策 徒歩にてホテルへ 【ディスカバリーケアンズ泊】	○ロッジ	×グリーン島　各自	×ケアンズ　各自
7	1/9（木）	ホテル発 ケアンズ空港発 成田空港着 成田空港発	09:50 12:05 18:45 20:30	専用車 JQ025 貸切バス	ホテルにて朝食後、ケアンズ空港へ 出国手続き後、ジェットスター航空にて空路、帰国の途へ （所要7時間40分） 入国手続き後、到着口へ 貸切バスにて大仙市へ 【車中泊】	○ホテル	○機内	×各自
8	1/10（金）	大仙市役所着	07:00		到着後、解散式 おつかれさまでした	×各自		

平成２５年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業派遣生徒一覧

No.	学校名	学年	生徒氏名	性別	No.	学校名	学年	生徒氏名	性別
1	大　曲	2	有坂瑠々	女	11	西仙北	2	佐々木寿美怜	女
2	大　曲	2	伊藤里奈	女	12	西仙北	2	佐々木　萌李	女
3	大　曲	2	高橋彩葉	女	13	中　仙	2	冨岡茉宝	女
4	大　曲	2	田中李沙	女	14	豊　成	2	井上航大	男
5	大　曲	2	西村　遼	男	15	協　和	2	髙嶋 咲羅紗	女
6	大　曲	2	山蔦陽平	男	16	協　和	2	照井 詠利加	女
7	大曲西	2	小松彩音	女	17	協　和	2	武藤隆倫	男
8	大曲南	2	佐藤栞夏	女	18	仙　北	2	加藤　梓	女
9	平　和	2	小林久峻	男	19	仙　北	2	菅原千里	女
10	西仙北	2	阿部嵩史	男	20	太　田	2	田口菜央	女

事前説明会

１０月９日（水）PM ６：００～　　場所：大曲図書館３Ｆ
・派遣生等紹介　　視聴覚室
・教育指導課長より
・諸連絡（教育指導課）
・パスポート取得、旅行準備について（日本旅行）

１２月２０日（金）PM ６：００～　　場所：大曲図書館３Ｆ
・ファームステイ及び日程についての最終確認等（日本旅行）　　視聴覚室
・緊急連絡先記入／提出（教育指導課教育研究所）

事前学習会

１１月１日（金）第１回学習会　PM ４：３０～６：００　　場所：大曲図書館３Ｆ
・ＣＩＲによるオーストラリアの文化紹介　　視聴覚室
・自主研究テーマの設定　その他

１１月２５日（月）第２回学習会　PM ４：３０～６：００
・自主研究テーマの提出（面接により、自主研究テーマを広げる・深める）
・英会話レッスン（自己紹介・機内・税関・ショッピング・ホテル・道をたずねる・乗り物にのる）
・出入国カードの記入について　　場所：大曲図書館３Ｆ
視聴覚室

１２月２６日（木）第３回学習会（結団式）AM ９：３０～１２：００
・ファームステイグループごとの打ち合わせ（日本文化紹介準備活動等）
・作成レポートについて（様式、枚数、締め切り等）　　場所：大曲図書館３Ｆ
・報告会について　　視聴覚室
・結団式

オーストラリア海外研修

１月３日（金）～１月１０日（金）　　場所：オーストラリア（ケアンズ方面）

研修報告書作成と提出

海外研修終了後～１月３１日（金）教育指導課教育研究所必着で提出

報告会・解団式

２月１２日（水）報告会及び解団式　PM３：００～４：４５
・代表者感想発表
・グループに分かれて「グループ内個人発表」　　場所：仙北ふれあい
・グループ協議　　文化センター

結団式

派遣生徒代表誓いの言葉

いよいよオーストラリア出発の日まで１０日を切りました。この３連休にだいたいの荷物を準備しましたが、期待感も不安感も一層高まりました。

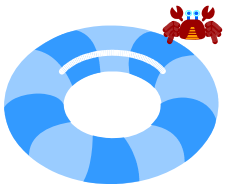
私がこの派遣事業に申し込んだ理由はいくつかあります。その中で一番大きな理由は新しい自分に変わりたいという気持ちでした。私は小さい頃から消極的で苦手なものが多く、様々なことにチャレンジできませんでした。学校の先生から今回の話を聞いた時、自分にとって大きなチャンスだと思いました。が、逆に海外が初めてで自分の英語力にも自信がなく、大きな不安もありました。両親に相談したところ、「とてもよい経験になると思う。できる限りの援助はするので行ってきなさい。」と背中を押してくれたこともあり、申し込みました。今は不安よりも楽しみの方が大きく待ち遠しい気持ちでいっぱいです。

両親は、私が生まれる前にオーストラリアへ行ったことがあるそうです。父が話すには、本気で永住してもよいと思うくらい素晴らしいところだそうです。理由は、オーストラリアの方々は皆陽気で、一緒にいるだけで楽しくなるからだそうです。今からホストファミリーとの生活がとても楽しみです。また、自然が素晴らしいそうです。大仙市、とくに私が住んでいる稲沢も大自然に囲まれていますが、自然との付き合い方が全然違うと聞きました。父から聞いたことを、今回自分の目で確かめてきたいと思います。

私が楽しみにしていることは、人生初の外国での生活です。違う中学校の友達との共同生活もとても楽しみです。

一緒に行く皆さん、共に支え合い楽しく仲良く頑張りましょう。そしてよろしくお願いします。また、この度ご同行していただける関係者の皆様、現地でも何かとご難儀をおかけすると思いますが、よろしくお願いします。

協和中学校　　髙嶋　咲羅紗



あと一週間で夢にまで見たオーストラリア研修が始まります。今、僕は、少しの不安と希望で胸がいっぱいです。

今、日本では、農業従事者の高齢化と食料自給率の低下が問題となっており、さらにはＴＰＰが追い打ちをかけようとしています。

それは、ここ大仙市でも例外ではありません。私の家では米などを作っているので、それだけに少し悲しいような、寂しいような気がしています。

ですから私は、この度のオーストラリア研修で、農業について次のようなことを調べ、学んできたいと考えています。

一つ目は、農業についての工夫です。オーストラリアでは農業が非常に盛んなので、大仙市では行われていない取り組みがきっとあるはずです。それを調べ、ここでも生かせないかを考えます。

二つ目は、農業の規模を知ることです。日本とオーストラリアでは、国土面積も気候も全く違います。見聞を広め、周囲に発信していくとともに、改めて日本の良さに気づくことができればと考えています。

以上の二つから、お互いの国の良さを理解した上で、農業がもっと良くなるよう努めていきたいと思います。

また、農業だけでなく、オーストラリアの文化や風土についてもたくさん学んできたいと考えています。

現地でも、大仙市代表としての意識を忘れず、積極的に、楽しみながら活動します。

そして我々二十人が将来にわたり大仙市に貢献できるように努めてまいります。

協和中学校　　武 藤 隆 倫

Ｈ２５年度海外派遣生徒自主研究テーマ一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名（ふりがな）	性別	自主研究テーマ
1	大　曲	2	有坂瑠々（ありさかるる）	女	秋田の食文化をより良くするために
2	大　曲	2	伊藤里奈（いとうりな）	女	大仙市や秋田県の食文化をさらに良くするためにはどうするべきか？
3	大　曲	2	高橋彩葉（たかはしあやは）	女	環境問題に対する意識を高めるためにはどうするべきか？
4	大　曲	2	田中李沙（たなかりさ）	女	自分の思いや考えを伝えるためのコミュニケーションの方法はどうあればよいのだろうか？
5	大　曲	2	西村　遼（にしむらりょう）	男	元気な大仙市にするために、どのように観光をアピールしたらよいだろうか？
6	大　曲	2	山蔦陽平（やまつたようへい）	男	地球温暖化を改善するためにはどうするべきか
7	大曲西	2	小松彩音（こまつあやね）	女	水資源を守るためにはどのような取り組みが必要か？
8	大曲南	2	佐藤栞夏（さとうかんな）	女	各家庭や地域の環境問題への取り組みはどうあるべきか？
9	平　和	2	小林久峻（こばやしひさたか）	男	野生動物を守りながら動物被害を減らすにはどうすればよいか？
10	西仙北	2	阿部嵩史（あべたかし）	男	自然環境を守り、生活の中のムダを無くすにはどうすべきか
11	西仙北	2	佐々木寿美怜（ささきすみれ）	女	環境を保つためにはどのような取り組みが必要だろうか
12	西仙北	2	佐々木萌李（ささきもえり）	女	大仙市の豊かな自然を保護するためには、どうするべきか？
13	中　仙	2	冨岡茉宝（とみおかまほ）	女	伝統の音楽を多くの人に知ってもらうためにはどうしたら良いか？
14	豊　成	2	井上航大（いのうえこうだい）	男	ごみを減らすためにはどうしたらよいか
15	協　和	2	髙嶋咲羅紗（たかしまさらさ）	女	豊かな自然を生かした生活の工夫について
16	協　和	2	照井詠利加（てるいえりか）	女	豊かな自然を守るためにはどんな工夫ができるだろうか
17	協　和	2	武藤隆倫（むとうたかみち）	男	地産地消を進め、農業を元気にするためにはどうするべきか
18	仙　北	2	加藤　梓（かとうあずさ）	女	水の無駄遣いを減らすにはどうしたら良いか？
19	仙　北	2	菅原千里（すがわらちさと）	女	動物のために行っている環境保護の工夫について
20	太　田	2	田口菜央（たぐちなお）	女	よりよい自然環境を未来に残していくためにはどうするべきか？

事前学習会の様子

１１月１日

研修に一緒に参加する仲間との初顔合わせです。

ちょっと緊張しながら自己紹介ゲームで楽しみました。

マイルズ先生から、オーストラリアについて教えてもらいます。

クイズもあって、答えを当てることができた人たちにはプレゼントも!!

次のクイズにみなさんも挑戦してみてください。

Ｑ．次の中で「休憩」を意味する言葉はどれですか？

ア．Arvo
イ．Servo
ウ．Smoko
エ．Johnno

（答えは3ページ後にあります）

１１月２５日

少人数グループで、ALTの先生方と場面を想定しての英会話練習です。笑顔で優しく接してもらい、「いいね！」「大丈夫！」と励まされ、少し自信がつきました。「伝えようとする気持ちが大切。間違いを恐れずに積極的に話しかけてみて。」とアドバイスをもらい、頑張ってみようと思いました。

オーストラリアへ入国する場面を想定しての練習です。まずは入国審査。
“How long are you going to stay here?”
―　“Six days.”
何とか笑顔で切り抜けられました。
その調子、その調子。

入国審査

税関

税関での荷物検査。中から食べ物が出てきました。オーストラリアは原則として食品の持ち込みはできません。
“What's this?” と係員にたずねられ、
“えっ、どうしよう！”

実際に使用するオーストラリア入国カードの記入です。皆、真剣に慎重に書いています。

１２月２６日

ファームステイごとのグループでの最後の学習会です。

「どんなホストファミリーかな？」
「おみやげは何を持って行く？」
「日本文化は何について紹介しようか？」
皆で額を突き合わせて相談です。

オージーキッズとの交流会での文化紹介も全員で話し合って決定していきます。

結団式の様子

派遣生徒全員の名前が呼ばれ、教育長に紹介されます。

大仙市の代表であることの責任と自覚に、気持ちが引き締まります。

協和中学校の髙嶋さんと武藤さんが派遣生徒を代表してあいさつをしました。

緊張しながらも、研修に臨む意気込みを堂々と発表してくれました。

大仙市の将来を担う生徒たちの活躍に、教育長も期待しています。

日本では経験できないことを存分に楽しみながら、多くの学びがある研修になるよう、全員の安全と無事を祈って激励してくださいました。

クイズの答え

答えはウ. Smokoです。Arvo は Afternoon の略で、Servo は Service Station, そして Johnno は Jonathan（男性の名前）の略です。Smoko は Smoke break の略です。昔は休憩時間にたばこを吸っていた大人が多かったのですが、現在オーストラリアではたばこを吸う人は減っています。しかし Smoko という表現自体はまだ一般的に使われているとのこと。「たばこにしよう！」＝「休憩しよう！」は私たちの生活の中でも使われる表現で、意外な共通点ですね。

オーストラリア研修を終えて

№1　大曲中学校　　有坂　瑠々

私は、1月3日から1月10日まで南半球にあるオーストラリアに行ってきました。今、日本の季節は冬ですがオーストラリアは夏でとても暑かったです。ファームステイ先はマンガリーという自然がいっぱいのところで、昼は適度に暑く夜は反対に涼しくて快適でした。夕食時にテレビニュースで今日の最高気温を放送していましたが、40度まで上がったと報道していました。日本ではなかなか見ることできない気温だったので驚きました。また、雪が積もっている国から暖かい国に行くのは貴重な経験でした。オーストラリアに行ったことを思い返すと本当に素晴らしい体験をさせていただいたと思います。

Ⅰ．自主研究について

私のテーマは…「秋田の食文化をよりよくするために」です。

◎日本とオーストラリアを比べて感じた**秋田の特徴**は…

・お米が美味しい
　→オーストラリアのお米はもちもち感がなく、さらさらしていました。

・水道水も美味しく湧水も豊富
　→オーストラリアの公園にあった蛇口には［この水は飲めません］と書いてありました。

・郷土料理がたくさんある
　→オーストラリアの郷土料理は今回ほとんど見ることができませんでした。

◎オーストラリアと日本の食事を比べて、オーストラリアの「ここがいいな！」と思ったところは、

・ワンプレート方式の食事
　→取り分けが不要。食べやすい。洗い物が少なくて済む。（節水･環境保護）

◎右の写真はある日の夕食です。この日は、チキンとにんじん、玉ねぎを煮たものとポテト、グリンピース、とうもろこしなどです。ちょうど良い塩加減で美味しかったです。

◎私がファームステイしたワレンさんのお宅では、基本的に自分の土地で作った食材を

使って料理をしていました。右の写真は、ワレンさんの土地で収穫されたマンゴーの自家製アイスです。

→地産地消

その他には、バナナ、トマト、牛、にわとりなどを育てていました。だいたい、敷地の広さは大曲中学校とグランドを合わせたくらいだと思います。それぐらい広かったです。

◎食事をする前にみんなで手をつないで、神様、食べ物、友達、家族に感謝の気持ちをこめて、声を出してお祈りをします。

英語ではこのように言います。↓

We say “Thank you” to God for all the good food and things we have , and also for our friends and family.

考察（考えたこと）

オーストラリアでは、人々の自給自足、地産地消の意識が高いと感じました。それに比べると、秋田の人々の意識は少し低いと思います。ファームステイ先での食事はほぼ毎日、自分の土地で育った果物や野菜、卵などを食べていたので、秋田にいるときよりも食事に対しての感謝の気持ちが強かったと思います。秋田の食文化をよくするためには、自分たち自身で育てた食材に誇りをもちながら調理することも大切なのではないでしょうか。

しかし、秋田にもいいところはたくさんあります。例えば郷土料理の豊富さです。今回、オーストラリアでは郷土料理といえる料理を食べることができなかったのが残念でした。秋田の食文化をよりよくするためには、まず私たちが秋田の郷土料理についてしっかりと理解しなくてはならないと私は考えています。郷土料理はその土地の特産物を有効に使い、その土地に住んでいる人に合った味付けがされている、工夫に満ちたすばらしい料理です。オーストラリアのみならず、多くの国や地域にＰＲして、その良さを広めていくことも食文化の向上につながると思います。

Ⅱ．ファームステイの思い出（エピソード）

◇ 私がファームステイをしたところはとにかく自然が壮大で、右を見ても左を見ても牛や馬などがいる場所でした。左の写真は、ケアンズ空港からマンガリーに向かう途中で見た山です。

◇ 私は、泳ぐのが大好きなので、ホストファミリーに「泳ぎたいです。」と英語で言ったら、ワレンさんが作った湖に連れて行ってくれました。
　水深は、身長 163cm の私よりもはるかに深くて大変だったのが印象的でした。そこでは、カヌーを初体験することもできました。カヌーは初心者でも漕げるものだと思っていましたが、全然動いてくれませんでした。でも、とても楽しくてずっと乗っていました。湖の中にはオタマジャクシやカモノハシなどがいてビックリしました。

◇ ファームステイ先での食事がおいしくて感動しました。朝食は、シリアルのあとにパンとベーコンなどがでてきました。昼食は、主に自分で好きなだけ取るセルフサービスのような食事でした。夕食は、オージービーフなど地元の食材を使って BBQ をするなど、おもてなしの心が伝わる食事でした。飲み物は、主に甘い炭酸飲料でした。

◇ オーストラリアで水を買うと、ペットボトル(500ml) 1 本の値段は約 3AUD(303 円)でした。日本では約 100 円なので、水が貴重なことがわかりました。皿洗いの時には水をためて洗い、水を流しっぱなしということがないように工夫していました。
　→資源を大切にする。

◇ オーストラリアでは水道から出る水は硬水で、石けんとの相性が悪く、手を洗ったあとにしっかり流してもまだヌルヌルしていました。

◇ 秋田県では、水を大切にしようとそれほど積極的には取り組んでないと思います。水は資源であり、人間が生きるうえで欠かせないものなので、水を大切にするオーストラリアから学べる部分が多いと思います。

◇ ワレンさんのお宅には 2 台の BBQ のコンロがありました。ワレンさんも奥さんのアンさんも、料理が上手でした。

◇ 昼食が終わってひと休みしたら、ドライブに連れて行ってくれました。牧場で牛の乳搾りや、滝のある湖などを見せてもらいました。

Ⅲ．オーストラリアで働く日本人との交流

最終日の前夜に、オーストラリアで働く日本の方々に話を聞く機会がありました。最初の方は、日本食レストランで働く貞丸さんです。貞丸さんは、今までたくさんの仕事を経験してきたそうです。始めてのオーストラリア体験が、ホームステイをかねての語学研修だったという貞丸さんの将来の夢は、多くの人々にオーストラリアの素晴らしさを伝えることだそうです。私の将来の夢は医者になることですが、貞丸さんのように国外で働くこともいいなと感じました。そのためにも、英語を一生懸命勉強しようと改めて思いました。

昨年まで大仙市で国際交流員として働いていたレベッカさんからは、自分から積極的に英語を話すことが大切だということを教わりました。私が海外研修に申し込んだ理由のひとつに、人前で話すことが少し恥ずかしく、間違えたらどうしようと思って自分からはすすんで英語を話せないのを克服したいという思いがありました。しかし、レベッカさんから話を聞いて、英語の授業でもっと積極的に頑張ろうと思うことができました。

日本旅行ケアンズ支店長の黒田さんは、英語やコミュニケーションのことを中心にお話してくれました。私は、いざ英語の勉強をしようとしても何をやればよいのかわからない時があります。黒田さんは、毎日寝る前に英語辞典の見開き１ページを覚えてから寝たそうです。また、自分の好きな映画に英語字幕をつけて何回も見ていると、次第に英語がわかってくると教えてくれました。

これら３人の皆さんからのお話には、私たちの将来への期待も込められているような気がしました。皆さん３人とも留学やホームステイをして英語に興味をもったとおっしゃっていましたが、私も、オーストラリアの研修を終えて外国のことにさらに興味をもつことができました。この経験をこれからの学習に生かしていきたいです。

Ⅳ．終わりに

オーストラリアに行って、食料や自然の大切さを学ぶことができてよかったと思います。

日本では「いただきます」と言って、ありがとうの気持ちを込めて食事をしますが、オーストラリアでも家族や友達にもしっかりと感謝の気持ちを込めて食事をしていました。このように、食べ物に感謝する気持ちはどこでも同じなのだと感じました。

このオーストラリア研修では、新しい友達もたくさんできてとても充実した１週間になりました。なかなか体験できないことなので、この体験をこれからの学校生活に生かしたいと思いました。

最後に、オーストラリアに行きたいという私の夢を後押ししてくれた両親をはじめ、このような機会を与えてくださった教育委員会や中学校の先生方、いろいろと面倒を見ていただいた添乗員の方に対して感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

オーストラリアレポート！

№.２　大曲中学校　　伊藤　里奈

１．はじめに

中学１年生のとき、私のクラスでは英語の研究授業をたくさん行っていました。私が英語に興味をもったのはその頃です。そして、自分の気持ちを伝える難しさや伝わったときの喜びは、私の中にずっと残っていました。そこで今回、「国籍を問わずいろいろな人と英語で会話がしたい！」と思い、この研修事業に応募しました。

また、私はさまざまな国の食文化に興味があり、実際に海外の食べ物を現地で見て食べてみたいと思っていました。そのため、予定されているたくさんの体験とともに、食事もとても楽しみにしていました。

●研究テーマ

「大仙市や秋田県の食文化をさらに良くするためには
どうするべきか？」

２．テーマ設定の理由

秋田県もオーストラリアも、農業が盛んです。調べてみたところ、秋田県の食糧自給率は 178%もあることが分かりました。オーストラリアは 187%です。私は二つの地域に共通点があることに興味を持ちました。自給率が高い秋田県ですが、その魅力はまだまだ多くの人に知られていない気がします。「もっと秋田の農業と食文化を知ってもらうために、私たちにできることを見つけたい」と思いこのテーマを設定しました。

３．研究方法と研究結果

＜研究方法＞　現地での食事と私の普段の食事を比べました。

＜研究結果＞　下の写真はステイ先で出た食事の一部です。

・朝食

シリアルとパン、おかず少し。この辺りで普段よく食べられているバナナが出ました。

・昼食

バーガーパンに牛・豚・鶏・ジャガイモをはさむビュッフェ式。家でとれたメロンも出ました。

・夕食

オージービーフのバーベキュー。玄関のバーベキューコンロで調理し、室内で食べました。

・デザート

ほぼ毎食後出ました。左の写真は家で採れたマンゴーだけを使ったアイスです。

・マンガリーフォールズでも、ほとんど同じような食事でした。ステイ先では自宅で 20 種類以上の野菜や果物を栽培しており、それを使った料理がよく出ました。地産地消していることを、身をもって感じました。

＜日本とは違った・新鮮に感じたこと＞

・オーストラリアでは、「いただきます」や「ごちそうさま」を言わないこと、一つのお皿にいろいろな料理を載せることなどに驚きました。洗うものが少なくて地球に優しいなと思いました。

・ステイ先で、生ごみを

野菜の皮など→「compost」へ

残飯→「chickens」へ

と二つの箱に分けており、「compost」の箱の中身は肥料にし、「chickens」の方は飼っている鶏の餌にしていました。

おいしい餌を食べおいしい卵を産み…無駄のないサイクルに感動しました。

＜まとめ＞

私が普段食べている食事とオーストラリアでの食事では、調べてみると違った点がいくつもありました。でも、地域の食材を大事にしているところは同じだと思いました。

オーストラリアの人々は嬉しそうに地域の野菜を食べ、元気に暮らしていました。秋田県の農業や食文化を知ってもらうために、地域で採れた野菜や果物をまず私たちが食べ、他県の人に自慢できるくらい知識を持てばよいのではないかと思いました。

４．エピソード

１）やはり自然が豊かだった

・８日に訪れたグレートバリアリーフでは、サンゴ礁の美しさや世界遺産を守ろうとする現地の方の努力が心に染みました。天気にも恵まれ、気持ちの良い海に入るのはとても楽しかったです。

・７日の夜に土ボタルを見に行った時のことです。外の明かりはほとんどなく、星空がきれいでした。歩きながら空を見ていると、何と流れ星が！！かなり長い時間見えていたのですが、驚いて叫んでいるうちに消えてしまい願い事ができませんでした。でも初めて流れ星を見ることができ、嬉しかったです。

２）ファームステイで…

・私は牧場を経営している Cahill(ケイヒル) さん

のお宅にファームステイしました。

左：Warren(ワレン)さん。歌が大好きで、車の中でいつも歌っていました。友人が多く、心の広い人でした。
右：Anne（アン）さん。料理が大好きで、毎日おいしい食事を作ってくれました。ガーデニングや手芸なども得意で、きれいな花や手作りの小物が敷地のいたるところにありました。

犬、猫、カラフルな鳥、たくさんのインコ、牛、鶏と、多くの動物もいました。

犬のジェダー…人が大好き。元気いっぱい。振っているしっぽがいつも足に当たって痛かったです。

猫（名前不明）…外でよく寝ている気まぐれな性格。ハンティングが得意で、ある朝ネズミがやられていました。カメラが嫌いらしく、写真を撮ることに苦労しました。

牛…Warren さんに聞いたところ、200 頭ほどから飼い始めたそうです。クリスマスイブに生まれた子牛もいました。言葉がわかるのか、話しかけるとこっちを向いてくれました。

ステイ先では宿泊した部屋の掃除をしました。暑かったので大変でしたが、達成感がありました。それ以上に、いつもこの作業を一人でやっている Anne さんがすごいと思いました。

ステイ先では、たくさんのことを学び帰ってくることができました。みんなでルールを覚えたゲームやホストファザー、ホストマザーとの会話は難しかったですが楽しかったです。牧場の探検も印象に残っています。途中で毒蛇にかまれて死んでしまった牛が横たわっていて、自然の豊

かさとともに厳しさも感じました。温かい人柄で私たちを迎えてくださった Warren さん、Anne さんのおかげで貴重な体験ができました。本当にありがとうございました！！

３）海外で活躍している日本人

今回オーストラリアで活躍している方々のお話を聞いてきましたが、特に**貞丸さん**の話が印象に残っています。貞丸さんはオーストラリアに来てからいちご農園やモデルなどいろいろな分野の仕事をし、現在は日本人旅行客のガイドを目指しているそうです。貞丸さんは本当にオーストラリアが大好きで、日本にもあまり帰らないそうです。**「オーストラリアが大好きだから、観光客にオーストラリアのいいところを知ってほしい！」**と言っていたのが印象的でした。私は将来の夢が決まっていませんが、貞丸さんのように好きなことを原動力にして働きたいな、と思いました。参考になりました。

５．海外研修を終えて

今回の海外研修では私にとって見たものすべてが新鮮で、視野が広がった気がしました。そして、コミュニケーションをとるときに大事なことを学びました。

それは、相手にしっかり思いを伝えようとすることです。自分の言葉だけでは不安だったらジェスチャーを入れたり友達と協力したり…。実際、伝えようという思いを持って話したらホストファミリーやオージーキッズと打ち解けることができました。そしてこのことは、私が部活動でやっている合唱にも通じると思います。ただ歌うのではなく、聴いている方に思いを伝えようとすることで初めて歌が届くのだと思います。

今回私に忘れられない思い出がたくさん出来たのも、機会をくださった大仙市や学校、家族のおかげです。ありがとうございました！

オーストラリアの自然環境に触れて

№３　大曲中学校　　高橋　彩葉

Ⅰ.はじめに・・・

私は海外に行くのが今回初めてだったので、早く行きたいという気持ちでいっぱいでした。そのため、ケアンズ空港に着いて、入国審査を終えたら、これから何を体験できるのかなと楽しみでしかたがありませんでした。

オーストラリアでの経験は、このレポートに書き尽くせないほどのとても内容の濃いものでした。

Ⅱ.海外派遣に応募した理由

私がこの海外派遣に応募した理由はたくさんありますが、なかでも**現地の英語に触れて自分の英語力を向上させたかったから**、**オーストラリアの広大な自然を間近で見たかったから**、この二つが大きかったと思います。私は小学５年生のときから英語を学習していますが、英会話ではないので、自分がどのくらい話せるのか、普段の英語の授業ではあまり確かめることができません。そのため海外でどれくらい話せて、どれくらい伝えることができるのかを確かめる、いいきっかけになるのではないかと思いました。

また、秋田県には世界遺産に登録されている白神山地などすばらしい自然がありますが、オーストラリアにもグレートバリアリーフなどの豊かな自然があると知り、自分の目でその素晴らしさを確かめたいと思いました。実際、バスに乗っているときに見つけたさとうきび畑は、ずっと遠くまで続いていて、思わず写真を撮りました。私は秋田にいて地平線が見える場所に行ったことがなかったので、とても興奮しました。

↑さとうきび畑

Ⅲ.私のテーマ

私が今回、海外派遣のテーマにしたのは、

「環境問題に対する意識を高めるためにはどうするべきか？」です。

環境問題は世界各国で起きていると思います。オーストラリアで学んだことを生かして、大仙市の環境問題に対する意識を高め、大仙市から環境問題の解決に取り組んでいきたいと考えました。

Ⅳ.ファームステイ先で感じたこと

私がファームステイしたのは、Voss(ボス)さんという、お父さんとお母さん二人暮らしのお宅でした。私は最初、思うように気持ちを伝えることができず、さらに、日本語があまり使えないせいか、南半球まで来たせいか、ホームシックになりました。

↑Papa が連れて行ってくれた滝

しかし、お父さんもお母さんもフレンドリーな方で「I am Papa. She is Mama. We are your family in Australia.」と言ってくれたので、すぐに打ち解けることができました。Mama とは、毎晩ボードゲームをしたり、ショッピングセンターに連れて行ってもらったりしました。Papa は牧場や、チーズ工場や、鉱石の博物館などいろいろなところに連れて行ってくれました。

Voss さんの家では、家の近くの川から水をくんでタンクに溜めて、必要なときに使っていました。日本の水は軟水といって飲むことができるのですが、オーストラリアの水は硬水なので飲むことができません。そのため、Mama は飲み水と生活用水を使い分けていました。また、日中は灯りをつけず、夜間も必要以上の電気は使っていませんでした。ボードゲームをするときもテーブルの上の灯りだけを使い、寝るときも小さい電球しかついていませんでした。ファームステイの最初の夜、外へ出てみたら星が空いっぱいに輝いていました。周りが真っ暗だったので、秋田よりも多くのきれいな星を見ることができました。これらの出来事をふまえて、私は Mama に疑問に思ったことを質問しました。

Q.自然を守るために普段からどんなことをしていますか？

A.たとえば、不要になった車のガソリンをとっておく。捨ててしまう人もいるけれど、環境に悪いからリサイクルをしている。私はリサイクルは大切だと思っている。

Q.普段から電気を節約していますか？

A.している。牧場や畑にお金がかかるから電気代を節約するようにしている。夜もなるべく小さい灯りしかつけないようにして、節電している。

Ⅴ.マンガリーフォールズで感じたこと

マンガリーフォールズでも、環境に対する取り組みがありました。私が 1 番大変だと思ったのは、シャワーの使用時間が 1 人あたり 5 分しかないことでした。ファームステイ先でもシャワーは短く、と言われました。普段はあまり気をつかっていなかったので大変でしたが、こういうことも気を付けなければいけないなと実感しました。

また、マンガリーフォールズではオージーキッズ(現地の子供たち)との交流の時間もありました。オージーキッズたちは、積極的に話しかけてくれました。たくさんコミュニケー

ションをとることができたのでよかったです。特に、障害物レースのときは嬉しかったです。2 グループに分かれたのですが、私たちのグループのリーダーはオージーキッズの 1 人でした。そして、参加できない障害物の場所はパスすることをリーダーに言わなくてはいけませんでした。私は高所恐怖症でできないものがたくさんありました。リーダーは日本人ではないので英語で伝えなければなりません。「大丈夫かな・・・。」「伝わるかな・・・。」不安になりながらも私は「I can't go to high place. So I pass.」と言いました。するとリーダーは「Oh! OK.」と言ってくれたのです！**「自分の英語が通じた！」**私にとって、それはとても嬉しいことでした。外国の同じくらいの年の人たちと話したり、踊ったりするのは初めてで、これも新鮮で楽しいことでした。心に残るたくさんの経験ができてよかったです。

VI.考察

私がこのような体験をして思ったのは、オーストラリアの人たちは日本人よりも環境を守ろうという意志が強いということです。ファームステイ先でもマンガリーフォールズでも、星がきれいに見えたし、グリーン島の海は私が今までに見たことがないくらい澄んだ緑色で、私たちが暮らしている秋田が同じ地球にあるとは思えないくらいでした。日本では夜、電気をつけるのが当たり前になってしまいましたが、ファームステイをしてみて、夜、電気を極力つけず、早く寝るなどすれば､不便ではないと感じました。シャワーもときどき止めたりすれば節水になると思うし、リサイクルも意識すれば誰でもできることだと思います。オーストラリアでも個人レベルでは大きなことはあまりしていないと私は思います。だから日本でも私たちが実践できることはたくさんあるはずです。

↑グリーン島の海。魚が見えるくらいきれいでした。

たとえば・・・

・水を出しっぱなしにしない。

・必要以上の電気は使わない。

・暖房の温度を下げる。

このほかにもたくさんあると思いますが、小さなことから始めていけば環境問題の解決に近づくことができると思います。こんなことは何度も聞いたことがあると思いますが、**環境問題を深刻化させるのも、いい傾向へ動かせるのも、地球に住んでいる私たち次第なのだと改めて感じました。**

Ⅶ.初！鳥が肩にのった！

Voss さんの家には、オウムが６羽くらいいました。ファームステイ最後の日、Papa がオウムのデイジーを家の中に連れてきました。一緒に写真を撮ろう、と言われたので、最初は驚いたし、肩にとまったときデイジーの爪が食い込んで痛かったです…。でも、オウムがたくさんいる家なんて日本にはなかなかないと思うし、今となってはいい経験です。

↑オウムのデイジーと記念撮影

Ⅷ.海外で活躍している日本人にインタビューしました！

今回の海外研修では、日本人にインタビューする機会がありました。たくさんの方々に質問しましたが、その中でも印象的だった貞丸さんのインタビューを紹介します。

貞丸さんは、オーストラリアに５回来たことがあり、今は日本食のレストランで働いています。

Q.なんのお仕事をしたことがありますか？

A.オーストラリアに来てから、イチゴ農園、コーヒー店の店員、ツアーガイド、モデル、現在は日本食レストランの店員。

Q.どうしてオーストラリアに来てそういうお仕事がしたかったのですか？

A.接客業、特にツアーガイドをしたかった。研修で終わってしまったけど、いずれまたやりたい。

Q.どうしてツアーガイドをしたいのですか？

A.観光客の人たちにオーストラリアのことをもっと好きになってもらいたいから。

Q.最初からオーストラリアに行きたかったのですか？

A.最初は英語が好きではなくて、高２のときの語学研修のときにうまくコミュニケーションがとれなくて悔しかった。文法だけ分かっていても、話していないと英語は自分のものにできないから、**話すことが大事。**

Ⅸ.海外研修を終えての感想・これからの課題

今回の海外研修では、初めてしたことや初めて知ったことがたくさんあり、多くのことを学ぶことができ、同時に環境問題に対する自分の考えが変わるなど、よい経験をすることができました。

初めて現地の英語に触れることができた、初めて自分が伝えたいことを英語で話せた、初めてオウムを肩にのせた…。思い起こせば楽しかった思い出ばかりです。

また、オーストラリアの人たちの環境を守ろうとする姿勢には心を動かされました。私

は今まで、「誰かがやってくれるだろう」「みんなやってるだろうから私だけやらなくても変わらないだろう」と、環境問題にしっかりと向き合おうとしていませんでした。でも、今回グリーン島に行って、きれいな海や珍しい魚を見たら、「しっかり地球をまもっていかなければいけない」と思いました。考察でも述べたとおり、地球に住んでいる私たち以外、地球を守ることはできないし、自分から進んで小さなことから取り組んでいかないといけないのです。住めなくなってからでは取り返しがつかないし、誰のせいにもできないと思います。たとえ日本が北半球にあって、オーストラリアが南半球にあっても、同じ地球にあることに変わりはないのです。だから私は、これから地球を守るために、小さなことから実践していきたいと思います。そしてこれが、ただ掲げただけにならないように、行動に移していきたいです。

海外に行くことで、自分の英語に自信がつくこと、学べることがたくさんあることを知りました。私はこれからも自分の英語に磨きをかけ、さらにレベルアップさせて、またオーストラリアに行きたいです。そしてまだ行ったことのない外国の地にも足を踏み入れ、たくさんのことを学びたいと思います。ホームシックになったり、私には外国に行くことは不向きなんじゃないかな、と不安になったりすることもありました。でも、現地の人たちの温かさや友達に励まされて、思い出に残る海外研修になりました。今度オーストラリアに行くときまでには、今よりもっと成長して、自分は地球環境のために頑張っているんだ、という自信をもっていられるようになりたいです。素晴らしい経験をさせていただきありがとうございました。

「外国人とコミュニケーションをするために」

№.４　大曲中学校　　田中　李沙

Ⅰ　はじめに

私が今回の海外派遣事業に応募した理由は、異文化に興味がありオーストラリアの文化に触れてみたいと思ったからです。また、自分の英語はどのくらい通じるのか挑戦してみたいという思いもありました。

Ⅱ　研究テーマ/設定の理由

～研究テーマ～

自分の思いや考えを伝えるためのコミュニケーションの方法は どうあればよいのだろうか？

～設定の理由～

私の学校では、英語の先生とＡＬＴの先生が英語を教えてくれます。授業中に指名されたときや、廊下で話しかけてもらったときに、聞かれていることはわかっていてもどう伝えていいかわからずもどかしい気持ちになったことがあります。そんなときに自分の思いや考えを伝えるためにはどうすればよいのかを考えたいと思いました。

１　オーストラリアで暮らす人々にインタビュー

Ｑ：「たくさんの国の人とどうやってコミュニケーションをとっていますか？」

Ａ：ホストファザー

「それは、とても難しい。大切なのはゆっくり話すこと、ジェスチャーをすること。話すことを恐れずに英語の練習をしてみて。Ｎｏ　ｐｒｏｂｌｅｍ！」

ホストマザー

「ジェスチャーをすること。実物を見せて説明すること。たくさん話して、たくさん挑戦してみて。」

２　海外で働く人々にインタビュー

Ｑ：「どんなときに大変だ、または困ったと感じましたか？　また、そのときどうしましたか？」

Ａ：自然の家で働く人

「電話だとジェスチャーで伝えることができないので大変だった。伝わらないときは他の言い回しをするなどの工夫をした。また、伝わらなかった経験がバネになり、大きく成長することができる。自分で行動すると自信をもつことができる。英語が使えると出会いが増える。」

Ｑ：「観光客などたくさんの人とどうやってコミュニケーションをとっていますか？」

Ａ：自然の家で働く人

「地図を描いて説明したり、自分からおはようなどのあいさつをして『今日は天気がいいね』など、簡単なことについて話したりしているうちに会話が弾む。自分から話しかけると自分のペースで会話をすることができる。話の流れをつくることや、伝えようとする努力が大事。」

「また、笑顔はとても大事でにこにこしていれば相手も話しやすい。目を見て話すこともコミュニケーションをとる上でとても大切。」

Ｑ：「言葉が通じないときはどうしましたか？」

Ａ：黒田さん（日本旅行ケアンズ支店長さん）

「ジェスチャーをすること。なによりも大切なのは、相手はなにを聞きたいのか？ということを見て取ること。はじめは知っている単語を並べるだけでもＯＫ。」

Ａ：レベッカ先生（大仙市前国際交流員）

「人とコミュニケーションをとるときに相手の言葉で話すということは、相手のことを考えているということ。同じ言葉を使っているのに文化が違う国もある。世界にはたくさんの国があるのに行かないなんてもったいない。」

Ａ：貞丸さん（日本食レストランに勤務）

「言葉が通じない時に大切なのはジェスチャーと笑顔でいること。伝えようとすると理解してもらえることが多い。また、文法だけわかっていても気持ちは伝わらない。聞く力と話す力を身につけなくてはいけない。」

３　考察

全員の意見に共通していたのは、ジェスチャーをすることと笑顔でいるということでした。

印象に残ったのはレベッカ先生の「世界にはたくさんの国があるのに行かないなんてもったいない」という言葉です。人とコミュニケーションをとる練習は一人ではできません。言葉が通じない国に飛び込むことで伝わるまで挑戦することができ、たくさんの人や国と出会い、大きく成長することができると思いました。

また、コミュニケーションが成り立つということは、お互いに相手のことを考えているからなのではないかとも考えました。違う国の人と話すときに限らず、友達や周りの人と会話するときも同じなのではないかと思います。

大仙市には夏の花火大会をはじめ多くの行事があり、他県や外国からもたくさんの人が訪れます。そんなときに自然の豊かさや行事の楽しさなどの良さを伝え、大仙市を好きになってもらえたら、さらに多くの人が大仙市を訪れ、活気が生まれるのではないかと考えました。

そのためには、自分自身が地元大仙をもっと好きになり、どんな質問にも答えられるように、また、どんな人とも積極的にコミュニケーションをとれるようになること。それが絶対に必要だと思います。

Ⅲ　エピソード

１　自然がとてもきれいだった！

ファームステイ２日目と３日目に滝と川に連れて行ってもらいました。近くを散歩しながら、身近に滝や川がたくさんあることに驚き、自然がしっかりと守られていることがすばらしいと思いました。

２　ファームステイでの出来事

ご飯がとてもおいしかったこと！　朝ごはんから晩ごはんまでの食事が毎日楽しみでした。

お父さんの農場では牛の乳しぼりを体験しました。初めは牛に近づくことが少し怖かったけれど何度か搾乳機を取り付けるうちに牛がかわいく思えてきました。そして牛の瞳を見ていると、人間に飼われていることが少しかわいそうにも思えました。私は小さいころから牛乳が苦手だったのですが、実際に自分で搾乳をしたからか、このファームステイで牛乳嫌いを克服することができました。

でも、ホストファミリーの仕事を見ていると、生き物の世話をしながらの日常生活は大変だとも感じました。

３　海外で働く日本人

私がインタビューしたのは、日本食のレストランで働いている貞丸さんです。

貞丸さんがオーストラリアを初めて訪れたのは、高校二年生のとき。交換留学があったからだそうです。そのときは、授業もわからず、会話もできず、とても悔しい思いをしたそうです。日本に帰ってからは、スピーキングとリスニングを鍛えなおそうと思い、家にいるときもずっと英語漬けだったと言っていました。いまは、日本食のレストランで働いていますが、本当はツアーガイドになり、オーストラリアのよさを多くの人に伝えたいそうです。

彼女からは、「文法だけでは伝わらない」「聞く力と話す力をつける必要がある」「大切なのは努力をすること」というメッセージをいただきました。

Ⅳ　海外研修を終えて

はじめは、私の英語で気持ちが伝わるのか不安でいっぱいでしたが、きちんとした文でなくても、単語とジェスチャーだけでファームステイ先の人たちと会話することができました。自分が伝えたかったことが相手に伝わったときや、相手の言いたいことを理解することができたときはとてもうれしかったです。ただ、将来、仕事として英語を使うのなら、書くための英文法もきちんと学んでいきたいと感じました。

最初は同じ学校の人としか話せなかったのですが、日がたつにつれて、たくさんの人と積極的に会話をしたり、ふざけあったりすることができるようになりました。

また、海外で働く日本人の方々に聞いた、オーストラリアにきて良かったこと、困ったこと、コミュニケーションをとるために大切なこと、環境保護について、農業について、などの意見は、全て参考になるものでした。特に体験談は実際に起こったことなので、そんなことも起こるのだ、そんなときにはどう行動したのだろうかなどと考えました。また、自分だったらできないと思うこともたくさんあり、海外で働くことの難しさややりがいなどについて、自分なりに考える機会になりました。

私は今回の海外派遣事業で初めて海外に行き、たくさんの人の話を聞き、たくさん行動することができ、貴重な体験をする機会に恵まれました。今までの自分よりも少し成長したように思います。たくさんの人からもらったメッセージや今回体験したことを心の糧にして、大きく飛躍したいと思います。この事業に参加することができ、本当に良かったです。

オーストラリアで学んだこと

No. 5　大曲中学校　　西村　　遼

Ⅰ　はじめに

僕がこの海外派遣事業に申し込んだ理由は、秋田県が進めている英語力のアップに少しでも貢献したいと思ったからです。また、自分が今学校で習っている英語が、英語を使って生活している人たちにどのくらい通じるのか確かめたかったからです。

Ⅱ　研究テーマ／設定理由

テーマ　：元気な大仙市にするために、どのように観光をアピールしたらよいだろうか？

設定理由：秋田県には大曲の花火や男鹿半島などたくさんの観光資源があり、特に大曲の花火には毎年 70 万人もの人が県内外から訪れます。しかし、海外からはあまり観光客が来ていません。そこで、僕は「元気な大仙市にするために、どのように観光をアピールしたらよいだろうか？」というテーマを設定しました。

Ⅲ　研究方法／調べた内容

1　研究方法

・ホストファミリーのお母さんのアンティさんに聞く。
・買い物に行ったお店やケアンズの町を調べる。

2　調べた結果

ホストファミリーのお母さんに「オーストラリアでは、観光資源をどのようにアピールしていますか？」と聞いたところ、「自分の住んでいる所のことをよく知ることで、観光客にその土地のことをアピールできる。」と言っていました。

また、買い物に行ったお店では、ほとんどの所にパンフレットやグリーン

島などを紹介する雑誌を置いていました。パンフレットは英語や日本語のものだけでなく、中国語のものもありました。お店や空港、グリーン島に向かう船などにも、日本語を話せる外国人や英語を話せる日本人など、二つの言語を話せるスタッフがたくさんいました。

お店においてあったﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ

中国語のﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ →

3　考察

僕は、オーストラリアの人たちは自分の国に誇りをもっていると思いました。なぜなら、多くの人たちが自分の国のことをよく理解しているように見えたからです。僕も住んでいる大仙市のことをもっとよく知り、県外の人はもちろん外国の人たちにも大仙市や秋田県のいいところをアピールできるようにしたいと思いました。

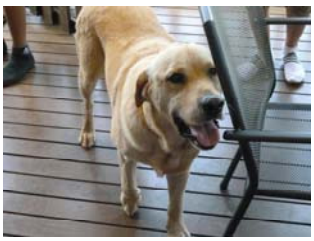
また、オーストラリアでは英語の他にも日本語や中国語のパンフレットを置くなど、観光資源をアピールするために取り組んでいることが多いと思いました。そのような努力がたくさんの観光客を呼び込むことにつながっていると感じました。秋田には韓国からの観光客が多く来ています。その韓国からのお客様を「大曲の花火」にもぜひ来ていただけるように、英語や韓国語などのパンフレットを作り、アピールすればよいのではないかと思いました。また、大仙市では市のホームページに外国人向けのサイトがありますが、ただ観光客が来るのを待っているのではなく、もっと積極的にインターネットを使って大仙市の良さを世界に発信していけばいいのではないかと思います。

Ⅳ　エピソード

1　ファームステイでの出来事

僕たちがお世話になった家には犬が３匹、猫が１匹、鳥が１羽、そしてたくさんの牛がいました。また、外にはトランポリンやバスケットボールのリング、家の中には卓球台があり、みんなで遊びました。夜は、８時頃から家のまわりを散歩しました。

日本では見られない大きなカエルやクモがいて驚きました。



ジルフォールズ

ｴﾘﾝｼﾞｬｰﾌｫｰﾙｽﾞ

ﾐﾗﾐﾗﾌｫｰﾙｽﾞ

ミランダフォールズ

また、２日目と３日目にはＢｏｂさんのお宅にファームステイしている人たちと一緒にピクニックに行きました。ジルフォールズ、ミラミラフォールズ、エリンジャーフォールズ、マランダフォールズという四つの滝を見ました。滝つぼには泳いでいる人たちがたくさんいました。昼食は公園でハンバーガーを食べました。とても量が多くてびっくりしました。そのあと、公園でキャッチボールをしたり、Ｂｏｂさんと一緒にＵＮＯをしたり、バドミントンをしたりしました。

その夜は、帰る途中に寄ったスーパーマーケットで買ったキャベツとマヨネーズ、日本から持参したお好み焼き粉を使ってお好み焼きを作りました。お母さんが「おいしい」と言ってくれたので、よかったです。

2　オージーキッズとの交流

マンガリーフォールズでは、オージーキッズと交流しました。男子のオージーキッズは僕たちよりも年下だったので、気軽にたくさん話すことができました。午後からの活動でしたが、まず二つのチームに別れ、オージーキッズたちと協力していかだを作り、池を３往復する速さを競ったり、障害物競走をしたりしました。夕食のバーベキューのあとには、オージーキッズと腕相撲をしたりして遊びました。また、オーストラリアの歌でダンスを踊ったり日本の歌をうたってあげたりしました。

3　楽しかったグリーン島

最後の日にみんなで、グリーン島に行きました。グリーン島に向かう船は二階建てで、僕は甲板に乗りました。甲板には壁がないので、立っていられないほどの風が吹いていました。

グリーン島に着くと、あちらこちらに「ナンヨウクイナ」がいました。飛べないけれど高くジャンプするこの鳥は、小さくてかわいかったです。

ナンヨウクイナ

僕は早速、シュノーケリングの道具を借りて泳ぎました。海の中はエメラルドグリーンで、底が綺麗に見えました。水色や黄色などの、見たことのない魚もたくさんいました。また、海の底はすべてサンゴで驚きました。でも一番驚いたのは、ウミガメが泳いでいたことです。テレビでしか見たことがなかったので、本物を見ることができてうれしかったです。あっという間の５時間でした。

4　オーストラリアのエコ活動

オーストラリアでは、シャワーを浴びる時間を３分にして、使う水をできるだけ少なくしたり、雨水を大きいタンクに貯めて生活用水として使うなど、積極的にエコ活動を行っていました。また、車に乗って移動するときには、クーラーをつけなくてもよいように窓を全開にしていました。さらに、ポイ捨て防止のために一定間隔でゴミ箱を置いているせいもあるのか、街には全くと言ってよいほどゴミが落ちていませんでした。大仙市でも積極的にこのような取り組みをしていけば、よりよい環境づくりをしていけると思いました。

5　海外で活躍する日本人

今回オーストラリアでお会いした日本人の中で一番印象に残っているのは、日本旅行ケアンズ支店長の黒田さんです。黒田さんがこの仕事をしようと思った理由は“高校生のときアメリカで英語を喋る日本人にあこがれた”からだそうです。

黒田さんにインタビューしました。

Ｑ：どのように勉強して英会話ができるようになりましたか？

Ａ：映画が好きだったので、英語で映画を見て聞き取れるようにした。それができたら、今度は字幕をつけてまた見る。最後に、意味も分かった上でもう一度字幕なしで見るということを繰り返した。また、毎晩和英辞書を読んで覚えるようにしていた。

Ｑ：英会話で大変だったことは何ですか？

Ａ：オーストラリアにはなまりがあり、普通は「Ａ」を「ア」と読むが、オー

ストラリアでは「アイ」と読むので、聞き取るとき難しかった。

Ｑ：伝わらなかったとき、どうしていますか？

Ａ：手を使ってジェスチャーで伝えたり、自分の知っている単語を並べたりしている。

感想

黒田さんの英語の覚え方が強く印象に残りました。自分なりに工夫して英語を覚えているところが参考になると思ったからです。僕も映画が好きなので、これから洋画を見るときは、英語を聞いて耳を慣らし、少しでも英会話ができるようにしたいです。

Ⅴ　海外研修を終えて

ファームステイやオージーキッズとの交流では、日本とオーストラリアの違いをいくつか見つけることができました。

まずは、食事です。オーストラリアでは、主食はパンで、主菜は牛肉などの肉類でした。

次に生活習慣です。オーストラリアでは、シャワーを浴びるだけでお湯につかることはありませんでした。そのシャワーも時間が３分と限られていました。

また、オーストラリアでは、広大な土地にたくさんの牛を育てている家族での酪農経営を見ることができました。他にも、平屋建ての家が多いなど、日本とオーストラリアの文化や生活の違いを見つけることができました。オーストラリアで行われているたくさんのエコ活動や観光資源のアピールの工夫など、見習わなければいけないところも見つけることができ、とてもよい経験になりました。

この海外派遣事業で学んだことを今後の生活に生かし、よりよい秋田県、よりよい大仙市にすることに貢献していきたいと思いました。

Australia report

№.６　大曲中学校　　山蔦　陽平

Ⅰ．はじめに・・・

　英語は今、世界共通言語になっており、将来的にもさらに重要性が高まるのではないかと思います。
　僕は今学んでいる英語で、どれくらい外国の人とコミュニケーションを取れるのか、さらに生の英語を体で感じ学びたいと思い、今回の海外派遣事業に応募しました。
　海外派遣が決まったとき、オーストラリアに行けるという楽しみと、外国の人と本当にコミュニケーションを取れるのかという不安がありましたが、事前学習会を重ねるたびにその不安もなくなり、ますますオーストラリアに行きたいという気持ちが高まりました。

Ⅱ．自主研究テーマ

地球温暖化を改善するためにはどうするべきか

　現在、世界的な問題となっている地球温暖化の進行をくいとめるために、オーストラリアではどのような対策を行っているのか、また、まだ大仙市で行っていない対策もあるのではないかと考え、この自主研究テーマを設定しました。
　地球温暖化というのは、人の活動によって発生する二酸化炭素などの温室効果ガスが増加し、地球全体として、地表や大気の温度を上昇させ、人間や他の動物、自然環境に悪影響をおよぼすものです。

＜調べた内容＞

　僕はファームステイでお世話になった、大きな農場をもっているボーガートさんという女性に、地球温暖化について質問しました。ボーガートさんは丁寧に答えてくれました。

質問を通してわかったこと

〇ボーガートさん自身は地球温暖化を深刻な問題と感じていない。
　　（ → 一般の人たちにとってはまだ切実な問題にはなっていないのかもしれない。）
〇地球温暖化の原因のひとつに工場からのガスの排出があると考えている。
　　（ → この問題は日本でも同様である。）
〇水の使い方に気を使っている。オーストラリアでは水の使用に関わる６０以上もの計画を推進している。
　　（ → 気候的に乾燥していて降水量も少ないからではないか。）

　また、オーストラリア滞在中に気付いたり感じたりしたこともありました。
〇ボーガートさんの家では３分間でお風呂を済ませる。
　　（ → ３分は大変だった…日本の水の豊かさに感謝！）

〇洗濯物の回数を少なくするように努力している。

（ → 回数だけではなく水の使用量そのものもできるだけ少なくしていた。）

〇強い日差し対策として、多くの店先でサングラスが大量に販売されていた。

（ → 紫外線をかなり意識していると感じた。日本と比べてサングラスをかけている人の数も多かった。）

〇ボーガートさんの家では日中の日差しが強くて気温の高い時間は外で遊ばないというルールがあった。　（ → 熱中症を防ぐためや紫外線対策としてのルールだと思った。）

＜考察＞

オーストラリアでは、家族全員で水を大切にする取り組みを毎日継続的に行っていて、家族内での意識が高いことを感じました。それは、気候的に乾燥していて、気温が高いためであり、水を大切にする習慣が根付いているからだと考えました。

大仙市でもエコチャレンジや、環境家族宣言など地球温暖化に対する取り組みをしていて、それぞれの家庭でエネルギーを節約できるように呼びかけています。しかし、ボーガート家のように、毎日継続して取り組んでいる家庭は、我が家も含めまだ少ないと思います。このような点から、オーストラリアの生活を見習うことが大切だと思いました。

また、ボーガートさんはオーストラリアでの地球温暖化の一因は工場のガスの排出だと言っていましたが、日本にもたくさんの工場があり同じような点で問題があると思います。そして、このようなことがオゾン層の破壊にもつながっているのではないかと考えました。

他にも、オゾン層の破壊が原因で人間や他の動物に悪影響を及ぼすものがあります。それは、紫外線です。僕は、日本で日焼け止めを塗るなどといった紫外線対策はあまりしていませんが、オーストラリアでは、そうした紫外線対策をする場面がよく見られ、日本人とオーストラリア人の紫外線対策の差が感じられました。

以上のことから、研修を通し視点はオゾン層の破壊にも広がりましたが、地球温暖化についてはその進行を止めるためにも、温室効果ガスを少なくする取り組みを国全体で、また大仙市としても、コツコツと行っていくことが何より大切だと考えました。

Ⅲ．エピソード

①ファームステイ

ステイ先のボーガートさんのお宅には、犬、猫、馬、牛、鶏などたくさんの動物がいました。その他に、卓球台、バスケットリング、トランポリンなどの遊具があり、楽しく過ごすことが出来ました。

＜1 日目＞　2014/1/4

家周辺の散歩をしました。大自然が目の前に広がり、気持ちよかったです。途中で、太古からの生き物、卵から産まれる哺乳類、カモノハシが住んでいるという池を通りました。

偶然にもその生きた化石**カモノハシ**を見ることができ、感激しました。また、夜の散歩では、日本では見たことのない種類のカエルやクモ、ふくろうなども見ることができ、1 日目にしてオーストラリアの大自然を感じることが出来ました。

＜2 日目＞2014/1/5

他のステイ先の仲間たちと一緒にピクニックに出かけ、色々な滝を巡りました。どの滝もすばらしくきれいでした。その夜も散歩して、今度はヤモリを見ることが出来ました。

＜3 日目＞2014/1/6

川の側の公園に行き、そのあとでショッピングに出かけました。

この日の夕食はボーガートさんたちにお好み焼きを作ってごちそうしました。ボーガートさんたちは「Delicious!」と言ってくれました。

＜4 日目＞2014/1/7

ファームステイの 4 日間も、あっという間に過ぎ、ボーガートさんたちと別れる日がやってきました。

ボリュームのある食事、大自然に囲まれての生活、言葉の違う国での 4 日間は充実した日々でした。

ホストファミリーにはとてもお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

②グレートバリアリーフ 2014/1/8

6 日目、世界遺産グレートバリアリーフに浮かぶグリーン島を訪れました。

グレートバリアリーフは南北約 2000km に及ぶさんご礁の海で、グリーン島は歩いて 30～40 分ぐらいで一周出来るような小さな観光の島です。島には飛べない小さな鳥がいて、人間の食べ物を常に狙っているようでした。よくポテトをくわえて逃げる姿を見ました。また、島内には色々な熱帯性の植物が生い茂っていて、初めて見る景色でした。

その後は海底透視船に乗り、さんご礁の海を楽しみました。あんなに透明な海は初めてです。ウミガメにも遭遇しました。

島のビーチでは泳ぎも楽しみました。砂浜は綺麗で、ゴミなどは全くありませんでした。自然環境が良く維持されていると感じられました。海の中は色々な種類の魚がたくさんいて、気持ちが高ぶりました。

地球の大自然にふれる経験でした。

③オーストラリアで働く日本人

ケアンズの旅行会社で働いている黒田さんのお話を聞くことが出来ました。

高校２年生の海外旅行でアメリカとメキシコに行き、そのときに英語に興味をもって、そこから英語を一生懸命勉強したそうです。映画を英語版で何回も観て勉強、さらに、寝る前に英語辞書の例文を繰り返し読んだそうです。

黒田さんの言葉で心に残っていることは、いきなり大きな壁から挑むのではなく、低い壁から挑むことが大事だということ、好きなことを活用すれば続けられるし、近道であるということです。僕は、海外で働くためには英語を聞き取ること、思い切って話すことが大事だと思いました。黒田さんのお話を、これから英語を学ぶ上で参考にしていきたいと思います。

Ⅳ．海外研修を終えて

初めての海外生活でしたが、英語がどんどん耳に入ってくる環境は貴重な体験でした。

ファームステイでの簡単な会話では、自分の言葉で伝えることが出来たと思います。日が経つにつれてボーガートさんの言葉がだんだん聞き取れるようになってきて、自分の英語が伝わるともっともっと話してみたいという気持ちになりました。勇気をもって自分の気持ちを伝えることが、英語力アップに弾みをつける大事な行動だと思いました。

また、自分の研究課題について質問した中で 、

「What kind of generation method does Australia have? (オーストラリアでは、どんな発電方法を使用していますか？)」

というものがありました。僕は generation を辞書で調べて、「発電」という意味で使ったのですが、ボーガートさんに「世代」という意味に捉えられてしまい、返ってきた答えが自分の求めていた答えと違っていました。単語一つが色々な意味に捉えられるということを知りました。

短い期間のファームステイでしたが、自分の中でもっともっと英語を学びたいという気持ちに気付かされた一週間でした。

赤道を越えた南半球の国オーストラリアは、北半球に住んでいる僕にとって、なんとなく違和感がありました。帰国してから気づいたのですが、オーストラリアでは太陽のある方向が北側なので、太陽は右から昇って左に沈みます。違和感があったのは、そのせいかな･･･と思いました。もっと心して見てくればよかったと思います。

また、是非、オーストラリアに行きたいと思いました。

Australia レポート

No.７　大曲西中学校　　小松　彩音

１　はじめに

私がこの研修に応募した理由は三つあります。

一つ目は，以前，いとこや吹奏楽部の先輩が海外研修に参加したときの体験談を聞いたことがあったからです。とても楽しそうに話をしてくれる二人の姿を見て，私もぜひ参加したいと思っていました。

二つ目は，英語を学習してきた成果として，ＡＬＴの先生や国際留学生の方との交流の中で，会話が少しずつ聞き取れるようになったという実感をもてたことです。そのため，海外研修を通して，多くの方々と会話をして英語力を向上させるとともに，自分の視野を広げたいと考えました。

三つ目は，社会科の時間にオーストラリアが日本と深いつながりのある国であるということを学び，現地に足を運んで人々と交流を深めたいと思ったからです。

この研修に参加できることが決まったときから，出発の日をとても楽しみにしていました。しかし，自分の英語が本当に通じるのだろうかという不安が頭をよぎったときもありました。

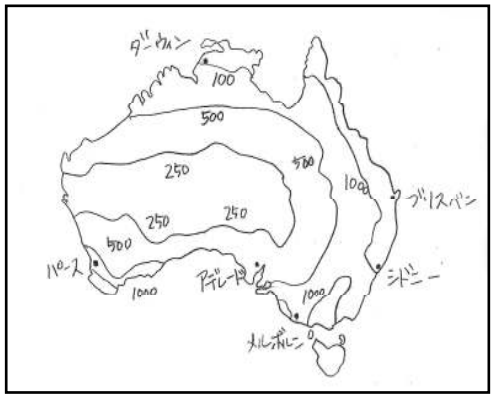
２　研究テーマと設定の理由

(1) 研究テーマ　**水資源を守るためにはどのような取り組みが必要か？**

(2) 設定の理由

大曲西中学校は環境教育に積極的に取り組んでいる学校です。特に，「ＥＣＯな農園活動」に重点を置いており，環境に優しい農業に挑戦しています。また，今年度，私も含めた２年生２７名が環境フィールドワークに参加し，小水力発電・太陽光発電・風力発電などの現状を目の当たりにするなど，環境保全の大切さを学んできました。そのような取り組みの中で，地球温暖化を防ぐために自分たちにもできる節電・節水・ゴミの分別などの大切さを強く感じ，全校で積極的に取り組んでいきたいと考えるようになりました。

また，社会科の時間にオーストラリアについて学習したとき，この国が乾燥大陸であるにもかかわらず，日本にも牛肉などを多く輸出している，食料自給率の高い農業国であることを知りました。そのため，決して気候に恵まれているとはいえないオーストラリアが，水資源を守るためにどのような取り組みを行っているのかということにとても関心をもちました。そこで，オーストラリアで行われている具体的な取り組みを学び，今後の自分の生活や学校での活動にも生かしていきたいと思い，このテーマを設定しました。



年間降水量(mm)

３　研究方法

(1) ファームステイ先の家族や，オーストラリアで働いている日本人の方々に水資源を守る取り組みについてインタビューする。

(2) ファームステイでの生活を通して，節水の取り組みについて調べる。

４ 調べて分かったこと

(1) インタビューから

「節水のために取り組んでいることはどんなことですか？」

・シャワーを浴びる時間を短くする。（５分で済ませる）
・菜園への水やりは２日に１回しかしない。
・必ずジョウロの先を付けて水やりをする。
・タンクに雨水を貯める。
・洗車や水打ちをしてはいけない地域もある。

(2) ファームステイでの生活を通して気付いたこと

・飲み水はスーパーで購入した物を使っている。
・水の値段が高い。
（３５０ml のペットボトル１本が約２００円）
・洗濯は毎日しない。浴槽は基本的に使わない。
・雨水を貯める巨大な貯水タンクがいたる所にある。

ファームステイ先の家にあった
貯水タンク（生活用水に使う）

値段の高い水

５ 考察

インタビューをしてみて，ファームステイ先の家ではシャワーの時間を短くしたり，菜園への水やりにも気を配ったりしていることが分かりました。シャワーを浴びる時，「Short. Very short.」と何度も言われるなど，日本では何も考えずにお湯を使ってきた私にとって驚くべきことであるとともに，それほどオーストラリアの人々は節水を意識しているのだと感心しました。このことは，ファームステイ先だけでなくマンガリーフォールズの方々にも聞きましたが，みんながシャワーの時間を短くすることに取り組んでいました。また，バスガイドさんから聞いた話では，オーストラリアの人々はリラックスをするときにしかバスタブにつからないそうです。日本では毎日入浴することが当然と思っていたので，その意識の違いに驚きました。

オーストラリアでは実際に１０年も干ばつが続いたことがあったそうです。そのため，水不足への対策についてみんながしっかりと考え，一人一人が高い意識で取り組むことができているようです。ファームステイ先にあった貯水タンクもその取り組みの一つだと思います。オーストラリアの人々の取り組みを見ていると，私たち日本人は「節電・節水・節約」などと言いつつも，まだまだ考えが甘いことに気づかされました。

私は，今回の研修を通して，自分が今まで水の無駄遣いをしていたことが多かったと感じました。私の家では地下水を使っており，いくらでも水が出てくるし，水道料金がかからないので，これまで水の大切さをあまり気にしていませんでした。これからは気をつけていきたいと思います。

また，ファームステイ先での菜園への水やりの様子を見て，中学校で行っている農園活動の際に水道の水を利用することもあったので，今以上に節水を心がけた取り組みができるように，今回の研修の成果をぜひみんなに紹介し，呼びかけを行っていきたいと思います。そのような地道な活動によって節水への意識が高まっていき，水の無駄遣いを減らしていけるのではないかと思います。日本は水が豊かな国と思われがちですが，どんな資源にも限りがあるということを常に心に留め，生活していきたいと思いました。

自然の家の張り紙（シャワーは5分）

６　エピソード

(1) ファームステイ

私は，Marita さんと Hans さんの家にファームステイしました。家には犬が２匹，その他にもインコやオウムなど，たくさんの動物がいました。また，大きいプールがあり，しかも深さが２メートルあると聞いてとても驚きました。最初は自分の英語が通じるかどうか不安で緊張していましたが，ホストファミリーのみなさんがたくさん話しかけてくれたおかげで緊張がほぐれました。

１日目は夜にゲームをしました。このゲームは毎晩やることになりましたが，私が１日目のチャンピオンになることができました。ゲームを通して，少しずつコミュニケーションをとることができるようになったように思います。

２日目は，滝やバッファローなどの見学に連れて行ってもらいました。滝の近くに行くとかなり迫力があり，涼しくて気持ちよかったです。

３日目は，パパからカーテンフィグツリーと呼ばれる木や，鉱物の店，チョコレートショップに連れて行ってもらいました。鉱物の店には私の身長より高さのある宝石もあり，驚きました。チョコレートショップでパパから買ってもらったチョコレートは甘くてとても美味しかったです。

私たちは日本の文化を紹介するために，そうめんをつくってごちそうしました。パパとママは喜んでたくさん食べてくれました。そうめんが好きだと言ってくれたのでうれしかったです。しかも，二人とも箸の使い方が上手なことに驚かされました。二人には日本語を教えましたが，生活の中でも教えた日本語を使ってくれてうれしかったです。

最終日はパパやママとのお別れが待っていました。できればもう１日いたいと思うほど楽しい毎日でした。パパとママには感謝の気持ちでいっぱいでした。ファームステイを通して貴重な体験ができ，よい思い出をつくることができました。

カーテンフィグツリー

きれいな石

でき上がったそうめん

(2) オージーキッズとの交流

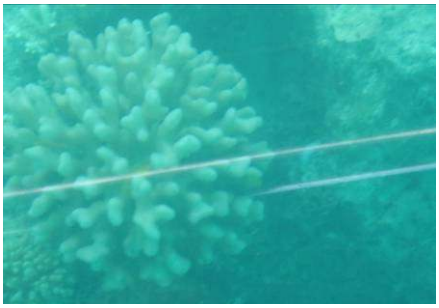
オージーキッズとの交流では障害物レースやダンスなどをしました。障害物レースでは，日本では考えられないような内容がたくさんあり，とにかく驚きました。顔に泥をつけたり，裸足で走り回ったりなど貴重な体験ができました。その後でダンスをしましたが，オージーキッズはみんな積極的に前に出て行ってダンスをしていました。私は，最初は恥ずかしかったのですが，踊ってみると意外に楽しく，障害物レースもダンスも，オージーキッズとの交流は日本ではできない貴重な体験だったと思います。

夜には土ボタルの鑑賞に行きました。土ボタルは，人によっては青白く見えたり，緑に見えたりするようです。私は青白く見えました。暗闇の中で見たたくさんの光がとてもきれいで，感動的でした。

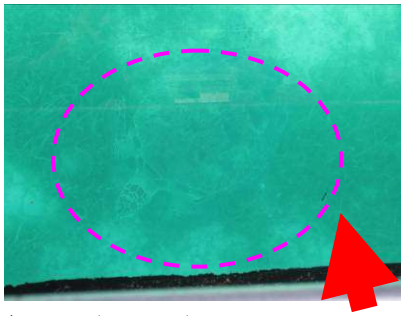
(3) グリーン島

１月８日には，世界自然遺産に登録されているグリーン島に行きました。グラスボトムボートに乗って下を見ると，海が透き通るようにきれいでした。日本では間近で見ることのできないような大きな亀や，きれいな魚を見ることができました。きれいな島で過ごした時間は本当に夢のようでした。

グリーン島



海中のさんご



グラスボトムボートから見た亀

７　海外で活躍している日本人の方々や，昨年度まで大仙市でＣＩＲを務めておられたレベッカさんへのインタビューから学んだこと

(1)　マンガリーフォールズで働いている日本人の方々とのＱ＆Ａ

①　「どうやって英語が話せるようになりましたか？」

- 外国の方と勇気をもって話した
- ＤＶＤに字幕を付けて見る
- 留学をした
- 英語のＣＤの歌詞カードを見る
- 外国人が話しているのを聞いて使い方を学ぶ
- 楽しくコミュニケーションをとる

②　「なぜオーストラリアでこの仕事を始めようと思ったのですか？」

- 中学校か高校の先生になりたかったから
- 英語を話せる医者になりたかったから
- カナダでのファームステイが新鮮だったから
- 世界に行くのが夢だったから
- 好きな歌手の歌詞の中にこの地名があったから
- 海外に行きたかったから

③　「オーストラリアに来てよかったと思うことは何ですか？」

- 世界中の人々と会話ができること
- 出会いに恵まれたこと
- 貴重な体験ができること
- 仲間と一緒にいられること
- 自信が確信に変わったこと
- 他国の人と話せるようになること
- 海があり，雨が降らないこと

④　「オーストラリアに来て大変だったことや困ったことは何ですか？」

- 警察とのやりとり
- 方言が難しいこと
- 虫に刺されること
- パスポートをなくしたこと
- 英語ばかり話していると日本語が話せなくなること
- 病院での支払いが高額なこと
- 電話（ジェスチャーができないから）

⑤　「英語が伝わらないときはどうやって対処しますか？」

- ゆっくり話す
- 他の人に聞く
- 違う言い方をしてみる
- 大げさにジェスチャーをする
- 絵を書いて説明する
- 簡単に話す
- 少し待ってもらう
- 発音を意識して話す

⑥　「観光客とのコミュニケーションで重要なことは何ですか？」

- 地図を書いてあげたり，その場所に連れて行ってあげたりする
- あいさつをする
- 目を合わせて話す
- スマイル
- 軽くしゃべってみる
- 自分で話の流れを作る

(2)　貞丸さん（日本食レストランに勤務されています）とのＱ＆Ａ

Ｑ１　なぜオーストラリアで仕事を始めようと思ったのですか？
Ａ１　ツアーガイドになるという夢を叶えるため
Ｑ２　今までで大変だった仕事は何ですか？
Ａ２　ツアーガイドの研修（覚えることがたくさんあった）

(3)　黒田さん（日本旅行の現地支店長さんです）とのＱ＆Ａ

Ｑ１　なぜオーストラリアで仕事を始めようと思ったのですか？
Ａ１　高校の時に修学旅行で行ったアメリカやメキシコのガイドさんがかっこよくて，興味をもったから
Ｑ２　英語はどのようにして学びますか？
Ａ２　自分の好きなドラマや本を英語で見る
<アドバイスとして>　他の国の人との交流が大切です

(4)　Rebecca さん（昨年度まで大仙市のＣＩＲを務めておられた方です）とのＱ＆Ａ

Ｑ１　なぜオーストラリアに戻ってきたのですか？
Ａ１　先生になるための勉強をするため
Ｑ２　日本語を話せてよかったことは何ですか？
Ａ２　コミュニケーションがとりやすい
Ｑ３　大仙市に来て一番よかったことは何ですか？
Ａ３　貴重な体験ができたこと
（田植え・稲刈り・幼稚園や小学校での授業・様々な祭りに参加したことなど）
<アドバイスとして>　ＡＬＴの先生に積極的に話しかけることや，毎日少しずつ勉強すること

インタビューを通して，英語を身に付けるためには積極的にコミュニケーションをとることが大切であると改めて強く思いました。これからはＡＬＴの先生にも自分から積極的に話しかけてみようと思います。また，毎日少しずつでも継続して学習に取り組むことで，自分の英語力をもっともっと向上させていきたいと考えています。

８　海外研修を終えて

今回の海外研修では，日常生活ではできないような貴重な体験を数多くさせていただきました。初めのうちは少なからず不安もありましたが，最終日にはもっとオーストラリアで生活したいと思うほどのよい思い出ができました。

また，インタビューを通して，日本では当たり前だと思っていたことがオーストラリアではまったく通用しないこともあると分かり，オーストラリアの人々の節水への意識の高さに驚かされました。今まで様々な環境問題について考え，自分なりに実践をしてきたつもりでしたが，海外研修をさせていただいたことにより，環境保全のためにできることがまだあるのではないかと考えさせられました。これからは周囲の人々への呼びかけをするなど，水などの資源を有効活用できる「持続可能な社会」の実現を目指して一つ一つ実践を積み重ねていきたいと思います。

オーストラリアで生活してみて感じたことは，自分の英語力の未熟さです。これからはより積極的に英語の学習に取り組んでいきたいと思います。また，今回経験したことや学んだことを生かし，これからの学校生活や将来に役立てていきたいと思います。

今回は貴重な体験をさせていただき，ありがとうございました。

■Australia report ～環境問題への取り組みはどうあるべきか？～

№８　大曲南中学校　　佐藤　栞夏

Ⅰ．はじめに

私は中学生になってから英語に興味をもちました。きっかけは、英語の先生やALTの先生が英語で話しているのを聞き、私もあんなふうに会話したいと思ったことです。さらに、イングリッシュキャンプに参加した際に、外国の先生が紹介してくれた各国の文化などが印象的だったことも理由の一つです。そのようなことから、私も外国に行って現地で生の英語を聞いたり話したりしてみたいと思い、この研修に参加させていただきました。

Ⅱ．研究テーマ

「各家庭や地域の環境問題への取り組みはどうあるべきか？」

設定の理由

環境問題は、テレビや新聞で取り上げられない日がないほど、私たちに身近なテーマであると思います。大曲南中学校でも全校をあげて取り組んでいます。しかし、『学校でのecoの取り組みは盛んだが、それぞれの家庭にはあまり浸透していないのでは？』と感じていました。また、『環境保護につながる取り組みが画一的では？』という思いもありました。過去にこの研修に参加した先輩たちの研修レポートを見ると、オーストラリアでは多くの場面で環境保護のための取り組みが行われているとありました。いろいろな取り組みがもっと広まるためにはどのようなことをしていけばいいのか、実際に行われている様子を見たり聞いたりすることが一番ではないかと考え、このテーマにしました。

Ⅲ．調べた内容

□オーストラリアのエコ

☆節電について

オーストラリアのコンセントにはスイッチがついていました。プラグを差すだけで電気が流れる日本のものとは違って、プラグを差し、スイッチを押さないと電気は流れないという仕組みでした。このコンセントだと待機電流がカットされ、電気の無駄がなくなります。エコに配慮した工夫がされていると思いました。また、ファームステイ先では夕食後、夫婦で別々の部屋にいるのではなく、一つの部屋で２人とも仕事をしたり、テレビを見たりしていました。これは節電にもなり、家族のコミュニケーションを図ることもできるので、良いことだと思いました。

さらに、ホストファミリーの家の庭は，色とりどりのライトで飾られていましたが、日本で見かけるものと違っているのは，ソーラーパネルを利用しているところです。小さなことですが、ここにも節電の意識が感じられました。

☆節水について

オーストラリアの人は、日本人とは違い入浴をシャワーだけで済ませていることが分かりました。さらに、シャワーの使用時間も決めていました。私たちは水を使うのは4分間と言われました。日本での入浴のつもりで利用すると4分という時間は短かったです。慣れることも必要だとは思いますが、かなり大変でした。しかし、水を大切にしていることが実感できた体験でした。

□オーストラリアの一般家庭の取り組みについて

○ホストファミリーに質問　＜環境について＞

Q1.What are you doing to protect the environment?

【あなたは、環境保護のために何をしていますか？】

Answer.

We recycle our trash, grow our own fruit and vegetabies and eat our own beef and eggs.

【ゴミをリサイクルしているし、自分で果物と野菜を栽培し、育てた牛肉と卵を食べています。】

Q2.What do you think the environment will be like in fifty years?

【あなたは 50 年後の地球環境はどうなっていると思いますか？】

Answer.

If people around the world do not look after it for our children, they will suffer the consequences.

【世界中の人々が子供たちのための環境に責任をもたなければ、子供たちは良くない結果に苦しむことになるでしょう】

ホストファザーもホストマザーも日頃から環境のことに気をつけて生活している様子でした。また、ホストファザーは聖書の言葉も引用して「地球は人間だけのものではない」という話をしてくれました。ホストファミリーの言葉には共感できることがたくさんあり、これから私たちがやるべきことも考えていかなければならないと思いました。

Ⅳ. まとめ

『環境問題への取り組み』と言っても、オーストラリアの人たちは決して大げさなことをしているわけではなく、日常の生活の中で当たり前のこととして行っているように感じました。

電気に関しては、コンセントのように節電効果のある仕組みがあることは、オーストラリアの方が進んでいると思いました。日本でもスイッチのついた電源コードが販売されていますが、限られた場面でしか使用されていないように思います。個人での取り組みには限界もあると思うので、社会の仕組みの中に環境に対する配慮が取り入れられていけば、個人の意識に加え、社会全体で効果を上げることができるのではないかと思います。

水に関しては、豊かな水資源に恵まれている日本と比較することはできないと思いました。しかし、水を大切にする姿勢は学ぶべきだと感じました。十分にあるのだから無計画に使っていいという意識から、この環境をいつまでも残していくために、今から大事にしていこうという意識に変えていくことが求められているのではないかと思います。

各家庭や地域での環境保護への取り組みは、新たに大きなことに取り組むよりも、今の生活の中で少しだけ気を配る機会を増やすようにすることが大事なのではないかと思いました。

Ⅴ. エピソード

～ファームステイ～

私は、Cahill（ケイヒル）ファミリーの家に泊まらせてもらいました。

◇家族構成◇

父：Warren　　母：Anne　　娘：別居中　　犬：ジェダ

お父さんとお母さんが優しく話しかけてくれて、不安や緊張はあまりありませんでした。

Warren さんはたくさんの場所に連れて行ってくれました。底まで見えるくらい水のきれいな湖や、噴火でできた湖、家の周辺の広大な土地が見渡せる丘など。

Warren さんは広い土地と大きな湖を持っていました。お金持ちなんだと思いました。

Anne さんが作ってくれた料理はどれもおいしく、感動しました。まるで私が好きな食べ物を知っているかのようでした。そして外国のゲームを二つ教えてくれました。言葉が分からず少し戸惑うこともありましたが、優しく教えてくれました。働き者で、休んでいる姿をあまり見かけませんでした。すごい体力だと思いました。

Warren さんと Anne さんには、たくさんの友達がいました。どこかに出かけると必ず知り合いと話していました。顔の広い人たちだということが分かりました。

２人はロックミュージックが好きで、一緒に歌ったりするほど仲良しでした。

日本文化の紹介では、カレーうどんと白玉（みたらし）を作り、歌と一緒にプレゼントしました。食べ物は売っているものや、いつも母と一緒に作るもののようにはできず不安でしたが、「 Delicious ！」と言って食べてくれ、気に入ってもらえて良かったです。

私がプレゼントした歌は、「花は咲く」です。日本語の歌で、よく分からないと思ったのですが、好評でした。犬のジェダもジャンプをしていたので喜んでくれたのだと思います。気持ちの温かい家族に迎えてもらいうれしかったです。

Thank you very much!　I love you!

～オージーキッズとの交流～

私たち日本人とオージーキッズ混合の、二つのグループに分かれて競争をしました。

一つ目の競争は筏を作り、池を3往復した後その筏を分解して、先に終わった方が勝ちというゲームです。作る時は、オージーキッズの考えと私たちの考えが少し違い、戸惑ったりしました。でもジェスチャーなどでコミュニケーションを取り合い、途中までは他のグループに負けていたものの、最後は勝利を収めることができました。

二つ目は、障害物競走です。日本の運動会でやるような競走ではなく、かなりハードなものでした。でもオージーキッズと協力し、みんなでゴールすることができました。裸足で思いきり走ったので痛かったのですが、気持ち良かったです。

夕食後に、日本の歌や踊りなどを披露しました。その後はみんなでブッシュダンスを踊りました。難しかったのですが笑顔で楽しく踊っていると、キッズたちも入ってきてくれて、一緒に踊ることができました。初対面だったけれど、気持ちが一つになれた気がしました。

～土ボタル～

オージーキッズと別れた後、土ボタルを見に行きました。土ボタルは英語で「 grow worm 」、日本語では「ひかりきのこばえ」と言うそうです。土ボタルは「ひかりのハンター」とも呼ばれています。南半球の宝石だそうです。熱に弱く、人によって違う色に見えるという生き物です。白か青白く見えた場合、その人は人間的な目を持っていて、緑か黄色に見えた場合は野性的な目を持っているのだそうです。私には白色に見えました。不思議な世界がそこにはありました。

～グリーン島～

海の色がエメラルドグリーンでした。私が日本で見る海の色よりもずっと青かったです。私は初めてシュノーケリングに挑戦しました。きれいな海の中では大きな魚や珊瑚を見ることができました。今まで経験したことのない美しい世界を体験することができました。一生の思い出になりました。

泳いだ後はショッピングをしました。お会計などを英語でするのは難しかったですが、グリーン島はとても楽しく、また訪れてみたい場所でした。

～自由行動～

グリーン島からケアンズに戻った後、自由行動の時間がありました。私が行ったお店には、オーストラリアならではの商品があり、お土産も買いました。

夕食の時には自分でオーダーしました。店員さんに伝わるか不安でしたが、ゆっくり話してくれたおかげで聞き取ることができ、うまくオーダーすることができました。

充実した自由行動でしたが、オーストラリアでの生活が今日で最後だと思うと、何だか悲しかったです。

～こんなところに日本人～

私がインタビューしたのは日本食レストランで働いている貞丸さんです。

高校2年生の時に初めてオーストラリアを訪れたそうです。その後、また貞丸さんがオーストラリアに来た理由は、この国が好きだからだそうです。

現在は日本食レストランで働いている貞丸さんですが、過去に次のような仕事もしたことがあるそうです。

1　いちごファーム
2　カフェ（バリスタの研修）
3　ツアーガイド（研修）
4　モデル

※この中で一番英語を使うのは今の日本食レストランだそうです。

ちなみにレストランで現地の人たちに人気なのは「カルビ・ハラミ・たこわさび・カツ」だそうです。

貞丸さんは小学校1年生から英語の勉強を始め、中学校から英語コースのある高校に推薦されたそうです。そんなに英語を勉強した彼女でも高校2年生で留学すると、英語が通じなくてショックだったそうです。そこで、塾の外国人教師との勉強のほか、携帯・テレビを全て英語に設定したそうです。今後の彼女の目標は、オーストラリアの良いところを日本の人、世界の人に知ってもらうことだそうです。そのために努力していくと言っていました。

貞丸さんは、「積み重ねが大事」「耳を慣らす」「思いついたらすぐにやる」など、将来に役立つことを自らの経験から語ってくれました。その中でも私は、「笑顔が一番」という言葉がとても印象に残っています。日常生活でも接客業でもやはり笑顔は重要なのだそうです。今からでもがんばっていきたいです。

Ⅵ. 海外研修を終えて

オーストラリアを訪れて得るものがたくさんありました。季節が正反対の、行ったこともない国へ踏み出すのは、期待もありましたが不安も感じていました。今は行って良かったと思っています。一番楽しみにしていたファームステイでは自分の英語が相手に伝わり本当にうれしかったです。住んでいる場所や国籍が違っていても、積極的に話すとお互いに通じ合えることが分かりました。ホストファミリーと過ごした3日間は忘れられないすてきな思い出になりました。

オーストラリアでは自然に触れることの楽しさも知りました。日本では道路を作るために木を切ることが多く、都市の中には植物が少ないです。オーストラリアでは道路沿いにもたくさんの植物がありました。ちょっとした違いではありますが、人々の環境に対する意識が高いことが分かりました。

また、オーストラリアでは年齢、男女問わず自然の中で遊んでいました。家の中で読書やゲームをするのも良いですが、自然とふれ合うのも良いことだと思います。これは自然保護、節電などにもつながると思います。

今回、海外研修に参加して素晴らしい経験をたくさんすることができました。この経験を忘れずに大好きな英語にもっと力を入れたいです。また、普段からエコに配慮した生活を心がけたいと思います。そして、大仙市を訪れた人に“ここの環境は素晴らしい”と思ってもらえるように、家庭でも地域でも積極的に活動していきたいと思います。

最後に、チャンスを与えてくださった大仙市教育委員会の皆様、背中を押してくれた先生方、家族に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

オーストラリアで学んだこと

№.９　平和中学校　　小林　久峻

１　はじめに

私は動物が大好きなので，将来は動物にかかわる仕事をしたいと思っています。３年前にこの研修に参加した姉から，オーストラリアでは野生動物の保護に力を入れていると聞いて，自分も是非行ってみたい，実際にどんな保護活動をしているのか見てみたいと思っていました。

また，９月の英語暗唱弁論大会に出場したとき，自分の力の未熟さを感じたので，英語力を向上させるチャンスだと思い，この研修に参加しました。

２　研究テーマと設定の理由

研究テーマ　**「野生動物を守りながら動物被害を減らすにはどうすればよいか？」**

私の父は，数年前まで車のフロント部分に金属製で頑丈な「カンガルーバー」を付けていました。「日本では見栄えをよくするために付けるけれど，本来は，日常的にカンガルーなどの野生動物との衝突が起こるオーストラリアで，車を保護するために付ける物だ。」という父の話を聞いて，とても驚きました。車を守るためとはいえ，かわいい動物を傷つけるかもしれない物を付ける必要があるのかと思ったからです。

また，祖父母の畑の作物を野生のタヌキ等にとられたと聞いたこともあり，大仙市では野生動物による作物被害に，どんな対策をとっているのか興味がわいてきました。今回の研修にあたって，オーストラリアの人たちは野生動物とどのように付き合っているのかを知り，私たちの生活に生かせることは何かを考えたいと思い，このような研修テーマにしました。

３　調べた内容

（１）オーストラリアの取り組み

オーストラリアでは，生物の固有種が１３００種以上に及び，国土も広いため，政府はもとより多くのボランティア団体が保護活動をしているようです。保護すべき野生動物には，かわいらしいコアラなどだけでなく，凶暴なワニ（クロコダイル）や蛇なども含まれています。

こうした野生動物の診察は無料で，２４時間体制で行われていると聞いて，日本との違いに驚きました。こうした活動をするためには，基礎解剖や動物のリハビリテーションなど専門の勉強をして資格を取る必要があるそうです。

私にとって興味深かったのは，カンガルーに対する取り組みです。日本では，動物園等で大事に飼育され

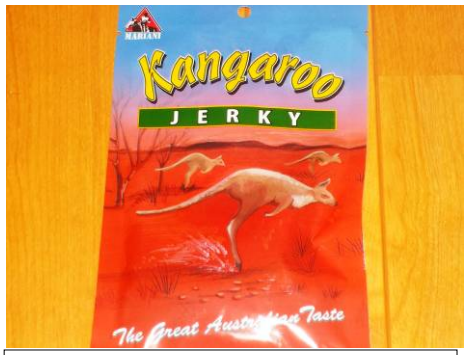
オーストラリア連邦政府が
コアラを絶滅危惧種に指定

クイーンズランド州，ニューサウスウエールズ州，そしてオーストラリア首都特別地域でのコアラの生息数の急激な減少を認め，オーストラリア環境法の下，２０１２年４月３０日付でコアラを絶滅危惧種に指定しました。

ている人気者ですが，オーストラリアでは違いました。野生動物として保護はするけれど，生息数が多くなると駆除（と畜）して，数をコントロールするそうです。カンガルーは主食となる草を欲して牧場に入るので，数が多くなると土地が荒れるなど，人間の生活に悪影響を与えるからです。

カンガルーの生息数を把握するため，政府は毎年その生息地域を低空で飛行し，調査します。さらに自然環境等を考慮した上で捕獲枠（全生息数の１５～２０％程度）を設定し，適正な頭数にコントロールするということでした。その捕獲数は年によって増減はあるものの，最近は増加傾向にあり，２０１２年は約４００万頭になったそうです。

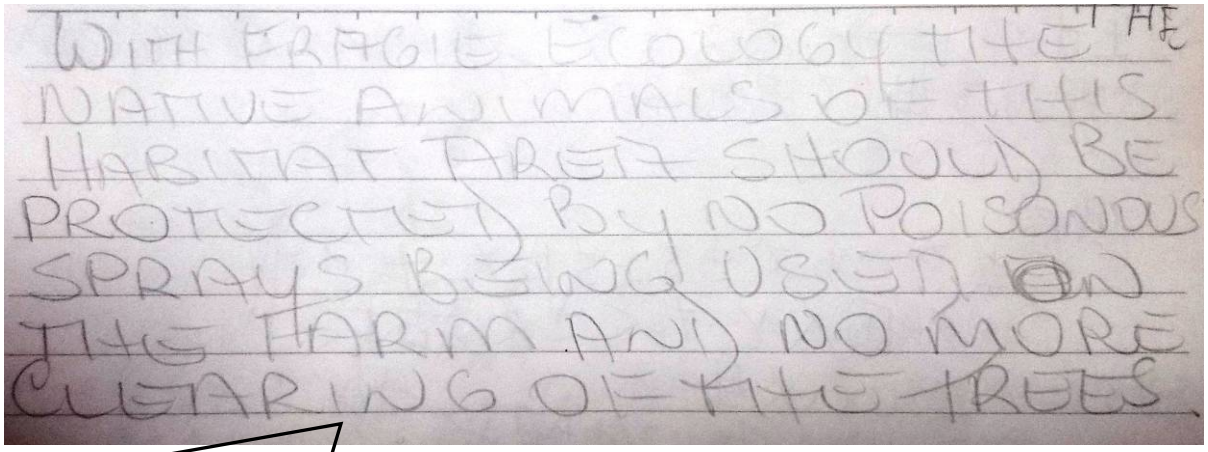
驚いたのは，駆除されたカンガルーが加工品として市場に流通しているということです。カンガルーは商業飼育されておらず，オーストラリアの街中であれほど売られているジャーキーのほか，肉や毛皮になるものも野生のカンガルーだということをホストファミリーが教えてくれました。あんなにかわいいカンガルーを食べるなんて，動物が大好きな私にはオーストラリアに行くまでは想像したこともなかったことなので，本当に驚きました。



カンガルーのジャーキー

（2）ホストファミリーの取り組み

ホストファミリーに，野生動物の保護についてどう思っているのかを尋ねてみると，ホストマザーがノートに次のように書いてくれました。



日本語に訳してみると・・・「破壊されやすい環境の中では，もともといる固有種の動物たちは，農場などで使われる無害な噴霧剤や樹木を伐採しないことなどによって守られるべきだ。」と書いてくれました。

ステイ先でも実際に，噴霧剤は無害のものを使い，樹木をむやみに伐採しないで残すようにしたりしているそうです。

ファームステイ先の農場

（３）大仙市の取り組みと政府の取り組み

私は，野生動物を保護し，私たちの生活への影響を少なくするためには，オーストラリアのような取り組みを参考にしたらよいのではないかと考えました。

実際にどんな取り組みをしているのか調べてみると，大仙市では平成２１年度に「大仙市環境基本計画」が策定されたことを知りました。この計画は，環境への負担の少ない循環型社会をめざしたまちや自然と調和した安らぎと潤いのあるまち，環境について考え，実践するまちづくりのために，平成２１年４月からいろいろな取り組みを行い，平成３１年３月までの具体的な達成目標を立てたものです。

野生動物の保護について見てみると「現状維持」と書かれています。なぜ積極的な取り組みをしないのか疑問に思った私は，大仙市の担当課に電話で質問してみました。すると，予算面でも厳しく，新たな事業に着手することは難しい状況のようでした。

一方，環境省では，平成５年４月に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（「種の保存法」）が施行されました。絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存を図ることにより良好な自然環境を保全し，国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的としています。細かい規制や罰則があり，例えばその対象となる生物をあげる・売る・貸す，もらう・買う・借りるなどの取引をすると，懲役や罰金が科されるようです。政府はこの法律に基づき，生息数や国際的状況に応じて，罰則を厳しくしたり，新たな種類を追加したりしているようです。

しかし，広報活動が十分ではないために，実際にその詳細について知っているのは，専門的な分野のごくわずかな人たちに限られていると思われます。

４　考察

オーストラリアは日本よりもずっと，一人一人の野生動物保護への意識が高いと感じました。日本にも民間の動物保護（愛護）団体があり，捨て犬や捨て猫のもらい手を探す活動をしているのをニュースで聞いたことがあります。しかしその他の活動について，日常的に見聞きすることは少ないと思います。特に２４時間体制で動物を保護したり，無料で治療した後で自然に帰したりするボランティアの活動は，日本では少ないように思います。

ステイ先の農場の回りには草原が広がっていましたが，そこで黄色地に黒でカンガルーを描いた大きな標識を見つけました。これは，車と野生動物の交通事故を防ぐために設置されているそうです。生活のごく身近にカンガルーがいることを知りました。

また，と畜方法についても「人道的にカンガルーをと畜する手順（Code of Practice for the Humane Shooting of Kangaroos)」にしたがって，カンガルーに苦痛がないように駆除しなければならないということも，初めて知りました。

動物保護に熱心な国民性のためか，カンガルーのと畜方法やと畜頭数を巡って，オーストラリアではしばしば係争が起きているそうです。カンガルーは害獣か保護対象か・・・未だに定まっていないとホストマザーが話してくれました。

さらに調べてみると，３の（１）で紹介した２０１２年のオーストラリアにおけるカンガルーの捕獲数（約４００万頭）は，平成２４年度日本で生産された全ての牛のと畜頭数（１２０万頭：独立行政法人家畜改良センター調べ）の３倍以上の数であることが分かりました。

このことから，野生動物との付き合い方について，オーストラリアが国を挙げて取り組まなければ

ならない背景が，少し分かったような気がしました。

カンガルーをと畜してその頭数をコントロールすることは，私には何だか残酷な感じもします。しかし，人間に対する野生動物の被害を減らすために，日本でもオーストラリアのように毎年しっかり調査をした上でと畜して，野生動物の頭数をコントロールすることが必要だと思います。

5　エピソード

（1）ホストファミリー

私がお世話になった Borgart 家では，十数頭の牛を飼育し，そのほかに犬が３匹，猫が１匹，馬が１頭いました。身の回りにいろいろな動物がいる生活がうらやましいです。

お土産として私が持参したのは，竹とんぼと紙風船です。プレゼントしたらホストマザーが喜んでくれたのでうれしかったです。

川のそばに連れて行ってもらったピクニックも，楽しい思い出です。ほかのステイ先にいる友達やそのホストファミリーも集まって，広い草原でトカゲやチョウを追いかけて走り回りました。帰りに寄ったスーパーで，バニラ味のコーラを見つけましたが，おいしいかどうか分からないので買いませんでした。

Borgart 家の馬

身近にいるトカゲとチョウ

（2）オーストラリアで活躍する日本人

宿泊先の一つであるマンガリーフォールズ自然の家で働く日本人スタッフの方々や，オーストラリア在住のゲストの方々に，これまでの人生経験など貴重なお話を聞くことができました。

一番印象に残った貞丸さんのお話を紹介します。

オーストラリアで自分の夢を実現するために，貞丸さんはいろいろな仕事や勉強をしているそうです。今勉強しているツアーガイドの研修では，旅行のスケジュールを頭に入れるのはもちろんですが，オーストラリアの歴史，オーストラリアにいる動物や植物の名前と特徴なども詳しく学ぶそうです。

みなさんの表情を見ていると，本当にオーストラリアが大好きなんだなあと思いました。好きなことをやるのはとても楽しいけれど，話してくれた方々はみんな，そのために大変な努力もしています。私も，そういう気持ちで頑張っていきたいと思いました。

貞丸さんへのＱ＆Ａ

Ｑ：どんなお仕事をしていますか？

Ａ：農業（いちご），カフェ研修，ツアーガイド研修など。

Ｑ：なぜオーストラリアで，そのようなお仕事をしているのですか？

Ａ：高２のときに初めて来て，オーストラリアが大好きになった。そして，ここで接客業をしたいと思った。夢はツアーガイドになること。

Ｑ：なぜツアーガイドなのですか？

Ａ：自分がそうだったように，たくさんの人にオーストラリアを好きになってもらいたいから。

６　研修を終えて

今回の研修を通して，私は疑問に思ったことを自分で実際に見たり，調べたりしてみることの大切さを学びました。大仙市では，野生動物による大規模な被害は報告されていないようですが，今ある自然を壊さないように森林を残して，野生動物のすみかや食料を残してやればよいと思います。それが，野生動物を守りながらその被害を増やさないために大切なことだと思いました。

また，失敗を恐れずにやってみることが，コミュニケーションの第一歩だと知りました。ステイ先ではだれにも頼らず自分の思いを伝えなければならないので，指さしたり自分の知っている単語を並べたり，さらにジェスチャーも交えて一生懸命やってみました。ホストファミリーだけでなく買い物で訪れた店のスタッフも，私の英語を理解しようとしてくれました。私も真剣に聞いているうちに，相手の言っていることが何となく分かってきたときは，とてもうれしかったです。

今回の海外研修に参加して，本当によい経験ができました。支えてくれた多くの人たちに，心から感謝したいと思います。

オーストラリア紀行

№10　西仙北中学校　　阿部　嵩史

Ⅰ　はじめに

今回，オーストラリア海外派遣に参加した理由は，「外国の生活や文化，自然環境を実際に体験することで，新しい世界を知ること」，「日本とオーストラリアを比較することで，日本を再発見すること」でした。今回の体験を通して，日本や自分のものさしだけでものごとを考えるのではなく，広い視野でものを考えることや，様々な人たちと理解しあい，お互いを尊重しながらともに生きる姿勢の大切さを意識することができました。

Ⅱ　研究テーマと設定の理由

研究テーマ　自然環境を守り，生活の中のムダを無くすにはどうすべきか

キーワード　「環境保護」　「自然との共生」　「省エネルギー生活」

日本は多くの食料を輸入に頼っています。食料自給率はわずか 39%に過ぎません[1]。輸入が止まれば大変なことになってしまいます。えびやまぐろ，肉，小麦など私たちが普段口にしているものの大部分は輸入品です。食料自給率が 187%（平成２１年）と高く[2]，世界有数の農産物・資源輸出国であるオーストラリアとは事情が全く異なるのです。東南アジアなどでは，日本に輸出するえびの養殖場をつくるために，貴重な森林の環境破壊が進んでいます。

しかし，日本では，食べられるにもかかわらず捨てられる「食品ロス」と呼ばれるものが，年間約 900 万トンにものぼり，そのうち私たちの家庭からは年間約 400 万トンの食品ロスが出ていると推計されています[3]。家庭の食品ロスと呼ばれるものには，主に次の三つが挙げられます。一つ目は食べられる部分を捨てている過剰除去です。十分食べられる部分を調理せず簡単に捨ててしまうことなどです。二つ目は食べ残しです。三つ目は直接廃棄と呼ばれるもので，冷蔵庫などに長期間入れられたまま調理されず廃棄されたものです。

スーパーやコンビニエンスストアでの廃棄，飲食店での食べ残しも多いようですが，学校の給食や家庭での食事にも食品ロスは少なくないということです。私たちが安定した食生活を送るためには，食料自給率を上げるだけではなく，食品や食材をムダにすることなく使っていくことが大切だと思います。

これらのことは，飲料水やエネルギーについても同様のことが言えます。ムダは， 私たち一人一人の意識と工夫次第で減らすことができるのではないでしょうか。

そのような課題意識から，本研究テーマを設定しました。

Ⅲ　研究内容とまとめ

研究方法としては，オーストラリアの生活の中で，いかにして環境を守り，食料や水，エネルギーなどのムダを無くす工夫をしているかを，実際の生活体験や聞き取り調査を通して日本と比較対照しながら考察していきます。

まず，ファームステイ先の方に，「どのようにして自然環境を守り，生活の中のムダをなくしていますか？」と質問をなげかけたところ，「牧草地に農薬を使わない」（**写真１**），「ホルモン剤などの薬を与えられていない自然肥育の肉牛を育てる」（**写真２**），「放し飼いにされたストレスの少ない鶏から新鮮な卵をとる」という答えが返ってきました。

さらに，「水を大切にする」，「自然の水循環システムに汚染水を流し込まない」という答えが返ってきました。

最近は食の安全性や環境破壊の問題が世界的にクローズアップされていますが，ファームの方の説明からは，人間の口に直接入る食べ物の安全性を確保すると同時に，環境汚染を防ごうとする強い姿勢を感じ取ることが出来ました。

また、オーストラリアは国土の大部分が乾燥気候であるために，水が大変貴重なものとなっているそうです。そのため，雨水を貯水タンクに貯めて再利用し日常の生活に役立てています（**写真３**）。ファームステイ先でも，シャワーの時間が１回３～５分と決められていました。貴重な水に対する高い意識や日本での自分の日常生活との違いに驚かされました。

さらに，再生可能エネルギーである太陽エネルギーから電気を生み出しており，エネルギー節約のために家全体の消灯時間が午後９時と決められていました（**写真４**）。

これらのことは，日本での自分の日常生活からは到底考えられないことです。蛇口をひねればいつでもふんだんに水が使うことができ，テレビを見ながら暖房や冷房を使い，電気を大量に消費して夜遅くまで起きている日本の生活ではまずありえません。自然と共存し資源を大切にする意識をもつことの大切さを教わることができました。

日本は資源が少なく，エネルギーや食料のほとんどを輸入に頼っているにもかかわらず，多くのムダを生み出し，環境を破壊しています。その一方で，資源や食料に恵まれているオーストラリアが，いかにムダを少なくし環境を守るかを真剣に考えていることに大きな衝撃を受けました。今後の自分の生活をぜひ根本から見直さなければな

写真１　無農薬の牧草地

写真２　いきいきと育つ肉牛

写真３　雨水を貯めるタンク

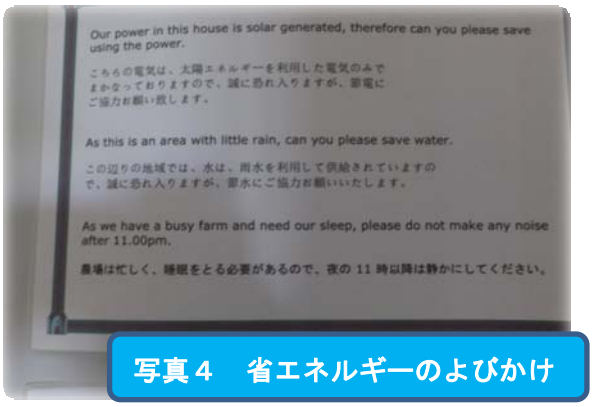


写真４　省エネルギーのよびかけ

らないと強く考えさせられました。

〔まとめ〕

今回のファームステイ体験を通して，他国での生活を実際に経験して初めて理解することのできるカルチャーショックを受けました。日本とオーストラリアの生活の違いや環境保護に対する意識の違いも実感することができました。

そして私たちも，自分たちの生活の中のムダを少しでも減らすことができれば，それが環境保護や自然との共生につながるのだと思いました。そのためには私たち一人一人の意識のもち方が非常に大切なのだということがわかりました。

今後の自分の生活スタイルを根本から考え直し，今回学んだことを生かしてムダを無くすための行動に移したいと思いました。

Ⅳ　エピソード

ⅰ　ファームステイでの思い出

私のファームステイでの一つ目の思い出は，ステイ先のファミリーに連れていってもらったピクニックです。ピクニックには，他のホストファミリーグループと一緒に行きました。まずはじめに，たくさんの滝を見ました。どの滝もすさまじい迫力で，泳いだらとても気持ちよさそうでした。

次にショッピングをしました。オーストラリアでの初めてのショッピングでは，飲み物を買おうとしましたが，あまりの高さに驚きました。日本では 100 円もしないような 500ml の飲み物が，場所によっては３～４オーストラリアドル（約 400 円）もしました。でも，買うしかなかったので仕方なく買いました。円以外の通貨での初めての買い物は大変でしたが，新鮮で楽しかったです。

二つ目の思い出は，ステイ先の敷地内を散策したことです。敷地は広く，回るのに１～２時間かかりました。途中には池があり，そこには何とカモノハシがいました。とても驚きました。

その他にもたくさんの犬や猫とのふれあいや，トランポリンやバスケットボールなどのスポーツもしました。食事では，慣れないナイフとフォークで食べるのが大変でしたが，おいしくいただくことができました。何もかもが新鮮で楽しいファームステイでした。

ⅱ　グレートバリアリーフ（グリーン島）での思い出

グレートバリアリーフは，オーストラリアの東海岸沿いに全長約 2,600km の長さにわたって続く世界最大の珊瑚礁で，400 種のサンゴからなるサンゴ礁が連なっており，世界自然遺産にも登録されています。サンゴ礁の形成には，地形や水質，水温などの地球の環境が大きく作用することから，環境が守られていることがわかります。

この地域は世界最大の海洋生物の宝庫でもあ

り，1,500 種以上の魚類，242 種の鳥類，約 350 種の棘皮動物（とげをもつ動物），約 4,000 種の軟体動物が棲息しています。ジュゴンやウミガメ，ザトウクジラなど絶滅の恐れがある生物の棲息地としても知られています[4]。

飛べない鳥　ナンヨウクイナ

私たちは，そのグレートバリアリーフに浮かぶグリーン島へ船で向かいました。船上で受ける風はとても気持ちよかったです。グリーン島に近づくと海の色が変わりたくさんの美しい珊瑚が見えてきました。

グリーン島では，シュノーケリングをしました。海はとても透き通っていて，たくさんの魚がいました。ただ，塩分が濃いのか，ここの海水はしょっぱかったです。しばらく泳いでいると，えさを食べているウミガメを見つけました。ウミガメは，近づいても逃げなかったので，甲羅などに触ることが出来ました。初めての経験で感動的でした。

その後，私たちは，昼食を取ろうとハンバーガーショップに行きました。普通のハンバーガーを頼みましたが，高さが 20ｃｍもありそうなハンバーガーと大量のポテトが来て，驚きました。なんとか頑張って食べました。

次に，グリーン島を 1 周しました。グリーン島の中はたくさんの木々が生い茂っていて，海辺の方とはまた違い楽しかったです。グリーン島は世界遺産のため，ルールが厳しかったのが印象的でした。次の日の日焼けの痛さも，いい思い出になりました。

ⅲ　オーストラリアで出会った人たち

・ボーガート　ファミリー
・マンガリー自然の家の方々
・ベックさん
・日本旅行ケアンズ支店長　黒田さん
・貞丸さん

マンガリーで出会った日本人

☆　黒田さんにインタビューしてみました。
Ｑ　英語は，どうやって覚えましたか？
Ａ・いきなり高い壁から挑戦せず，低い壁から順に。
　・自分の好きなこと，好きなものに関係する英単語から覚えると近道。
　・勇気をもって話す。

今回オーストラリアで活躍する様々な人たちの話を聞くと，「小さい頃からの自分の夢を叶えるため」や，「ちょっと来てみたかった」など，オーストラリアに来た理由は様々でした。みなさんに唯一共通していたことは，英会話がとにかく大変だったということです。しかし，みなさんは様々な工夫をこらして英会話力を身に付けようとしていました。「最後まであきらめずに，とにかくチャレンジすることが大事」と，「あきらめるのが一番だめだ」と言っていた方の言葉が印象に残りました。

このことから，どんなに大変なことでも小さな工夫をこらすなど，様々な努力をすること

や，できないことでもできるまでやり抜く力をつけていきたいと強く思いました。自分の将来につながるとてもよい話を聞くことができました。

Ⅴ　研修を終えて

今回のオーストラリア海外研修を終えて，「外国の生活や文化，自然環境を実際に体験することで，新しい世界を知ること」，「日本とオーストラリアを比較することで，日本を再発見すること」という目的は十分達成されたと思います。

今までは，日本や自分の常識だけでものを考え，人と接してきました。しかし，世界には様々な考えをもった人たちがいるので，広い視野でものを考えることや，お互いに理解し合い尊重し合いながら共に生きることが大切だということも学ぶことができました。オーストラリアという未知の世界に飛び込んで自分が実際に経験し学んだことを，今後の生活に生かしていきたいと思います。すばらしい経験の機会を与えて頂いたことに心から感謝します。

Thank　you, wonderful　Australia！

１　「平成 24 年度食料自給率について」（農林水産省）
２　「諸外国・地域の食料自給率の推移」（農林水産省）
３　「食品ロス統計調査」（農林水産省）
４　オーストラリア政府観光局資料

オーストラリアの８日間

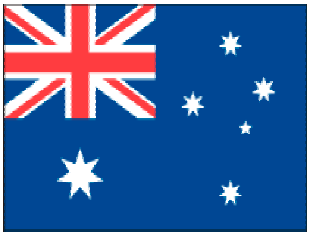
№11　西仙北中学校　　佐々木　寿美怜

＊＊＊はじめに＊＊＊

私は、小学生のときから英語に興味があり、英語に触れる機会はないかとずっと探していました。そして、期待をもって中学校に入ってみると、多くのチャンスが待っていました。そこで見つけた『オーストラリアへの海外研修』。オーストラリアについては、「南半球にあって、日本と気候が正反対で、日本とほぼ時差がない」という知識しかなかった私は、「どんな国なのか？　どんな人がいるのだろうか？　気候は？文化は？」などと、その国に対する疑問があふれてきました。こんなに興味をかきたてられる国はないと思い研修への参加を希望しました。

＊＊＊オーストラリアの基本情報＊＊＊

面積･･･約７６８万６千８５０平方キロメートル（日本の約２０倍）
人口･･･約２千１３０万人
気候･･･温帯湿潤気候（東海岸）…日本の気候と同じ
生息動物･･･コアラなどの有袋類が有名
消費税率･･･１０パーセント（ただし非課税のものも多い）
使用通貨･･･オーストラリアドル



＊＊＊国　旗＊＊＊

※※豆知識※※　「オーストラリアの国旗」に「イギリスの国旗」が含まれるのはなぜか？
・１７８８年、イギリスの流刑植民地になった。
　イギリスからの移民が先住民のアボリジニを奴隷として働かせた。
・１９０１年、６州で連邦を結成し、イギリスから独立。
「オーストラリアの国旗」に「イギリスの国旗」が含まれるのは、昔イギリスの植民地だったからなのである。
　現在は、羊毛・小麦・牛肉・砂糖などを産出する農牧業国に発展した。

＊＊＊研究テーマ＊＊＊

私は、「環境を保つためにはどのような取り組みが必要だろうか」を研究テーマに、調査することにしました。
　このテーマを設定した理由は、現在世界的に問題となっている地球温暖化が気になっていたからです。日本や大仙市では、節電・節水などが呼びかけられていますが、

他の国ではどのような取り組みが行われているのかよくわかりません。そこで、ファームステイ先やホテルでの身の回りの取り組みをよく見て、オーストラリアの環境保護について調査することにしました。

＊＊＊身の回りでの取り組み＊＊＊

ファームステイが始まって２日目の朝、私たちはファームステイ先のお母さんに洗濯をお願いしました。洗濯物を詰め込んで洗剤を入れて･･･。そのときの洗剤の名前が『ECO』でした。私は、地球温暖化問題はどこへ行っても意識されているのだと確信しました。

また、オーストラリアの水道には、「飲める水」の場所と「飲めない水」の場所があります。そして、貴重な水資源を守るため、水の使用には注意が必要です。その具体例として、シャワーの水を使う時間が限られていました。ファームステイ先でも、宿泊した自然の家でも、シャワーの使用時間は３～４分と短かったです。

＊＊＊考察＊＊＊

オーストラリアでは、地球温暖化問題はどんなところでも意識されていることに感心しました。その国や場所で貴重な資源とされているものを大切に使うことが、今私たちが取り組むべきことであると感じます。そうすることによって地球環境も改善され、ひいては地球温暖化を食い止めることにつながるのだと思います。私も、ふだんの生活の中で今まで以上に改善できるところはないか、もう一度見直したいと思いました。

＊＊＊エピソード＊＊＊

私たちはファームステイ２日目の夜、日本の食べ物を知ってもらうために、カレーうどんと白玉もちを作りました。そして、ステイ先のお母さんに作り方を教えるために英語で

一生懸命伝えようと努力しました。

そのおかげでしょうか。グループのみんなとの会話の中にも英単語が出てくるようになりました。また、ファームステイ先のお母さんやお父さんとも何となくですが会話できるようになったのです。それまではほとんど話しかけることもできずにいたのですが、私たちの変化がわかったのでしょうか、ステイ先のお母さんやお父さんにいつも以上に「SMILE」があふれていました。

←ステイ先のお母さん特製のオープンサンドです。

私たち特製のカレーうどんです。→

＊＊＊「AUSTRALIA」を伝えたい！！
オーストラリアで日本人発見！！＊＊＊

オーストラリアでは、現地で働く日本人の方々にお話を聞く機会がありました。

私がインタビューした方は、笑顔がチャームポイントの貞丸（さだまる）さんです。高校２年生のとき、３週間のホームステイと語学研修をするため初めてオーストラリアにやって来たそうです。小学生のとき、英語の塾に通っていた貞丸さん。英語は得意で誰よりも自信があり、日本の学校でいつも習っている文法や筆記ができているから海外に行っても大丈夫だと安心していたそうです。

しかし、いざオーストラリアに着いてみると、英語で話しかけられても何を言っているのか全くわからず、手も足も出ない状況だったそうです。

その後、日本に帰った貞丸さんは、このままではだめだと思い、英会話教室に通って力をつけたそうです。当然ですがすぐに身につくことではなく、「毎日の努力の積み重ね 」だと教えてくださいました。

そして今は、日本で学んだ「毎日の積み重ね」を忘れず、「ジェスチャー」や「顔の表情」をつけ、相手に伝えようとする気持ちをもつことを大切にしているとおっしゃっていました。

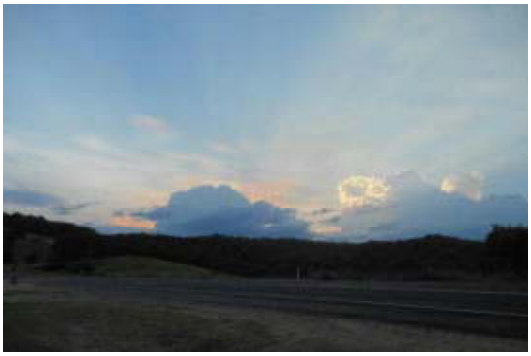
＊＊＊海外研修を終えて＊＊＊

人に頼りきってしまったり、チャレンジする気持ちをあまりもとうとしなかったり。出発前の「甘い自分」を、オーストラリアで「初めてのことに前向きに取り組む自分」、「人ともっと関わろうとする新たな自分」に成長させることができた１週間でした。

これからの自分をもっと成長させて、将来は英語を使って海外で働きたいという夢をもつことができました。今まで以上に自らの世界を広げ、たくさんのことにチャレンジする、積極的かつ冷静な自分を作り上げていきたいです。

また、私たちの大切な環境を守るためには、日頃の小さな努力の積み重ねが大切だと感じました。

動植物が生きる豊かな土地や海、美しい空などの自然を守るためには、まず自分の生活を見直してみることだと思います。例えば、「お風呂を家族で間を空けないように続けて入る」などの取り組みをすることで、冷めたお湯に再び温かいお湯をつぎ足すことなく入れるので、お湯を大量に使わなくてもよくなります。使用するエネルギーを意識して暮らすことで、地球にかける負担が少なくなるのです。そしてこれは、毎日積み重ねることに意味があるのです。



日本では「ECO」だ「ECO」だ、と言われていますが、「『ECO』とはなんですか。」と聞かれたら、皆さんはすぐに答えることができるでしょうか。

↑世界自然遺産のグレートバリアリーフに浮かぶグリーン島　　別名「珊瑚の島」

このような美しい環境を守ることは、考えているだけではできません。行動することが「ECO」につながります。私たちの未来を作り守るのは、私たちなのです。

報告書 in Australia

No.12　西仙北中学校　佐々木　萌李

～はじめに～

私は中学１年生のときに大韓民国で１週間ホームステイをした経験があり、外国の文化や環境にふれ、日本との文化の違いやコミュニケーションの大切さを学び、海外で生活することの楽しさを知ることができました。また、私は以前から英語について興味があり、学校の英語の授業が毎日楽しみではあるものの、英会話に自信がなく、コミュニケーションをうまくとることができませんでした。そこで、今回のオーストラリアの海外研修を通してオーストラリアに住んでいる人と英語でのコミュニケーションを積極的に行うことで、英語力を向上させ、日本との結びつきが強いオーストラリアについての知識も得たいと思いました。また、オーストラリアの自然や文化にふれ、海外の文化のすばらしさを学びたいと思い、この海外派遣に参加しました。

～研修テーマとその設定理由～

私たちが住んでいる、秋田県・大仙市はとても自然が豊かです。オーストラリアもまたグレートバリアリーフやエアーズロックなどの自然遺産を数多く保有している自然豊かな国です。しかし、世界では環境汚染問題が広がり続けているので、いずれは私たちの身近でも問題が起きるかもしれません。私は、オーストラリアでは様々な環境問題に対して美しい自然を保護するためにどのような取り組みをしているのかに興味をもち、**「大仙市の豊かな自然を保護するためには、どうするべきか？」**という研究テーマで、自然を保護するための人々の工夫に注目しながら調査することにしました。

その前に・・・

研究テーマを調査をする前に、私の頭の中に一つの疑問が浮かびました。

☆オーストラリアの自然はどうなっているのだろうか？☆

そこで、簡単ですがオーストラリアの自然について調べたことを紹介したいと思います。

オーストラリアは南半球に位置しており、日本とは季節が逆になります。コアラやワラビーなどの日本では見られない動物もたくさんいます。（ちなみに私は、野生のワラビーを見ることができました。姿はカンガルーに似ていてとても可愛かったです。）街から少し離れるともうそこは大自然の中です。街中にも木々（熱帯雨林）がたくさんあり、自然が豊かなところでした。

オーストラリアの自然を満喫しながら、私はあることに気付き、そして驚きました。それは、道ばたにゴミが落ちていないことです。日本ではいたるところにゴミが落ちているので、オーストラリアのきれいな道路を見て感動しました。なぜオーストラリアの道路にはゴミがないのだろうかと、また新たな疑問を抱きました。

～調べた内容と結果～

私はオーストラリア政府や、オーストラリアに住んでいる人々が自然・環境を保護するために行っている取り組みについて調べました。その調べた内容と結果をお伝えします。

今、オーストラリアは深刻な水不足に悩まされているそうです。人々は水がなくならないように工夫をして生活していました。

例えば・・・

☆普段から水を意識して大切に使う

☆浴槽にお湯はためない（日本のように湯船には入れない）

☆シャワーは５分以内（各家庭によって時間は多少異なる）

☆雨水を貯めて利用　　・・・など

私たちがステイした地域では水道水が飲料水ではないので、飲料水は購入しなければなりません。そのことからも、水は大変貴重だということがよくわかります。また、浴室にはシャワーしかありませんでした。浴槽にお湯をためていたら，大事な水がなくなってしまうからです。さらに、シャワーを浴びる時間も制限されていました。

このようにオーストラリアの人々は、水がなくならないように日常生活で節水するたくさんの工夫をしていました。人々がそれぞれ工夫をして生活をしている姿を見て私は感激し、このような工夫を大仙市でもすると無駄に使っている水の量をかなり減らすことができると思いました。

また、「なぜオーストラリアの道路にはゴミがないのだろうか？」という疑問に対しては、その理由を見つけることができました。オーストラリアにはいたるところにゴミ箱が設置されています。ゴミ箱があることで、人々は道路にゴミを捨てることがないのだと思います。

また、「ゴミをなるべく出さない」という工夫もしていました。私のお世話になったステイ先では、食べ残しなどを家で飼っているニワトリの餌にしていました。他にもゴミを出さない工夫として、ecoバッグの使用などもありました。日本でもスーパーによりますが、お店でくれるようなビニール袋は、オーストラリアでは必ずお金がかかるため、ecoバッグなどの自分で持参する袋を使用しているそうです。

また、国として行っている取り組みもたくさんあります。国立公園などの利用規則が厳しかったり、国では環境問題の国際会議に積極的に参加したり、オーストラリア

の自然・環境を守るために環境保護運動を活発に行っています。
オーストラリアの人々は、「ゴミを捨てる」の前に、「ゴミを出さない」という考えの方が大きいのだと思いました。このような努力により、オーストラリアの美しい自然・環境が守られているのだと実感しました。

☆まとめ☆

オーストラリア人は自然・環境を保護する必要があるという意識を常にもって生活しているということがわかりました。私たちもこれを見習い、自分の身の回りの課題をしっかり理解した上で、それを改善するよう生活することが必要なのだと思いました。そのためには、一人一人がもっと環境問題に興味をもち、具体的に取り組むことが、今私たちがしなければいけないことの一つだと思います。豊かな自然と環境を守り続けることが求められています。私は、大仙市の豊かな自然を守っていくために、私たちにできることはまだまだたくさんあるのではないかと思い、ますます環境問題に対する関心が強くなりました。
オーストラリアで学んだことや感じたことを広く発信し、これからの大仙市、秋田県、日本、そして、世界の取り組みに生かせたらと思います。

～メモリアル～

オーストラリアの研修で、楽しみにしていたことの一つとして、３日間のホームステイがあります。そこで、ホームステイの思い出を二つ紹介します。

☆楽しみと少し不安な気持ちをかかえて、いざステイ先へ・・・☆

私がファームステイしたところは、家の敷地内にプールのある、とても広い大きな家でした。Host father の Bob はとても明るく、オーストラリアについてたくさん教えてくれました。Host mother の Carmel はとても料理が上手で毎日の食事が楽しみでした。私は Bob のことを papa、Carmel のことを mama と呼び、生活しました。

～メモリアルその１・・・「滝めぐり＆ピクニック」～

ステイ先の家族と一緒に五つの有名な滝を見に行きました。自然が豊かなところで、気持ちよかったです。その日は暑かったので、川の中で泳いでいる人も見かけました。
そして、ピクニックもしました。mama が作ってくれた昼食を食べたり、遊具で遊んだりしました。オーストラリアの自然を身近に感じることができました。

～メモリアルその２・・・「日本の文化・食べ物紹介」～

３日目に私たちは、ホストファミリーにお世話になった感謝の気持ちを伝えるために、日本の文化・食べ物を紹介しました。

私は伝統芸能である、日本の踊りを披露しました。私は幼い頃から踊りを習っていて、大好きな踊りを外国で披露することができて嬉しかったです。踊りはマンガリーフォールズでも披露しました。今後もこのような機会があったら積極的に参加して、日本の文化や伝統を世界に発信したいと思いました。

ホストファミリーに、日本のカレーを作ってごちそうしました。カレールーは、日本から持っていきました。真心こめて作ったカレーはとても好評で、みんな「おいしい！」と喜んで食べてくれたので嬉しかったです。

私たちの「おもてなし」は大成功となり、よかったです。

～グレートバリアリーフに行って～

５日目には世界自然遺産のグレートバリアリーフに浮かぶ、グリーン島に行きました。グレートバリアリーフは世界最大のサンゴ礁帯で、ジュゴン、ミドリウミガメ、ザトウクジラなどの希少生物がたくさん生息している美しい海です。

白い砂浜とエメラルドグリーンの海で、私は日本では決して味わうことができない体験をしました。一番思い出に残っているのは、シュノーケリングです。言葉には表せないほどきれいな海にうっとりしました。また、泳いでいるときにウミガメにも遭遇しました。あまりの可愛さに触りたかったのですが、うまく潜れず見るだけしかできませんでした。残念でしたが、貴重な体験ができました。

またいつかオーストラリアに行ったときは、再びグリーン島を訪れたいと思いました。

～海外で活躍する日本人にインタビューしました！～

☆今回の海外派遣で出会った日本人☆

・マンガリーフォールズ自然の家に勤めているスタッフさん
・オーストラリアに夢を叶えにきた貞丸さん
・日本旅行ケアンズ支店長の黒田さん
・オーストラリア在住のレベッカさん（前大仙市 CIR）

Q：外国の人と会話するとき、どのような工夫をしていますか？
A：ゆっくり話す。ジェスチャーをして、さらにわかりやすく。
話すことをおそれない。英語の練習を頑張る。伝わりづらかったら、絵などを使ったり、違う言葉で言い換える。

また、外国の人とコミュニケーションをとる上で重要なことも教えていただきました。それは、「スマイル」「アイコンタクト」「挨拶」「自分から話しかける」「会話の流れをつかむ」ということだそうです。

今回、海外で働いている方々から教えていただいたことは、これからの自分の将来にとても役立つことだと感じました。私の不得意なことの一つにコミュニケーションがあります。上手なコミュニケーションをとれるようになるために、今回聞いたお話を十分に活用していきたいと思います。

～海外研修を終えて～

オーストラリアでは、たくさんのことを実際に見て感じることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。はじめは自信がなかったのですが、自分なりに工夫しながら英語でコミュニケーションをとることができ、これから自分の英語力をさらに向上させたいという気持ちが強まりました。

また、他国の文化を学び、自国の文化と比べることで、互いの文化の良さを見つけることもできました。今回発見したことをこれからの生活で活用していきたいと思います。

このような一生の思い出に残る海外研修をすることができたのは、支えてくださった多くの方々のおかげです。

本当にありがとうございました。

オーストラリア研修で学んだこと

№13　中仙中学校　　冨岡　茉宝

Ⅰはじめに

初めてオーストラリアの海や自然について知ったのは社会の時間でした。教科書で見た綺麗な海，広大な自然。私はそこでオーストラリアに深く興味をもちました。「オーストラリアに行ってみたい。」「オーストラリアの自然と触れ合ってみたい。」と思い，このオーストラリア研修に申し込みました。そして，出発の日が近づくにつれ，楽しみな気持ちと不安な気持ちがどんどん大きくなっていきました。

Ⅱ研究テーマと設定の理由

研究テーマ　「伝統の音楽を多くの人に知ってもらうためにはどうしたら良いか？」

研修に参加するにあたり，オーストラリアについて調べてみることにしました。すると調べを進めるにつれ，自然以外にもたくさんの魅力があることに気付きました。私は吹奏楽部に所属しており，音楽に興味があるため，中でもオーストラリアの伝統音楽に心を惹かれました。

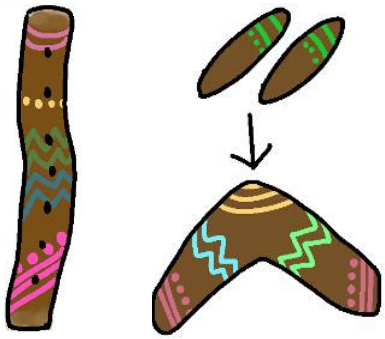
私の地域には「ドンパン節」という伝統芸能があり，お祭りや学校行事などを通じ，地域に広く伝承されています。しかし，全国的，世界的にはまだまだ知名度が高いとはいえません。そこで，地元以外の幅広い年齢層の方々にこの伝統芸能の魅力や楽しさを知ってもらいたいと思い，オーストラリアの伝統音楽がどのように伝承され，知名度を上げているのかを調べ，参考にしたいと考えました。

Ⅲ調べた内容

＜オーストラリアの伝統音楽について＞

オーストラリアの伝統音楽は，先住民であるアボリジニが演奏する音楽だと先生から教えてもらいました。そこで六日目のケアンズ市内散策で，アボリジニの楽器やグッズを売っている店へ先生に連れていっていただきました。そこにはアボリジニの音楽を聞けるコーナーがあり，いろいろな曲を聞くことができました。

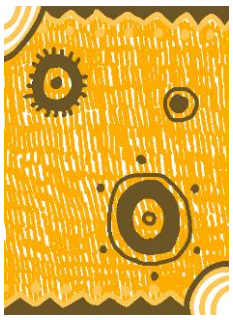
アボリジニの曲は，ラテンのようなリズムの明るい曲から重厚な感じのする曲まで，さまざまなジャンルがあり，今の時代に聴いても耳になじむ曲が昔から演奏されていたことがわかりました。

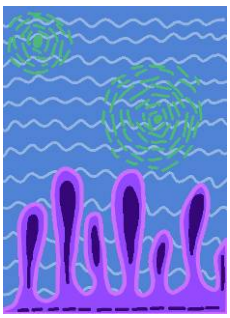


また，先生が，アボリジニに詳しいスタッフの方にお話をしてくださり，楽器について教えていただきました。アボリジニの楽器は，簡単にいうと二つ（左図）あるそうです。左側の楽器は，木にわざと白アリの巣をつくらせ，穴をあけて作るそうです。そのため，すべて形や音が異なり，同じようなものはなかなかないということでした。こちらは「ボオオー」と低い音がなります。

右側の楽器は，もともとは女性が穴を掘るために使っていた道具だったそうです。それを叩いて演奏に使うようになり「もっとよい音を…」と工夫されてできた楽器だそうです。どちらも，独特なペイントがされていました。

また，お店の壁にはたくさんの抽象的なイラストが展示されてありました。（右図）





アボリジニに関する本を読んでみると，描かれているものひとつひとつに意味があり，それらを組み合わせたものだとわかりました。アボリジニたちは昔，記号やイラストをつかって自分の場所や仲間の場所を伝えていたそうです。文字のない時代にそのような工夫をしていたことに驚かされました。

＜研究のまとめ＞

今回オーストラリアの伝統音楽と，その伝承のしかたについて詳しく知ることができました。オーストラリアでは先住民であるアボリジニの存在を尊重し，その音楽にも誇りをもち，守ろうとしていることが伝わってきました。オーストラリアの伝統音楽は，楽器の保存や音楽をＣＤ化することにより，後世に受け継ぎ，広い範囲に広げていこうとしていることがわかりました。私も，身近な伝統を大切に思い，多くの機会を生かして演奏していくことで，その魅力を地道に広めていきたいと思いました。

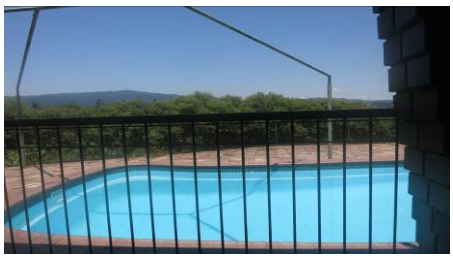
Ⅳエピソード

① とてもエコなオーストラリア

二日目からのファームステイで，私はキャメルさんとボブさんのお宅へ行きました。ステイ二日目の朝に牧場を見せていただけるということで行ってみました。そこで驚いたのは，果物の皮や残飯をニワトリにあげていたことです。私はそれを見て気になり，三日目の夜にゴミについて詳しくボブさんに聞きました。そこで教えていただいたのは，残飯や料理ででたゴミはニワトリのエサにしていること，ほとんどの家には分別のためのゴミ箱があること，プラスチック，紙，金属はすべてリサイクルに出すなどの取り組みでした。また，ポイ捨てされたゴミを見つけたら必ず拾うなど，エコに対する意識が高いことがわかりました。私も見習おうと思いました。

② ファームステイでの出来事

ファームステイの前，私はとても緊張して不安でいっぱいでした。しかし，ホストファミリーのボブさんとキャメルさんは素敵で明るく，不安が消えて楽しみな気持ちになりました。



とても気持ち良かったです ↑

今回のファームステイでは，たくさんのことに驚きました。

一つ目は家の大きさです。私が想像していたよりもはるかに大きく，綺麗で素敵な家でした。また，深さ２ｍもある大きなプールや，牛やニワトリがたくさんいる広大な牧場にも驚きました。

二つ目は英語の発音です。二日目，外出先から帰宅するとファームステイ先の家族に「グッドダィ？」と聞かれ，「良く死ぬ」という意味かと思い驚きました。オーストラリアの英語は，アメリカ式の英語と違い，なまりがあるため，「ディ」（日）が，「ダィ」と発音されるそうです。同じ英語といっても，少し違っているため大変でした。その他にも驚いたことはたくさんありましたが楽しい思い出もありました。

ファームステイ先には UNO があり，毎日グループのみんなとボブさんと UNO をしました。日本とはちょっと違ったルールで，最初はみんなボブさんに負けていましたが，慣れてくるとだんだん勝てるようになり，ボブさんと同じくらい上手になりました。

ファームステイの二日目，三日目はピクニックへ行きました。近

くのお宅にステイしていた男子のグループと一緒に滝を見たりショッピングをしたりしましたが，とても楽しかったです。滝には青やオレンジのトンボなど、見たことがない虫がたくさんいておもしろかったです。

ショッピングではスーパーマーケットへ行きました。そこで，少し疑問に思ったことがあります。スーパーの肉，牛乳コーナーは，日本のそれに比べ，とても商品が少なかったのです。その理由をキャメルさんに聞いてみました。すると，「肉や牛乳は，自分の家の牛からとれるものを食べたり飲んだりする人がほとんどなため，あまり買う人がいない」とのことでした。肉や牛乳はほぼスーパーマーケットで買っている自分にとって，驚きの経験でした。

毎日新しいことを体験し，ファームステイの三日間はあっという間に過ぎてしまいました。最終日の別れのときはとても寂しかったですが，またいつかオーストラリアを訪れ，ホストファミリーに会いたいと思いました。

③ 外国で働いている日本人

今回オーストラリアでは、現地で働く日本人にインタビューする機会がありました。

私がインタビューしたのは，日本旅行ケアンズ支店長の黒田さんと，ケアンズ市内の日本食レストランで働いている貞丸さんです。

＜黒田さん＞

オーストラリアに来ようと思った理由：高校生のとき，アメリカに修学旅行→英語がペラペラでかっこいい日本人を見た→日本旅行に入ろうと決意

そんな黒田さんですが，中学生のときは運動が得意だったので，体育の先生になろうと考えていたそうです。しかし，修学旅行を機に英語を使った仕事を目指すようになり，高校で英検二級を取り，和英辞書を毎日１ページずつ覚えるなど，とにかく英語の勉強を頑張ったそうです。お話の中で英語の勉強法をたくさん教えていただきました。

・寝る前は覚えやすい　・洋画に字幕をつけて，英語で見てみる　・趣味に英語を取り入れる
・和英辞書に飽きたら英英辞書も見てみる　etc・・・

などなど，これらの他にも詳しく教えていただきました。

また，コミュニケーションをとるときに大事なこと，将来のためのアドバイスとして，

・困ったら単語を並べたり，ジェスチャーをしたりする　・とにかく恥ずかしがらずに話す
・諦めてしまっても，また違うことに挑戦していく

と，とても大事なことを教えていただきました。

＜貞丸さん＞

いつオーストラリアに来たか　　：高校二年生の時に，語学研修で初めて来た。
その後，オーストラリアに来た理由：語学研修でオーストラリアが好きになった。オーストラリアを紹介するツアーガイドになりたくて来た。

現在は，ケアンズ市内の日本食レストランで働いている貞丸さんですが，初めて語学研修に来たときは英語がまったく分からず，帰国後英会話教室の難しいコースに通ったり，自分でもたくさん勉強したりして英語の力を磨き，オーストラリアに働きに来たそうです。貞丸さんはオーストラリアに来た後，たくさんの仕事をしたそうで，イチゴファーム→カフェで研修→ツアーガイドの研修→モデル・・・と経験し，現在は日本食レストランで働いているそうです。貞丸さんにも英語の勉強法を教えていただきました。

・英語の TV を見たり，iPhon の言語設定を英語にしたりするなど，ささいなことで耳を英語で慣らす
・早めにリスニングやスピーキングを練習しておいたほうがいい

とのことでした。これらをこれからの生活で行っていきたいと思います。
また，コミュニケーションをとったり，外国の方とお話ししたりするときのアドバイスとして，

・知らない言語でも，ジェスチャーをする　・話すときはとにかく笑顔を絶やさない
・ちょっとした話題でも会話の中に入る　・お互いの文化を受け入れる　etc・・・

など，将来のためになるたくさんのことを教えていただきました。

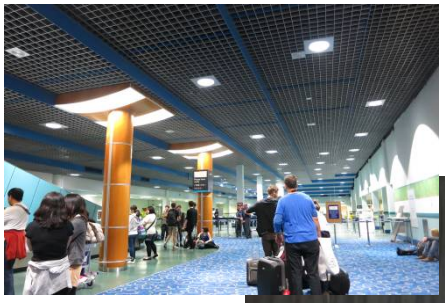
今回，海外で働いているたくさんの日本人の方にお話を聞き，私も将来英語を使った仕事をしてみたいと思いました。教えていただいた勉強法や生活で役立つことはすぐ実践し，どんどん自分の英語能力を高めていきたいと思います。また，みなさんが強くおっしゃっていた「得意になるためには好きになる」ということを胸に刻み，英語を好きになって頑張っていきたいと思いました。

Ｖ海外研修を終えて

今回のオーストラリア研修で，私はたくさんのことを学びました。日本とはまた違ったオーストラリアの素晴らしい文化，豊かで綺麗な自然，明るく，とても素敵なオーストラリアの人達，いろいろなことを体験し，感動し，たくさんの思い出ができました。

オーストラリアに行く前，ドキドキと不安でいっぱいだった私も，日本へ帰国するときには「帰りたくない」「まだオーストラリアにいたい」という思いでいっぱいでした。それほど楽しいことや嬉しいことがあり，もちろん大変だったこともありましたが，すべて私の大切な経験になりました。

そんなオーストラリア研修の中で，一番心に残っているのは，一緒に行った他校の生徒と協力し，とても仲良くなって戻ってきたことです。はじめ，私は緊張していてみんなとなかなか話せなかったのですが，協力して活動したり，たくさん話をしたりしていくうちに，最初はあまり話せなかった人とも仲良くなることができました。このオーストラリア研修の思い出や学んだこと，経験したことをたくさんの方に発信していき，大仙市の未来のために，すこしでも貢献でいればいいなと思います。また，この研修のために支えてくれた家族や，温かく見守ってくれた学校の先生，一緒に行ってくれた添乗員の方，先生方みなさんに感謝したいと思います。このオーストラリア研修は，私の一生忘れられない思い出です。



オーストラリアのごみを減らす取り組み

№14　豊成中学校　　井上　航大

Ⅰ　はじめに

僕がオーストラリアに行きたいと思った理由は、以前から外国に興味があり、今の自分の英語力を試すとともに、コミュニケーション力を身につけたいと思ったからです。

Ⅱ　自主研究について

僕の研究テーマは「ごみを減らすためにはどうしたらよいか」というものでした。

僕の住んでいる地域には、よく道端にごみが落ちています。クリーンアップなどを行っていますがなかなか減りません。また、空き缶回収やペットボトルのキャップ回収も学校で行っていますが、やはり家庭で出すごみは多いと思います。これらのことから、大仙市のごみを少しでも減らすにはどうしたらよいかをオーストラリアから学びたいと考え、このテーマにしました。

そして、このテーマを（１）「ポイ捨てを減らすにはどうしたらよいか」、（２）「オーストラリアではリサイクルをどのように行っているか」の二つに分けて、街の様子を見たり、インタビューなどをして調べました。

（１）「ポイ捨てを減らすにはどうしたらよいか」

オーストラリアでは、思っていたよりも落ちているごみが少ないと思いました。疑問に思い、出かけた先々で観察してみると、どこにでも必ずゴミ箱がありました。

日本旅行のオーストラリア支店で働いている黒田さんにインタビューしたときも、「この街はゴミ箱が多いので道にはあまりごみが落ちていません。そのため、ごみを捨ててはいけないという気持ちになります。」と言っていました。

ゴミ箱が多い→道にごみが無い→ポイ捨てしてはいけないという気持ちになる、というように、環境を守るよい循環ができているのだと思いました。

私たちの地域にも、路肩の花壇にきれいな花が植えられている道路があります。その道路にはポイ捨ては少ないように思います。そのような、「きれいなところ→ごみは捨てられない」というよい意識の循環ができるように、普段からきれいな道路をもっと意識する必要があるのではないかと思いました。

（２）「オーストラリアではどのようにリサイクルを行っているか」

オーストラリアはゴミ箱は多かったのですが、リサイクルは日本のようには行われてはいませんでした。ファームステイ先のゴミ箱は、畑で処理する「生ゴミ」と「それ以外のごみ」の大きく二つに分かれているだけで、日本のような細かな仕分けはしていないようでした。

しかし、何人かの人にインタビューしてみると、

（貞丸さん・オーストラリアの日本食レストランに勤務する女性）

・オーストラリアは水不足で水を買う機会が多い。そのときはできるだけ大きいペットボトルに入ったものを買い、ペットボトルを捨てる本数が減るようにしている。
・スーパーなどからいらないダンボールをもらって、それに服やいろいろなものを入れて使っている。
（ベックさん・元大仙市教育委員会 CIR）
・スーパーに行くときは必ずエコバックを持って行く。
（ボーガートさん・ファームステイ先のお母さん）
・飼っているにわとりに干し草を与えて、安全で有機的な卵を作っている。

このように、エコやものを大切にする取り組みを個人で行っているそうです。とてもいいことだと思いました。

＜自主研修のまとめ＞

日本とオーストラリアを比べると、日本はごみをリサイクルする意識が高く、オーストラリアはごみを出さないという意識が高いと思いました。そのため、オーストラリアはごみが少なくきれいな街になっているのだと思いました。

日本には、ものが溢れています。日本のスーパーでは、消費者が買いやすいようにトレーや丁寧なラッピングで商品を並べています。オーストラリアでは、肉類やチーズなどは大きなブロックで売られていたり、量り売りで売られているものも多くありました。

日本も少し前の時代に戻って、リサイクルの前に、ごみとなるものをできるだけ出さない工夫が必要だと思いました。たとえ、それによって少しだけ不便を感じても、我慢も必要なのではないかと思います。

Ⅲ　エピソード

＜ファームステイ＞

ファームステイではボーガート家に泊まりました。この４日間は２回目の夏休みを過ごしているような気分でした。初日から、「軽く散歩に行く」と言われたものの、広大な敷地内を１周したのはたいへんでした。

そんなファームステイでおもしろかったことや驚いたことのベスト３を紹介します。

〈第３位〉　トランポリンや卓球で遊んだこと

時間があるときは、トランポリンや卓球をしました。

トランポリンで僕と遼さんは初めて前方宙返りと後方宙返りができました。少し怖かったのですが、できたときは達成感がありました。卓球も前よりもうまくなったような気がします。

それにしても、個人の家の庭にこんなに大きなトランポリンがあるなんて、オーストラリアの生活のスケールは大きいと思いました。

ミラミラフォールズ

〈第２位〉　滝を見に行ったこと

ステイ２日目と３日目は別のステイ先の人たちと一緒に、多くの滝を見に行きました。気温は高かったのですが、滝の近くは涼しかったです。また、いろいろな植物も見ることができました。

このピクニック中にみんなでＵＮＯなどもして楽しかったです。

〈第１位〉　おいしかった食べ物

ステイ先での料理は大きな楽しみでした。特にオージービーフを使ったローストビーフとハンバーガーがおいしかったです。

しかし、量がとても多くて食べきるのがたいへんでした。この量を毎日食べているオーストラリアの人がみんな大きいことに納得できました。

＜オージーキッズとの交流＞

オージーキッズとはいかだ作りや障害物レースなどをしました。

障害物レースでは、ロープにつかまって池に飛び込むものがありました。はじめは怖かったのですが、何回かやるうちに慣れて、途中でロープから手を離して後方宙返りをする技にも挑戦しました。

また、夕食後にはブッシュダンスをしました。オーストラリア人の人柄が表れたような、明るくにぎやかな曲でした。

簡単な英語とジェスチャーを使い、楽しく交流できたのでよかったです。

＜グリーン島＞

初めて見たさんご礁はとてもきれいで感激しました。シュノーケリングでは、魚やウミガメなどを間近に見られて楽しかったです。海水は日本よりもしょっぱかったです。また、紫外線も強く、海から上がると背中の日焼けがとても痛かったです。

Ⅳ　オーストラリアで働く日本人

日本旅行のオーストラリア支店で働いている黒田さんにインタビューしました。

１６年前にオーストラリアに来たという黒田さんは、中学生のころに英語の会話に憧れ、高校では英語を覚えるために大きく二つのことをしていたそうです。

一つ目は、映画を字幕つきで見て、好きな言葉を見つけていき、覚えること。二つ目は寝る前に必ず辞書を読むことだそうです。そして、辞書を一通り読み終えると次は自分の好き

な単語を拾い出して読む。その次は例文を読む。このように何回も読んで覚えていったそうです。また、興味のある分野の英語の本を読んでみるのもいいと教えてくれました。

次に、外国で働くために大切なことを聞きました。

「外国で働くためには英語でのコミュニケーションが大切。特に日本人は遠慮していることが多いのですが、外国人はとてもフレンドリーに話しかけてきます。だから日本人ももっと積極的に会話することが大切です。」 と話してくれました。

（感想）

僕はあまり英語で会話をするのは得意ではないのですが、改めて海外を訪れるためにもコミュニケーション力は大切だと思いました。これからの生活では、英語の授業もテストのためではなく、「英語のコミュニケーション能力を高めるため」と思って、ＡＬＴの先生などとのやりとりに積極的に取り組んでいきたいです。また、僕も英語を覚えるために寝る前に辞書を読んでみようかと思いました。

Ⅴ　海外研修を終えて

この研修を終えて、コミュニケーションやチャレンジしていくことの大切さ、世界の広さを感じることができました。

ファームステイ先の家族やオージーキッズのみなさんと触れ合うことで、英語があまり話せなくてもジェスチャーなどを交えて自分の考えを伝えられたので、何事もやってみることが大切だと気づき、自信にもつながりました。また、初めて見たり、体験したりしたものがたくさんあり、日本では絶対に味わえない経験ができたことは、今後の人生にも役立つことが多いと思います。

オーストラリアは人や自然がすばらしいところです。そんな場所で自分も以前より成長できた気がします。

最終日は「日本に帰りたくない」と思うぐらい、楽しく充実した１週間でした。次に海外に行くときは、もっと英会話ができるようにして、現地の人との交流を楽しめるようにしたいです。

オーストラリアの大自然から学んだこと

№15　協和中学校　　髙嶋　咲羅紗

1　はじめに

楽しみはあったものの大きな不安を抱えたままの参加でした。その不安は現地に着くまでずっと続きました。一番緊張したファームステイ先の方々との対面時、ホストファミリーがとても優しくて、それまで帰りたいと思っていた気持ちがなくなりました。それからの研修は予想以上に楽しく、よい思い出がたくさんできました。

右の写真はファームステイ先のボブさんとキャメルさんです。私たちはパパ、ママと呼んでいました。父からオーストラリア人はとても陽気だと聞いていましたがその通りで、パパもママも本当の家族のように接してくれました。私は簡単な英語しか話すことができませんでしたが、それでも気持ちをわかってくれました。また、パパやママは「いただきます」「ごちそうさま」などの日本語を話して私たちをもてなしてくれて、うれしく思いました。

ファームステイは、今回の研修の中で一番楽しい思い出になりました。友だちと一緒にピクニックに行ったりプールで泳いだり、夜遅くまでたくさんの話をして盛り上がりました。そしてオーストラリアの大自然をたくさん見せてもらいました。とても勉強になりました。ただ残念だったのは、期待していた土ボタルがほとんど見られなかったことです。これはまた行く機会があったときのお楽しみにしたいと思います。

2　研究テーマと設定の理由

「豊かな自然を生かした生活の工夫について」

秋田もオーストラリアも大自然に囲まれているところは同じですが、オーストラリアにはそれを生かした生活様式があると聞きました。私の家も自然に囲まれていますが、それを生活に生かしていると感じるところはほとんどありません。そのため、まずオーストラリアの大自然の規模を見てきたいと思いました。そして自然をどのように生かして生活をしているのかを調べたいと思いました。また、日本とまるで正反対の位置にある国なので、動植物の様子についても興味がありました。そして、これからの自分の人生の中で参考にできるところを見つけたいと思いました。

3　マンガリーについて（設定したテーマにかかわって調べたこと）

①貴重な水

私のファームステイ先では、洗濯は３日に１回程度でした。ほかにもシャワーの時間制限があるなど、オーストラリアでは自由に水が使えるわけではありませんでした。そのためオーストラリア人は水を大切に利用しているそうです。日本でも節水が推奨されているものの、水に不自由することはなく、水の価値というものを感じたこともありません。日本ではあって当たり前と感

じていたものがそうではないという不自由さを感じました。

②ごみについて

私は出されたご飯の量が多く残してしまうことがほとんどでした。その残った食べ物は自宅で飼っている鶏のえさにしていました。ピクニックに連れて行ってもらったときも、昼食のお皿は紙ではなくプラスチックの皿を使っていました。このことから、オーストラリアの人々は環境保護のためにもごみをなるべく出さないように工夫していることがわかりました。

③地球温暖化防止について

オーストラリアでは、料理をするときはガスを使わず電気を使うところがほとんどだそうです。ほかにも外出するときはなるべく車を使わず自転車にするなど，地球温暖化に関しても配慮していることがうかがえました。

④すばらしい大自然を生かした生活スタイル

右の写真はみんなで泊まった自然の家の食堂です。大自然の中にありました。食事をしながら見る外の景色は最高でした。また、このあたりでは、まれにカモノハシが泳ぐ姿が見られるそうです。日本は人間の利便性のため自然を作り変えている場所が多いのに比べ、オーストラリアでは自然の景観や地形を生かした生活をたくさん見ることができました。ただ、カモノハシを見ることができなかったのは残念でした。

⑤自然の遊泳場

右の写真はみんなでピクニックに行った自然の川を利用した遊泳場です。日本では「川は危険だから子どもだけで行ってはいけない」と言われますが、オーストラリアでは安全に整備され、多くのファミリーが遊びに来ていました。もし私の家のそばに同じようなところがあれば絶対に行きたいと思います。ここも自然を生かした生活の工夫が大きく感じられる場所でした。

以上のことからオーストラリアの人々はすばらしい自然を失わないように工夫して生きていることがわかりました。

Q&A（ステイ先のパパにインタビューしました）

Q　自然を守るための工夫はどんなものがあるか？

A　私たちオーストラリア人は環境保護に関してとても関心が高い。生活の中でできることはみんなで力を合わせて行っている。

Q　オーストラリアの自然のよいところはどんなところか？

A　グレートバリアリーフのように昔からの自然の姿に手を加えずそのまま保っているところ。

※調べたことのまとめ

一番に感じたことは豊かな自然を生かして生活しているということです。さらに、食料自給率もかなり高く、自然を生かしながらその中で生活している様子がわかりました。それがオーストラリアの生活文化であると感じました。自然の中で生活している人々だからこそ、環境保護の意識が高いのだと感じました。私たちも身の回りの自然に手を加えすぎず、生活の中で力を合わせて工夫しているところを見習うべきだと思いました。

４　エピソード

牛が柵から逃げ出した

車でピクニックに向かう途中、柵から逃げ出した牛を発見。ホルスタインだと思いますが、体の色は白が多く、ちょっと間抜け顔。はたして無事に柵の中へと戻ったのでしょうか？

野生のカンガルー現る

自然の家の食堂から宿泊棟に向かう途中、ふと横を見たら動物がはねるように走っていきました。たぶんカンガルーかワラビーだと思います。一瞬の出来事で友だちに教える暇もなかったので、それを見たのは私だけだと思います。幸運でした。

すべてが青いグリーン島

最終日みんなでグリーン島に行きました。空も海もすべてが青く、その美しさに圧倒されました。グラスボトムボートの船長さんがえさをまくと、大量の魚が一気に集まってきました。驚きましたが、ここでも自然の豊かさが感じられました。

すべての規格が大きい

オーストラリア人は平均してみなとても大きいことに驚きました。そのため建物のドアノブの位置も私には高すぎました。また、食卓のテーブルやいすもかなり大きいものでした。いすに腰掛けても足は床に着かず、いつもぶらぶらさせながらご飯を食べていました。ピクニックに行ったとき、公園にあったベンチも当然のことながら大きかったです。

5　海外で活躍している日本人

オーストラリアで働いている３人の方のお話を聞きました。そのうちの１人を紹介します。

貞丸さん

貞丸さんはオーストラリアがとても好きで、日本からの観光客を楽しませるツアーガイドとして働きたくて、オーストラリアに来たそうです。英語は小学生から勉強して、高校生のとき、語学研修に行ったのですが、あまり英語が話せずもどかしい気持ちだったそうです。日本に戻ってきてから塾で英会話の練習をして大学の外語学科に入り、英語を勉強していくうちに英語にはまったと言っていました。今までコミュニケーションをしていて大変だと感じたのは、言っていることと文法がつながらず、話の内容がわからなかったことと、なまりのある英語が聞き取りづらかったことだと聞きました。また、オーストラリアでの生活は、とにかく水不足で節水をしなくてはならないのが大変だそうです。バスタブにお湯をためないと聞いて、日本では当たり前にバスタブにためたお湯につかるので、信じられないことだと感じました。飲料水はペットボトルで購入して、ボトルを再利用したり、部屋の収納ボックスは段ボール箱を再利用したり、また買い物にはエコバッグを持参したりするそうです。どれをとっても自然保護の考えが定着しているためだと深く感心しました。

他の２人の方から聞いた内容も紹介します。

英語を話すことができるようになったのは英語の新聞を読んだり好きな英語の曲の CD を聞いたり、また英語の本を読んだりして学んだからだそうです。オーストラリアに来たきっかけは英語が話せるようになりたい、世界に出たい、という思いやあこがれなどだそうですが、ホームステイが新鮮だったことが一番だそうです。私も今回のファームステイが新鮮で楽しいものだったので、その気持ちは十分理解できます。

現在オーストラリアは、豊かな大自然を守るために様々な場所を世界遺産に登録申請し、木の伐採をやめさせるように努力しているそうです。このほかにも興味深い話やこれからの生活に生かせそうな話などをいろいろ聞くことができました。オーストラリアのことをたくさん知ることができてよかったです。

6　海外研修を終えて

最初はオーストラリアに到着しても不安な気持ちが強く、帰りたいという思いでいました。それが、楽しくてまた行きたいという気持ちになれたのは、ファームステイ先で私たちをもてなしてくれたホストファミリーや、歓迎してくれた自然の家のスタッフの皆さんのおかげだと思います。またこのようなに機会に巡り会うことができたら、今度は積極的に参加したいと思います。

この研修ではオーストラリアで働く日本人の方々の話を聞くことができ、オーストラリアのこともたくさん知ることができました。水不足ではあっても大自然に囲まれ、動物もたくさんいる、とても魅力的な国だと思いました。オーストラリアの人たちとかかわる中で学んだコミュニケーションのとり方や自然を大切にする取り組みをこれからの生活に生かしていきたいです。

オーストラリアで学んだこと

№16　協和中学校　　照井　詠利加

Ⅰはじめに

私が、オーストラリアに行きたいと思った理由は、二つあります。まず、一つ目は小学生の時から英語に興味があったことです。英会話を習っていて、いつか日常生活の中で使いたいと考えていました。二つ目は、姉二人が以前オーストラリアに行ったことがあり、二人はオーストラリアでの話をたくさん教えてくれました。それを聞いて、私もオーストラリアに行ってみたい、自分の目で確かめたいと思ったからです。オーストラリアでは、自分のコミュニケーション力を高めてこれからの人生に生かしたいと思っていました。

オーストラリアに行けると決まったときは、とても嬉しかったです。しかし、それと同時に不安も感じました。今のままで大丈夫か、外国でうまくやれるのかといつも考えるようになりました。でも実際に行ってみると、そんな悩みをはるかに上回る大きな世界がそこには広がっていました。

Ⅱテーマと設定の理由

研究テーマ

「豊かな自然を守るためにはどんな工夫ができるだろうか」

オーストラリアの自然は美しく、そして豊かです。特に、ケアンズでは太古からの熱帯雨林が現代にも残っています。それを今までどうやって守っているのかを調べ、その工夫を私たちの生活にも生かせないかと考え、このテーマを設定しました。

Ⅲ調べた内容とまとめ

私は、ファームステイ先で家族の行動や生活の様子を観察し、自然を守るためにどんなことをしているのかを調べてきました。

（１）動植物について

私がお世話になった家には広い庭があり、たくさんの植物や動物がいました。植物は、パイナップルやスターフルーツ、サボテンなどいろいろな種類がありました。動物は、犬２匹にオウムやインコ、鶏などがいました。

ファームステイ先のママは毎日庭の植物に水やりをしていました。屋内プールの脇にある植物にも水やりをしていました。そのおかげで庭の植物はすべて元気に育っていました。このような小さな努力でオーストラリアの人たちは身のまわりの自然を守っているのだと思いました。

オーストラリアでは、オーストラリア大陸の 11 パーセントを超える 90 万平方キロメートル以上が自然保護区に指定されています。550 以上の国立公園と約 6000 の保護区があり、そのすべてが連邦や州、特別地域などの法律で守られています。オーストラリアの自然保護制度は、地域に適した規模ですべての生態系のサンプルを包括しようとしています。この制度には国立公園、先住民保護地区、自然保護地区、自然保護公園、および私有地内の保護地域などが含まれています。

日本でも自然環境保全地域という地域をつくり、自然を守っています。自然環境保全地域は三つに分類され、原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、緑地自然環境保全地域に分けられます。秋田県には、白神山地の自然環境保全地域をはじめ、17 か所の自然環境保全地域、4 か所の緑地環境保全地域があり、その面積は合計でおよそ 5590 ヘクタールに及びます。

オーストラリアの豊かな自然には及びませんが秋田の自然もたくさんの人の手によって守られています。

（２）節電について

気温は毎日 35 度以上ありましたが、家の中ではエアコンをつけていませんでした。テラスにはファンがついていましたが、私たちが使っていた部屋には冷房器具がありませんでした。冷房器具を使っていたのは食事をするときぐらいで、消費電力の少ない扇風機を使っていました。リビングにはテレビもありましたが、ほとんど使われていないようでした。

夕食後にボードゲームをしているときも、そのテーブルの上の電灯だけをつけていました。基本的に自分たちが使う場所の電灯だけをつけて過ごしているようでした。

◎考察

調べたことの中で最も驚いたのは、こんなに暑いオーストラリアなのに、エアコンを使っていないことでした。秋田はそこまで暑いところではありませんが、私たちは当たり前のようにエアコンを使ってしまいます。この意識の違いが、環境の変化に影響するのかもしれないと思います。すぐに改めるというのは難しいかもしれませんが、少し我慢するのと何もやらないのとでは大きな違いがあると思います。エアコンの設定温度を上げることや、無駄に使用しないという小さな努力を、意識しなくてもできるようになりたいです。これは一人ではなく、たくさんの人と取り組むことで一層効果が大きくなります。それが自然を守るということにつながり、環境を守ることに貢献することになるのではないでしょうか。

Ⅳエピソード

私のたくさんの大切な思い出です。

1 ファームステイ先にて

ステイ先の Voss 家には、たくさんの動物がいて、色々な植物が育っていました。
その中で、印象的だったことを発表します。

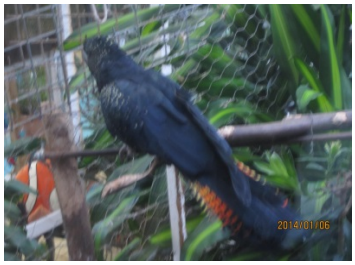
↑朝にしか咲かないサボテンの花

↑飼い犬のナゲット

私が、昼間少し調子が悪くてベッドで寝ていたときに、違和感があったので目を開けてみたら犬のナゲットが私の頬をなめていてびっくりしました。いつもは、私たちの部屋まで入ってくることはなかったのですが、私を心配したのかもしれません。私はあまり大きな犬が得意ではないので、トイレに逃げ込みました。そのあとは、外に出て行ってくれたので安心しましたが、驚いたできごとでした。

VOSS 家にはたくさんの鳥たちもいて、ファームステイ最終日にはオウムのデイジーを肩にのせました。デイジーの爪が食い込んで痛かったのですが、無事にのせることができました。

最終日の夕食は、私たちが持って行ったそうめんを作って食べました。暑いオーストラリアで食べたので、とてもおいしかったです。両親も喜んで食べてくれて嬉しかったです。



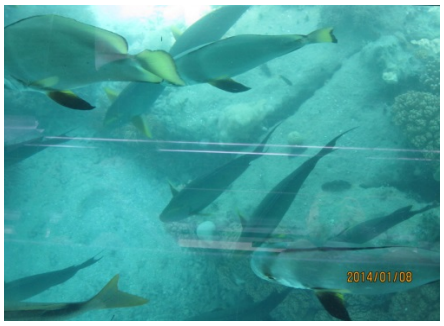
↑オウムのデイジーです。
後ろ向きですが・・

↑ママです。そうめんを何杯も
おかわりしてくれました！

2 グリーン島にて

グリーン島では、綺麗な海の中をグラスボトムボートで見たり、お土産を買ったり、のんびりとした時間を過ごしました。

↑観光客がたくさんいましたが、
リラックスできました。



↑グラスボトムボートにて。
魚の群れに出会いました。

グリーン島の海は透明度が高く、最初見たときは驚きました。グラスボトムボートでは、魚の群れやウミガメに遭遇しました。魚の群れは綺麗で、ずっと見ていても飽きないほどでした。写真だけでは物足りないので動画も撮りました。

昼食はグリーン島で食べました。私はホットドッグを買いました。サイズが少し大きかったのですが、とても美味しかったです。島には鳥がたくさんいて、そのため昼食はテントの中で安全に食べました。外で食べると、鳥が食べ物を持って行ってしまうことがあるそうです。

お土産屋もグリーン島でいろいろ買いました。グリーン島ならではのものもあって見ていて楽しかったです。

3 海外で活躍する日本人にインタビュー

私がお話を聞いたのは、貞丸さんという女性の方です。

≪オーストラリアに来た理由≫

オーストラリアでツアーガイドをやりたかったから。みんなにオーストラリアを好きになってほしい。現在ツアーガイドになることを目指している。

貞丸さんは、今まで５つの仕事をしてきました。

・ファームステイ(いちご農園)
・バリスタ(研修)
・ツアーガイド(研修)
・モデル
・日本食レストラン

一番大変だった仕事は、ツアーガイドだそうです。その地域の歴史、動物や植物をすべて覚えておかなければならないし、その日の日程も頭に入れておかなければならないからだそうです。
また、お客様の見守りもしなければなりません。それは、常にお客様が楽しんでくれるように考え、お客様にとって最悪な旅になってしまうのを防ぐためだそうです。

貞丸さんが言っていたのは、英語を好きなだけではダメだということです。好きになっただけでは友達ができても話せず、コミュニケーションをとれないのだそうです。貞丸さんは、塾でスピーキングの練習を必死にしたそうです。そのおかげで、たくさんの人と話せるようになったそうです。

≪感想≫

外国で働く人は大変な行動力があると改めて思いました。でも、それと同時にみんなと同じような悩みを抱えていたのだと思いました。今まで、外国で働いている人は英語を完璧にしてから外国へ行くのかと思っていましたが、今回お話を聞いたほとんどの方が、今でも何を言っているのかわからない時もあると答えたからです。そして、わからなかったら人に聞いたり調べたりしているそうです。「わからないことをそのままにしておかない」ということは、こんな時にも役に立つのだと思いました。

V研修を終えて

オーストラリアから帰ってきてからも、いつも頭の中にオーストラリアでの思い出が甦ってきます。オーストラリアにいたときは、毎日が刺激的で日本とは違う楽しさがありました。でも、日本にいるときが一番落ち着いていられることも実感できました。慣れない環境で、そして違う言語を話す人とずっといるというのは、緊張することも多いので、もっと英語のリスニングを頑張ろうと思いました。英語をきいても落ち着いて応答できるというのが、今一番の理想です。

この研修に参加してとてもよかったと思います。また、自分の英語力を思い知った研修にもなりました。将来は日本で働くということに縛られず、自分の行きたい道に進もうと思う良い機会になりました。

オーストラリアで学んだこと

№17　協和中学校　　武藤　隆倫

１　はじめに

私がオーストラリアという国を知ったのは、小学校低学年の頃だったと思います。その時から、「いつかこんな広い国に行ってみたい」と思っていました。高学年になり、社会の授業で国を調べる機会があったので、私はオーストラリアについて調べました。調べれば調べるほど、この国の広さや雄大で美しい自然、文化などが好きになっていきました。

今回の研修は、そんな私にとっては絶好の機会でした。「ぜひとも行きたい、そして沢山のことを学び、それらについてじっくり考えてみたい」と思い、参加を申し込みました。結果、このチャンスをつかむことができて、本当にうれしかったです。

そしてうれしいだけではなく、行くからには目的を持ち、オーストラリアという国について深く学び、感じ、楽しみたいと強く思いました。

２　研究について

（ｉ）研究テーマ　**「地産地消をもっと進め、元気な農業にしていくにはどうするべきか？」**

現在の日本の農業は、高齢化と食料自給率の低下によって窮地に立たされています。また、ＴＰＰや減反政策の転換など、その決定に議論が必要なものもあります。

小規模ながらも農業を営んでいる家に生まれた私には、少し寂しく、悲しいような気がしています。そこで今回の研修では、オーストラリアの農業について調べることとし、テーマを「地産地消を進め、農業を元気にするためにはどうするべきか」に決めました。そのためにも、現地では農業について、その規模や営農における工夫を調べることにしました。

（ⅱ）研究結果

私たちが行ったケアンズ周辺では非常に農業が盛んです。とても広大ですが、人の手で行われる作業も多く人手不足のところもあるそうです。初日に行った、マンガリーフォールズという場所では、バナナ農園を見学させていただきました。暑い時期が平年より遅れてきたそうですが、小さなバナナが実っていました。ここのバナナは、日本の大学生が年に１度来て苗から植えているそうです。ここでは他にも暑い気候を利用してマンゴーを作っているそうです。

ファームステイをさせていただいたボーガートさんのお宅では、160 エーカー（約 647500 ㎡、東京ディズニーランドで 510000 ㎡）の農地をもち、80 頭の肉牛を飼育しているそうです。また、近くの農場には乳牛や鶏、バッファローなど沢山の動物が飼われていました。牛は、狭い牛舎で太らせるのではなく、草原に放して自由に育てるのだそうです。こうすることで筋肉質で健康な牛になります。牧草地が広く餌代が安く済むので、牛一頭の値段は日本の 10 分の１以下で、8～20 万円程度です。

イチゴファームで働いていたという貞丸さん（日本人女性）にもお話を伺う機会がありました。イチゴの栽培から出荷までをファームで行うのは大変な作業で、農場がとにかく大きいそうです。何百人という方が働いているそうですが、働いている方は老若男女を問わずいろいろな方がいるそうです。

日本旅行ケアンズ支店長の黒田さんにもお話を伺いました。私たちが行ったケアンズ周辺の土は赤土で、植物にとって大事な養分である鉄分とマグネシウムが豊富に含まれているので、農作物もよく育つということを教えて下さいました。実際に私たちが泊まらせて頂いたステイ先の農場でも、いたるところで赤土が剥き出しになっていました。

牛の赤ちゃん

ファームで見た赤土

現地で活躍されている日本人の方の多くは、「ワーキングホリデービザ」というのをお持ちでした。ワーキングホリデービザというのは、現地での労働を推奨するビザです。また、最初の１年で３か月以上ファームのお手伝いなどをすることで「セカンドワーキングホリデービザ」をとることができ、１年延長が出来ます。このような制度によって働く人は増えましたが、反面労働力が増えたため収入が減ったというような実態もあるそうです。オーストラリアにとっては、そのような外国人労働者が貴重な労働力だということがわかりました。

オーストラリアの農業は、日本に比べ非常に規模が大きかったです。国土が広いので、その分、農家一軒当たりの農地もとても広いことが分かりました。また、工夫としては「ワーキングホリデービザ」と「セカンドワーキングホリデービザ」の制度を導入して、外国人労働者を受け入れ、大規模農業を維持しています。気候は温暖、土壌は栄養豊富であり、オーストラリアは農業に適した国です。

（ⅲ）感じたこと、考えたこと

オーストラリアと日本ではあまりにも広さが違い過ぎると思いました。また広さだけではなく、栄養豊富な土壌や温暖な気候をよく生かしているとも感じました。たとえばマンゴー栽培から酪農まで、多角経営を行っていることも特徴の一つです。大規模な農場を少人数で経営するという方法は、国土の狭い日本では不可能だと思いました。また、国を挙げてワーキングホリデービザなどにも力を入れていました。

両国を比べて、私は「農業」に対する考え方の違いを感じています。確かに日本は国土も狭いですしオーストラリアほどの農場を作るには無理があります。しかし、日本でもできることはあると思っています。現在、日本では小規模経営から営農集団のような大規模なものにしていく方向も見えてきていま

す。さらに、低農薬や無農薬など、「高品質」を世界にアピールする動きもあります。

また、オーストラリアの農場では、日本のように高齢者が多い感じはあまりしませんでした。伺ったお話でも、あまりそのようなことは聞きませんでした。日本での農業の高齢化の一番の要因は後継者不足です。確かに収入は安定しませんし大変ですが、自然を身近に感じられる事や自給自足出来ることなど、農業の魅力をもっとアピールし、オーストラリアのワーキングホリデービザのように観光などの付加価値をつけて他から人を呼び込むことが重要ではないかと思います。

広大なファーム

世界遺産の一部である熱帯雨林

３　ファームステイ先にて

私のグループは、マンガリーフォールズ・ミラミラというところにある、ボーガートさんの家にファームステイさせていただきました。何とその場所は世界自然遺産に指定されている、世界最古の森の一部です。ボーガートさんの家では１６０エーカーの農地に８０頭もの肉牛を飼っています。他にも、白馬や猫、３匹の犬に４匹の魚、さらには２羽の小鳥まで、たくさんの種類の動物がいました。

初日は犬と一緒に農場を散歩しました。本当に個人の所有地なのかと思う程に広くて、一周するのに２時間以上かかり大変でした。しかし、さすがは世界遺産の一部なだけあって、まるでジャングルのような林から、白くてかっこいいイーグル、さらにはカモノハシなど、たくさんの動植物を見ることができました。家では卓球やバスケットボール、トランポリンなどをして遊びました。また、日本から持参したお土産の、折り紙や紙風船を渡したら、とても喜んでくださいました。待ちに待った晩御飯は、オージービーフとここでとれた野菜のサラダでした。日本の一般的な料理とは違って、一つのお皿にすべての料理を盛り付けるワンプレート方式でした。とても美味しかったです。地元でとれた食材と自宅でとれたものを使っていて、地産地消になっていると思いました。夜は家の周りで生き物探しをしました。背中に毒のあるカエルがたくさんいて驚きました。他にも毒グモや蛇がいて怖かったです。それからシャワーを浴びましたが、水が貴重なので使用時間は３分で、じゅうぶんに浴びることができませんでした。

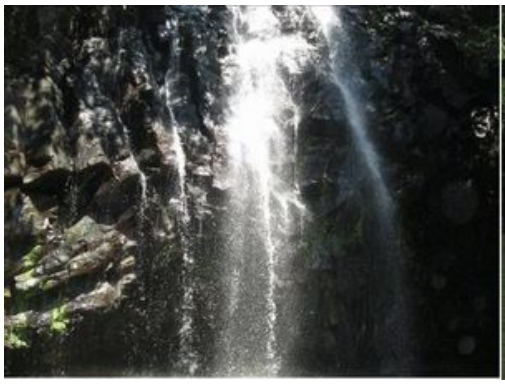
２日目の朝食は、パンでした。朝の食事は少なめでした。その日は、他のファームステイグループやその家族と滝を見に行きました。この日だけで三つもの滝を見せていただきました。そのあとは、他のグループのステイ先に遊びに行き、ＵＮＯなどをしました。言葉は通じなくても、みんなで盛り上がることができました。プールもあったのですが、残念ながら水着を持参しなかったので入れませんでした。

３日目も前日と同じように滝を見に行きました。ミラミラフォールズといって地名と同じ名前の滝で

した。

そこでは沢山の野生のカメを見ることができました。そのあとは街の中心部で買い物をしました。多くの人で賑わっていました。その日の晩御飯では、日本の食べ物である、「お好み焼き」をみんなで作って御馳走しました。日本から持ってきたものと現地で調達したキャベツで作りました。最終日の朝は、３日間たくさんの経験をさせていただいただけに少し寂しく感じました。すべてが最高の思い出です。

ボーガート家の動物たち



ジリーフォールズ

ミランダフォールズ

野生のカモノハシ

４　現地で活躍されている日本の方から

私たちが最初に行ったマンガリーフォールズ自然の家では、たくさんの日本人スタッフが働いていました。そこでは土ボタルを鑑賞することができました。土ボタルとはヒカリキノコバエの幼虫で、光る粘液を出して虫を捕まえます。カメラのフラッシュの熱で死んでしまうほどデリケートです。うっすらと光っていて綺麗でした。

その後、スタッフの方からそこで働いている理由や英会話のポイント、現地での生活などを聞きました。

オーストラリアへ来たきっかけは、英語を話すためや、カナダかオーストラリアに行きたかったが寒くない方を選んだ、勉強をするため、さらには好きな人を追いかけて来たなど人それぞれでした。

英会話上達のコツも教えてもらいました。間違ってもいいからたくさん会話をすることと、英語の本や字幕付きの映画、洋楽を利用すること、わからないことがあったら質問をすることや調べることが大

事だそうです。留学をしたという方もいました。

英語が通じない時など困った時はジェスチャーを交えたり、ほかの言い回しを考える、絵を描いたりして何とか伝えるということが大事だそうです。また、笑顔や挨拶、握手、目を合わせることは外国人とのコミュニケーションでも重要だとおっしゃっていました。そのようなコミュニケーションの取り方は全世界共通なのだと思いました。

オーストラリアに来て良かったことは、日本では経験できないような文化の違いを感じることができたことや、出会いに恵まれていたこと、学んできた英語が自信から確信に変わったことなどだそうです。

それとは逆に大変だったことは、ジェスチャーが使えない電話での会話や、警察とのやり取り、オーストラリアの方言が分からず困ったことだそうです。さらにはパスポートを無くしてしまったことがあるという方や、大変だったことが無いという方もいました。それとは別に、自分が日本人であることを忘れないように心掛けているという方もいました。

現地で働いていらっしゃる３人にもお話を伺いました。

１人目は前に大仙市のＣＩＲをしていたベックさんです。とても日本語がお上手でした。ベックさんは、日本が好きで文化を学ぶために、留学をして日本語を学んだそうです。言語と文化の結びつきを強く感じたとおっしゃっていました。

日本、特に秋田の印象について質問してみました。一番驚いたのは雪の多さと寒さで、車の運転が大変だったそうです。また、田植えや稲刈りもされたそうで、楽しかったそうです。

最後に、英語を勉強している私たちにアドバイスをしてくださいました。英語の力をつけるためには、調べたりしながら毎日少しずつでも勉強するように、と教えてくださいました。

２人目は、現地の日本食レストランで働いている、貞丸さんです。貞丸さんは、現地で、ファームの手伝いや、ツアーガイドの研修、モデルなど沢山の仕事を経験されたそうですが、中でもツアーガイドはその場所の歴史や地理、動植物などたくさん覚えることがあり大変だったそうです。高校生のときの研修でオーストラリアを訪れ、英語が好きになったそうです。夢は、正式なツアーガイドになり多くの人にこの国を好きになってもらうことだとおっしゃっていました。

こちらの印象については、暑くて自然が多く、日本とは空気が違うと感じたそうです。私もそのように感じました。

３人目は、日本旅行ケアンズ支店長の黒田さんです。高校生の時、アメリカ・メキシコへ行き、その時のガイドさんがかっこよかったので旅行ガイドを目指したのだそうです。

黒田さんは英語の勉強のため、英語の映画を何回も観たそうです。何度も見ているとそのうち分かってくるということでした。また、毎日寝る前に辞書を読んだりもしたそうです。オーストラリアの英語はアメリカとは少し違うので、視点を少し変えることや、恥ずかしがらず積極的にコミュニケーションをとることが大事だと話してくださいました。またオーストラリアの英語は、口語的でくだけた表現が多いのでフレンドリーな感じがするそうです。最後に、海外から見た日本を知ることが大事だと教えて下さいました。

現地で活躍されている方々の、ここに来た目的や、きっかけなどは本当に様々でした。それでも皆さんは日本人としての誇りを持っていると感じました。私もいつか海外で働き新しい何かを見つけられるよう、今からできること、たとえば勉強や部活、生徒会などを精いっぱい頑張りたいと思いました。

５　海外研修を終えて

７日間という長いようで短い研修が終わってから、間もなく１か月が過ぎようとしていますが、私は現地でのこと一つ一つを昨日のことのように覚えています。始めて行った海外で私は本当に沢山のことを学ぶことができ、本当に嬉しく思っています。

私は初めに「地産地消を進め、農業を元気にするためにはどうするべきか」というテーマを定めました。研修を通じて、そのことについても、農業全般に関しても考え直すことができました。またそれだけでなく、文化や自然についてもこの目にしっかりと焼きつけることができましたし、日本にいるだけでは、絶対に経験できないようなこともたくさんできました。ともに研修した仲間との友情も、改めて大切だと感じました。いろいろな意味で、今回の海外研修は本当に良い経験だったと思います。

最後に、この研修で私を支えてくださった先生、日本旅行さん、教育委員会の方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。今回の研修で学んだ沢山のことを、これからの将来に役立てることができるよう頑張ります。

オーストラリアで学んだこと

№18　仙北中学校　　加藤　　梓

Ⅰ　はじめに

私は今までに学んできた英語がどこまで身についているのか自分の英語力を試してみたいという思いと、外国と日本の違いを自分の目で確かめてみたいという思いから、この海外派遣事業に参加しました。

Ⅱ　研究テーマの設定の理由

塾で英語を教えてくれている先生からオーストラリアは水をとても大事にしていることを聞きました。そこで、オーストラリアではどのような節水の取り組みをしているのか疑問に思い、

「水の無駄遣いを減らすにはどうしたら良いか？」というテーマを設定しました。

Ⅲ　オーストラリアでの節水の工夫

(1)ファームステイ先での節水の取り組み

ファームステイ先には大きな貯水タンクが二つありました。このタンクに雨水を貯めて生活用水に使用しているそうです。

ホストマザーに「水の無駄遣いを減らす工夫は何か？」と尋ねたところ、「バスタブにお湯は溜めず、短い時間のシャワーで入浴を済ませる。」と言っていました。そして、「シャワーは５分くらいで済ませるように。」と言われました。

さらに、「洗濯は３日に１回だけする。」とも言っていました。私の家では毎日洗濯しているのでとても驚きました。日本では水に不自由することがないので、改めて水の大切さを感じました。

オーストラリアにいると、日本にいるとき以上に節水に気を使いました。これからは日本でも進んで節水に取り組もうと思いました。

左の写真はステイ先のシンクです。日本と違い、二つに分かれていて疑問に思いました。ホストマザーに聞いてみたところ、左右のシンクに水を溜めて、左側のシンクに洗剤を入れ、そこで洗った食器を右のシンクですすぐそうです。

水の出しっぱなしがないので、とても節水になっていると思いました。日本でもこのように水を溜めて食器を洗ったらもっと節水になるのではないかと思いました。

(2)研究のまとめ

オーストラリアの人達は常に節水に気を使っていました。日本は水資源が豊かな国ですが、ひとりひとりが節水に取り組まないといつか水不足になってしまうのではないかと思いました。

「節水」という言葉はよく耳にしますが、日頃の生活でどれほど節水できているのか考えてみると、オーストラリアと比べたらまだまだだと思いました。そこで私は今回の研修を生かして、オーストラリアでの節水の取り組みを大仙市にも広げていきたいと思いました。今回の研修は節水することの大切さを知る良い機会になったと思います。

Ⅳ　エピソード

日程紹介

～１日目～　大仙市役所からバスで成田空港へ。成田空港に着くまでは長かったです。
初めての空港、初めての飛行機。ドキドキしましたが、楽しかったです。

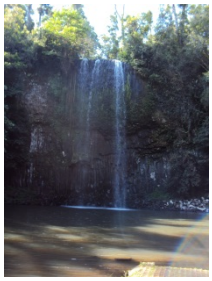
～２日目～　ケアンズ空港に到着。飛行機から降りた瞬間、蒸し暑くて大変でした。
その後、マンガリーフォールズへ移動。朝食後、みんなでバナナマフィンを作り、ステイ先に移動しました。ステイ先のママとパパはとてもいい人でした。
バナナマフィンも喜んでもらえてよかったです。

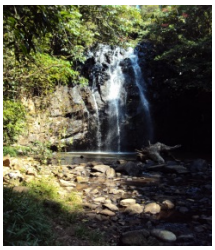
ケアンズ空港からマンガリーへ出発！

ステイ先のママと犬のナゲット、シェイシーと撮った写真です。

～３日目～　朝食を食べてからパパが三つの滝を見に連れて行ってくれました。
どれも豪快な滝でした。

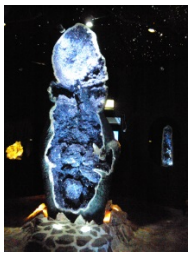
朝食です。朝食は毎日パンでした。
ママが作ってくれた料理は全部おいしかったです。

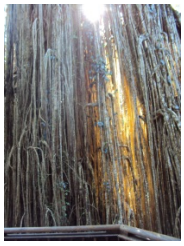




左からミラミラフォールズ、ジルフォールズ、エリンジアフォールズです。
暑い日に涼しい滝に行くことができて、とてもリフレッシュできました。

～４日目～　パパにチョコレートのお店と鉱物が展示されているところに連れて行ってもらいました。いろいろなチョコレートがあってどれも美味しそうでした。鉱物もとても大きなアメジストがあってびっくりしました。そのあとにカーテンフィグツリーを見に行きました。枝だと思ったものが実は根であることを教えてもらい、あまりの長さに驚きました。

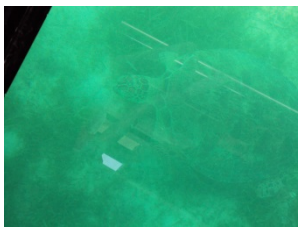




左がアメジスト、右がカーテンフィグツリーです。アメジストは私の身長より高かったです。カーテンフィグツリーの枝のように見える部分は全て根です。

～５日目～　パパとママにお別れして、マンガリーフォールズに泊まりました。オージーキッズとの交流が楽しかったです。障害物競争やダンスは疲れたけどとても楽しく、いい思い出となりました。夜の土ボタル鑑賞も綺麗でした。

～６日目～　朝食後マンガリーを出発し、グリーン島に行きました。グリーン島ではグラスボトムボートからいろいろな魚やウミガメを見ることができました。オーストラリアの海はとても綺麗でした。観光後はケアンズ市内を散策し、お土産をたくさん買いました。



グラスボトムボートから見たウミガメと海です。とても日差しが強く、日焼けして痛かったです。
また機会があったらここに来たいです。

～７日目～　ホテルで朝食後、ケアンズ空港へ。帰りの飛行機ではぐっすり眠ってしまいました。
～８日目～　秋田に無事到着！久しぶりに家族と会えて嬉しかったです。

Ⅴ　海外で活躍している日本人

今回、オーストラリアで働いている日本人の方々から貴重なお話を聞くことができました。私が特に印象に残ったお話は、現在日本食レストランに勤務している貞丸さんのお話でした。貞丸さんがなぜオーストラリアに来たのかというと、オーストラリアが好きでオーストラリアで働きたい、外国人と話してみたいという夢を叶えるためだそうです。ちなみに貞丸さんの夢はツアーガイドで、「観光客の人達にオーストラリアを好きになってほしい。」と言っていました。

外国で働くためには英語を話せなくてはなりません。そこで貞丸さんに英語を勉強しようと思ったきっかけを聞いてみました。貞丸さんは語学研修で外国に行ったときに、自分が思っていた以上に英語を話せず、悔しい思いをしたそうです。日本に帰国してから英語をひたすら勉強して、その結果、英語が大好きになったと言っていました。

将来、何になるために英語を勉強するかということを考えることが重要だと教えてくれました。さらに貞丸さんはオーストラリアに来て、大変だったことについても話してくれました。それはやはり英語だそうです。まず、英語を話せないと相手に伝わらないし、リスニングや文法もしっかりしていないと大変だと言っていました。それにオーストラリア英語にはなまりもあります。貞丸さんはなまりを聞き取るのが難しいと言っていました。英語でのコミュニケーションは大変なことですが、とにかく笑顔で明るくコミュニケーションをとることが大切だということを教えてもらいました。私も将来は英語の先生という、英語を使う仕事に就きたいと思っているので今回のお話はとても参考になりました。

Ⅵ　海外研修を終えて

私は今回、初の海外ということで少し緊張していました。最初は自分の英語は通じるのか、うまくコミュニケーションをとることができるのだろうかと不安でした。でも、「多少間違っていてもいいや」と思い積極的に話しかけてみると、結構会話が続いたりしたのでホッとしました。それと同時に外国の人達のあたたかさを感じました。また、自分から積極的にコミュニケーションをとろうとすることの大切さを知ることもできました。コミュニケーションは外国にいるときだけではなく、日本にいるときもとても大切です。日本でも今回、学んできたことを生かして生活していきたいです。今回の研修でまた自分の将来の夢に一歩近づいたと思います。機会があったら、今度は自分でお金を貯めてオーストラリアに行きたいです。そのときに、ホストファミリーにも会いに行きたいです。

最後にこの研修に参加できたのは、先生方や両親の支えのおかげだと思います。また、引率してくださった先生方、大変ありがとうございました。

I　had　a　very　good　time！

オーストラリアでの５日間

№19　仙北中学校　　菅原　千里

1　はじめに

私がこのオーストラリア研修に参加した理由は、自分の英語がどのくらい通用するのか知りたかったからです。研修当日、私は自分の英語で大丈夫なのかと不安でいっぱいでしたが、仲間に会うと少し不安が和らぎ、行くのが楽しみになってきました。飛行機がケアンズ空港に着陸したときは、「本当にオーストラリアに来たんだ」と実感が湧いてきて、これからファームステイなどをがんばろうという期待でいっぱいになりました。

2　研究テーマの設定の理由

研究テーマ「動物のために行っている環境保護の工夫について」

オーストラリアといえば、コアラ・カンガルー・カモノハシなどが思い浮かびます。このオーストラリア固有の動物たちがどのように保護されているのかを知り、私にも普段の生活の中でできることがあれば実行したいと思い、このテーマを設定しました。

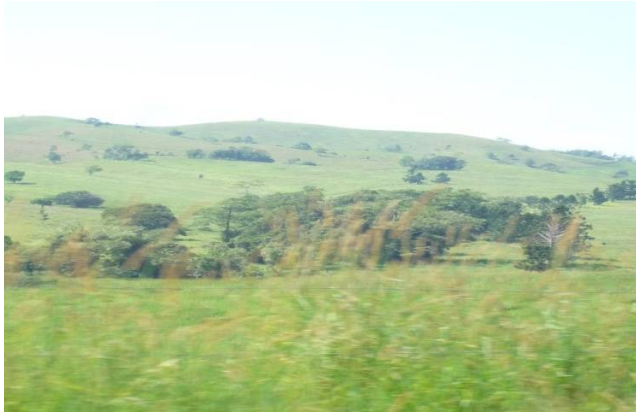
3　研究内容

＜自分で見たこと＞

・動物を守るための標識

オーストラリアでは、道路脇に動物の絵が描かれた標識をたくさん見かけました。オーストラリアには野生の動物がいろいろなところにいます。そうした動物たちが事故に遭わないように、動物に注意する標識が多くありました。

・動物にとって過ごしやすい環境



私が過ごした家や道路の周り、通ったところのほとんどが自然豊かな場所でした。そこにいたウシやウマやバッファローなどの動物たちは快適に過ごしているように見えました。その豊かな自然はとてもきれいで、高いところからだと遠くまで見渡せ、こんなところで過ごしたら気持ちいいだろうなと思いました。この自然を守ることが、動物たちにも人間にも大切なことだと思いました。

＜ファームステイ先での質問＞

ファームステイ先でオーストラリアの動物について質問をし、答えてもらいました。

・オーストラリアには動物を保護する法律があり、コアラやエミュー、ヘビなどの多くの動物たちが保護されている。

・動物園で飼われている動物は、生態や病気の研究などに役立っている。
・草などのエサが十分に育つ季節には動物の数が増える。
・カンガルーは増えすぎると、時折殺処分を行う。
・干ばつのときには多くの動物が餓死することもある。

＜その他調べたこと＞

・保護区

環境保護のため、オーストラリア政府によって保護制度が施行されています。必要に応じて地域を保護区に指定し、多くの国立公園を作っているのもそのひとつです。目的は、絶滅のおそれのある生物を保護するというものです。国立公園以外にも、保護区に指定され積極的に活動を行っているところもあります。

・コアラの保護

コアラは絶滅の危機にある動物に指定されています。主食のユーカリの木が伐採されるなど、環境破壊もその一因だそうです。保護団体が絶滅を防ぐための基金を募り、ユーカリの苗を植樹する活動が活発に行われています。

・ボランティア

オーストラリア固有の生き物を守るために、国だけでなく、民間レベルでも様々な保護活動が行われています。野生動物の救助や介護、野性動物に関する情報提供などの仕事をしています。

＜考察＞

このテーマについて調べてみて、オーストラリアでは国が制度を設け、そのルールをみんなが守っているから環境が保全され、絶滅危惧種の動植物が生きていられるのだと思いました。動物に対しての意識の高さの違いを感じました。日本にはオーストラリアのような制度はありませんが、一人一人が動植物を大事にしようと思うことで改善されると思いました。動物のために自然や環境を守ることは人間にとっても大切なことだと思います。オーストラリアに行ったことで、日本でも、動植物も人間も過ごしやすい環境にしていきたいと思いました。

4　エピソード

オーストラリアでのたくさんの体験の中で特に心に残っていること

＜１日目＞　・バナナマフィン作り　・ファームステイ開始　・農場で乳搾り体験

いよいよファームステイがスタート。パパやママの第一印象は「やさしそう」でした。初めてなので最初は緊張しましたが、パパからの質問にグループのみんなで協力して答えたりしたことで、パパともみんなとも仲良くなれた気がしました。その後みんなでやったＵＮＯは日本と少しルールが違っておもしろかったです。

＜２・３日目＞　・滝巡りとピクニック　・プールで水泳
・お土産で日本を紹介　・カレー作り

ファームステイ先への日本からのお土産は折り紙、はし、せんす、色紙などでした。グループのみんなでお土産の説明をし

ました。ジェスチャーも使って伝えました。その後パパと一緒に折り紙をしましたが、パパに折り方を教えるときは英語で伝えるのが大変で、日本語だったらすぐに伝えられるのにと思いました。でも、ようやく伝わったときは、パパも折り方が分かったと大きくうなずいてくれて、私はうれしかったし、やっぱり英語はおもしろいと思いました。

また、みんなで日本のカレーを作ってパパやママに食べてもらいました。少しスープみたいになりましたがファームステイ先の家族が何回もおいしいと言ってくれたのが心に残っています。

＜４日目＞　・オージーキッズとの交流　・土ボタルの鑑賞

オージーキッズはとてもフレンドリーで、最初会ったときすぐに「ハロー」と言ってくれました。どきどきしたけれど「ハロー」と返したら笑ってくれたので安心しました。障害物競走では、オージーキッズとも意見を出し合って相談し、協力してできたので楽しかったです。食事のときには、一緒のテーブルになったオージーキッズと名前や歳を聞いたりして話をしました。自分たちの英語が伝わらないときは違う言い方をしたりして伝えました。相手もゆっくり話してくれたので聞き取ることができました。英語で伝え合うことができてとてもうれしく、自信にもなりました。

＜５日目＞　・グリーン島の観光　・ケアンズ散策

オーストラリアは海がきれいで、グリーン島までの船もとても気持ち良かったです。私はグラスボトムボートに乗って海の中を見ました。サンゴがきれいで、間近で魚やカメを見ることができて感動しました。きれいな海を守ることも海の中の生物を守ることにつながっていると思いました。

5　海外で活躍している日本人にインタビュー

宿泊した自然の家スタッフの方々、ツアーガイドを目指す貞丸さん、旅行会社のケアンズ支店長の黒田さんにインタビューしました。

Q：オーストラリアに来た理由は何ですか？

A：世界に飛びだしたくて。オーストラリアが好きでいろいろ経験したかった。夢を叶えるため。外国で聞いた英語がかっこよかったから。　など

Q：どうやって英語を覚えましたか？
A：外国人とたくさん話す。英語科の学校で身につけたものが外国で通じなかったことが悔しくて、勉強した。映画を英語で見たり、字幕をつけて見たりした。　など

Q：会話をしていて伝わらなかったときはどうしますか？
A：他の言い方をする。ジェスチャーをつける。遠回しに伝える。絵を描く。

Q：話をしていて大変なことは何ですか？
A：なまりがわかりにくい。

Q：オーストラリアに来て良かったことは何ですか？
A：いろいろな文化を体験できる。出会いに恵まれている。

日本で仕事をしていたレベッカさんにも聞きました。
Q：どうやって日本語を覚えましたか？
A：話して覚える。文脈をみて推測したり。

Q：日本のいいところは何ですか？
A：自然がきれい。人が優しい。文化が違って面白い。

このようにたくさん質問させてもらい、オーストラリアで活躍している日本人の方々の経験したことやオーストラリアに来た理由などについて教えてもらいました。自分の夢や目標のために英語や日本語など、生まれた国の言葉と異なる言葉を覚えて外国で活躍している皆さんのお話を聞いて、私もこれから自分の目標に向かっていろいろなことに挑戦していきたいと思いました。

6　海外研修を終えて

今回のオーストラリアへの海外研修は自分の英語を試すいい機会になったと思います。自分の伝えたいことをすぐに伝えられなくて、英語って難しいと思うと同時に、英語はやっぱりおもしろいとも思いました。これからは自分の英語力を伸ばして、また外国に行ってもしっかり自分の気持ちを伝えられるようになりたいです。この海外研修ではたくさんのことを経験して、とても成長できた一週間だったと思います。今回経験したことを、これからに生かしていきたいと思います。

ファームステイ先の家族をはじめオーストラリアの人々はとてもやさしかったです。話すときはゆっくり話してくれて、分からないときは分かるまでいろいろな言い方で話してくれました。オーストラリアがとても好きになりました。

オーストラリアで学んだこと

研究テーマ：よりよい自然環境を未来に残していくためにはどうするべきか？

№20　太田中学校　　田口　菜央

1. はじめに

私がこの海外派遣事業に参加した理由は、二つあります。

一つは、これまで身につけてきた英語が、海外でどれほど通じるのかを知りたかったからです。もう一つは、外国に行くことで自分の世界を広げてみたいと思ったからです。

今回この海外研修に参加することができ、一生の思い出になる経験をすることができました。

2. テーマ設定の理由

現在、私たちの住んでいる地球では、異常気象が発生、北極や南極の氷が溶け海面が上昇するなど、地球温暖化によるさまざまな問題が起きています。学校の授業で地球温暖化について学習したとき、日本は二酸化炭素排出量が多い国の一つであることを知りました。このことから私は地球温暖化がこれ以上進行しないようにするためにできることはないだろうか？　と考えました。

そこで「よりよい自然環境を未来に残していくにはどうするべきか？」というテーマを設定し、主にオーストラリアの自然環境について調べることにしました。

3. 調査内容

私は、オーストラリアの自然環境についてより深く知るため、植物と水の二つについて調べました。また、オーストラリアの方々の地球温暖化に関する考えや、家庭における ECO な取り組みを知りたかったため、ファームステイ先の家族の生活について注意深く観察し考察しました。

（1） 植物の生態

オーストラリアには、今まで見たことがない植物がたくさん生い茂っていました。私が住んでいる秋田は自然が豊かで、山にはスギなどの針葉樹がたくさん生えています。しかし、オーストラリアにはスギなどの針葉樹はなく、ヤシやバナナの木など南国に育つ木がたくさんあり、とても珍しく感じました。その中で一番驚いたのは、ホストファザーのハンズさんにドライブに連れていってもらったときに見たカーテンフィグツリーです。またの

名を「絞め殺しのイチジク」というそうです。

理由を調べてみたところ、さまざまな説がありましたが、

鳥などが、イチジクを食べる

↓

鳥が親木にとまり、フンをする

↓

フンに含まれていたイチジクの種が枝の上などで発芽する

↓

根を親木に絡ませどんどん成長していく

↓

親木はきつく絞められ、死んでしまう

ということでした。

↑ **カーテンフィグツリー**

そんなカーテンフィグツリーですが、ジブリアニメの「天空の城ラピュタ」のモデルになったとも言われています。カーテンフィグツリーの間から差し込む光が幻想的で、別世界にいるような気分になりました。

（2）水について

ファームステイ中に一番印象強かったのは、オーストラリアの方々は水をとても大事に使っているということです。

ファームステイさせていただいた Voss さんのお宅では、近くにある川から水をとっているそうです。そして、あまり水を使わないように、さまざまな工夫がされていました。例えば、洗濯を毎日せずに何日分かをまとめて行ったり、スプリンクラーを使って効率よく植物に水をやったりしていました。中でも驚いたのが、一人当たりのシャワーの時間が５分程度ということです。日本では時間を気にせずに使っていたので、このときばかりは時間を短縮しながら急ぎました。

また、オーストラリアのミネラルウオーターは５００ｍｌが１本３００円くらいで、日本の倍以上の値段でした。オーストラリアの方々は、日本人よりもずっと水のことを考えて生活し、大切にしていると思いました。

4. 考察

オーストラリアの方々は、環境について深く考えていると思いました。深く考えて生活しているからこそ、オーストラリアの自然は保たれ、動物たちも自然の姿で生きていくことができると思います。

それに比べ、日本はオーストラリアよりも緑が少なく、空気もあまりきれいとは言えません。このまま生活し続けることでさらに環境が悪くなり、安心した生活ができなくなってしまうおそれがあります。

だから私は、今までよりも毎日の生活の中での環境保護への意識を高めることが大切だと感じました。小さな「ECO」を心がけ、身近なできるところから変えていきたいと思います。そのためには、

①水の出しっぱなしを止める。
②エコバッグを使うなどして、ゴミを減らす。
③出かけるときはできるだけ歩く、または自転車を使うなどして、二酸化炭素などの温室ガスを排出する車の使用を減らす。

などの工夫を実践したいと考えています。また、家族や友達にも「ECO」の輪をどんどん広めて、環境がよくなるように努力したいです。そのような積み重ねが、よりよい自然環境を未来に残すために大切なことだと思います。

5. ファームステイの出来事

私は、ホストファザーのハンズさんとホストマザーのマリータさんの家にファームステイさせていただきました。はじめは緊張しましたが、2 人とも明るく、いつもにこにこしていて、緊張がすぐにほぐれ、私も笑顔になりました。家はおしゃれで、たくさんの緑に囲まれていました。

私たちが泊まった部屋は、カラフルでかわいらしいものでした。部屋に、扇子や招き猫などがたくさんあって驚きました。2 人とも日本に興味があるようでした。

～1 日目～

昼食後、ママが敷地内を案内してくれました。Voss さんの家には、サボテンやバナナ、パイナップル、スターフルーツなど、今まで見たことのないものも含め、さまざまな植物が植えられていました。また、にわとりやオウム、犬など、たくさんの動物たちが私たちを出迎えてくれました。

～2日目～

パパが滝めぐりに連れて行ってくれました。ミラミラ滝など、たくさんの滝の前で写真を撮りました。壮大な自然に感動しました。

帰宅後、家のプールに入りました。深さが 2 メートルもあったので、足だけ入ってみんなで遊びました。

そのあと、ママがショッピングに連れて行ってくれました。オーストラリアの店は広くて品数も多く、見るものすべてが新鮮で楽しかったです。

～3日目～

パパが鉱物の店と、チョコレート・チーズ専門店に連れていってくれました。鉱物の店では、きれいな宝石をたくさん見ることができました。中でも一番きれいだったのは、2メートルを超える大きなアメジストでした。きらきら光り輝いていて、幻想的でした。

チョコレート・チーズ専門店では、パパがチョコレートを買ってくれました。見た目がとてもかわいらしく、食べるのがもったいないほどでした。

～最終日～

最終日、マンガリーフォールズ自然の家に向かう前に、パパがオウムのデイジーをみんなの肩にのせて写真を撮ってくれました。初めてだったので、ドキドキしました。爪が痛かったけれど、とてもかわいかったです。

その後、パパがマンガリーフォールズまで送ってくれました。お別れは寂しかったけれど、最後に笑顔でお別れできたのでよかったです。

6. オーストラリアでの思い出

オージーキッズとの交流

ファームステイ先からマンガリーに集合した後、オージーキッズと一緒にいかだ作りや、障害物競走、ダンスなどをして楽しみました。いかだ作りでは、オージーキッズと協力して作ったいかだを池に浮かべて競争したり、泳いだりしました。障害物競走では、高い壁を飛び越えたり池に飛び込んだりして、泥だらけになって遊びました。ダンスは振付が難しくて大変でしたが、みんなで楽しむことができました。

グリーン島での出来事

翌日には、船でグリーン島へ行きました。海がきれいに透きとおっていました。

シュノーケリングの道具を借り、海へ飛び込みました。すると、色鮮やかな魚たちや、ウミガメを発見！　とてもきれいで

感動しました。

7. 海外で活躍している日本人

私は将来、英語を使う仕事に就きたいと考えています。この研修では海外で働いている日本人の方々から貴重なお話を聞くことができて、とても参考になりました。

日本人の方々に、オーストラリアに来ようと思ったきっかけを聞いてみたところ「海外にあこがれていたから」という答えが多かったです。私も、以前から海外に興味があったので、共感できました。

また、コミュニケーションをとるときに大切なことを聞いたところ、笑顔や、目を合わせて話すことが大事だということでした。私も、緊張せずに相手と楽しく会話できるように、この二つを心がけて生活していきたいと思いました。

私は今まで、「自分の英語が通じなかったらどうしよう」と、海外に行くのが不安でしたが、お話を聞いて、「英語をもっと学びたい！」という思いが強くなりました。また、今まで知らなかったことが分かり、視野を広げることができたように思います。

8. 海外研修を終えて

私は、この海外研修で、たくさんの貴重な体験をすることができました。

オーストラリアに行く前は不安でいっぱいでしたが、いざ行ってみると、とても楽しく充実した日々を送ることができ、あっという間に研修が終わってしまいました。

私は、自分の英語が通じるかどうか不安でしたが、分かりやすいようにジェスチャーを入れて話すなど工夫をして話しました。すると、オーストラリアの方々は、私の伝えたいことを理解しようと真剣に話を聞いてくれました。伝えようと努力することは大事だと、改めて実感しました。

今回の貴重な体験を今後の生活に生かしていきたいと思います。この海外派遣事業にご協力してくださった方々、本当にありがとうございました。

大仙市教育委員会

0214